

J: 沼隈郡の部

本郡は県東南部に位し、山脈が縦横に起伏するが高嶺峻峰にとぼしい。東は芦田川を隔て、福山市及深安郡に界し、北は一連の山脈を限り芦品郡と接し西は御調郡及尾道市に界し、南は瀬戸内海に面して数個の島嶼を基布して遠く香川県に相対する。

本郡を主として地形並に位置により2地区に区分する。

(1) 地区の概況並に所屬町村名

第1地区：津郷村、瀬戸村、赤坂村、神村、本郷村、東村、西村、高須村、今津町、松永町、柳津村。

本地区は郡南部内陸部を主する地帯で本郷村・神村及び芦品郡福相村・有磨村にまたがる絵取松山を中心とした一連の山系により芦品郡と境し、河川の大なるものはいづれも芦品、御調の諸郡に発し、その南流して海に注ぐ芦田川、藤井川の流域に比較的広轄な農耕地を形成する。

耕地の標高は主として100m以下の所が多く、30%程度の畑を有し、水田は西村・高須村・今津町に於ては約50%一毛作田であるが、他は70~80%二毛作田としている。藺草の栽培地帯である。

第2地区：金江村、藤江村、浦崎村、横島村、田島村、千年村、山南村、熊野村、水呑町、鞆町。

郡南部の半島部及び島嶼部で、中央部に海拔400m程度の熊ヶ峰・彦山・夏霧山等が縦走し、東部は芦田川沖積地に急斜する。金江村・千年村・山南村・熊野村・水呑町、(約50%)以外は畑作を主とし、特に島嶼部は水田は極めて少ない。水田の約70%は二毛作田である。水田には藺草も栽培し、畑は麦・甘藷の外煙草・雑穀・園芸作物を栽培している。耕地の主な部分は中央山地帯は標高0~200mの間にあるが、その他は100m以下である。

(2) 地区別調査結果

1 水田の部

第1地区 (J-1)

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土							下層土の状態
			酸度 YI	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm	土性	色	
1242	津之郷村谷尻134	小林 一二	0.3	5.0	0.11	含	12	SL	灰 褐	褐色SL, 40~70cm 黒褐色SL, 以下S
1244	" 合戸	広安静太郎	0.4	5.4	0.07	"	16	SL	暗灰褐	暗黄褐色S, 30~50cm 灰褐色S, (漂白層) 50~70cm 暗灰褐以下黒色S
1245	" 馬場	多田圭太郎	0.3	5.8	0.08	"	12	SL	"	灰褐色S, 40~50cm 暗褐色S, 以下地下水灰褐色S
1232	瀬戸村 昆屋	佐々木五郎	0.5	4.8	0.08	"	12	SL	黄 褐	黄褐色SL, 鉄集積層70cm 以下暗黄褐色S
1233	" 田平1989	青山 宜雄	1.6	5.3	0.07	"	13	L	暗黄褐	黄褐色S, 30~60cm 黄褐SL, 以下礫土
1234	" 長和1656	友滝 安夫	1.4	4.8	0.09	"	13	SL	暗灰褐	明黄褐色L, 40cm 以下暗黄褐CL
1235	"	直原 秋男	0.4	5.3	0.09	"	12	SL	暗黄褐	褐色SL
1236	"	矢野ヨミヨ	1.0	5.2	0.09	"	13	L	"	褐色SL, 30cm 以下礫土
1237	" 山北	木村 茂	0.7	5.3	0.07	"	11	L	"	暗黄褐色L, 30~80cm 暗黄褐色S, 以下礫土
1238	" 地頭分大島	石淵 隆男	0.8	4.8	0.09	"	13	SL	灰 褐	灰褐SL, 40cm 以下集積層黄褐色S
1240	" 田中2088/3	山本 公一	1.1	4.5	0.08	"	7	SL	"	礫土
1241	" 志田原	高宗 角一	1.1	4.3	0.07	"	13	L	"	灰褐色L, 30cm 以下礫層
1247	赤坂村	乗田 鹿次	0.3	5.5	0.10	"	15	L	暗黄褐	褐色CL, 50~70cm 灰褐色L, 以下緑色L
1249	" 宇戸	柿磨 仁助	1.2	4.3	0.08	"	14	CL	明黄褐	明黄褐色SL, 30~70cm 褐色L, 以下暗黄CL

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土					下 層 土 の 状 態		
	町村名	字番地		酸度 Y1	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm			土性
1250	赤坂村	早戸道上	村上己之助	0.4	4.6	0.09	含	10	L	黒 褐	灰褐色L, 40~80cm 黒褐色L, 以下 緑灰色SL
1251	"	亀井921	岡田七右左門	0.7	4.3	0.08	"	12	L	暗灰褐	暗黄SL, 55cm 以下灰褐色S
1253	"	長者原2439	三原友四郎	0.4	4.6	0.09	含				
1254	"	鈴谷	森田 次郎	0.5	4.6	0.09	"	14	L	暗灰褐	暗黄褐SL, 65cm 以下黒褐色SL
2140	神 村	大日5774	神野 茂十	2.9	5.1	0.16	"				
2141	"	" 5774	"	1.3	5.0	0.10	"	12	SL	灰 褐	黄褐色L, 30cm 以下黄褐色CL
2142	"	羽根尾	小林 唯一	0.8	5.2	0.15	"	17	SL	"	鉄集積層20~65cm 灰褐色S, 以下地 下水
2143	"	平	平松 雄	0.7	5.1	0.11	"	14	SL	暗黄褐	黄褐色SL
2144	"	若宮原	井上 和一	1.8	5.2	0.08	"	14	SL	暗灰褐	灰褐色S, 30cm 以下黄褐色S
2145	"	奥田下	水尾 守	0.3	5.2	0.13	"	16	SL	"	灰褐色SL, 20~50cm 黄褐色S, 以下 礫層
2146	"	奥田上	国本 弘	3.6	4.7	0.08	"	10	L	暗黄褐	黄褐CL, 20~30cm 青色CL, 以下礫 層
2147	"	西山	井上 吟助	1.1	5.2	0.12	"	18	SL	灰 褐	黄褐色L, 25cm 以下暗黄褐色礫層
2151	本郷村	長草田2299	横町 源市	0.6	5.7	0.13	"	13	SL	"	灰褐色S, 25~50cm 黄褐色S, 以下 灰褐色S
2152	"	横山山田	竹本医左衛門	1.6	5.1	0.20	"	14	L	暗灰褐	黄褐色L, 20~60cm 暗黄褐色L, 以下 礫土
2153	"	町田	上野 餘一	0.4	5.8	0.16	"	13	SL	"	S
2155	"	平田3305	森下 年夫	0.8	5.9	0.16	"	13	SL	灰 褐	黄褐色CL, 20~80cm 鉄集積層暗黄 褐色L, 以下灰褐色SL
2156	"	二池下	日野 俊夫	1.5	5.8	0.23	"	14	L	暗黄褐	暗黄褐CL
2157	東 村	十郎丸	小川 琴一	0.6	5.7	0.26	"	17	L	"	灰褐色L, 40cm 以下黒褐色CL, 礫層 密
2158	"	海地田	大塚 満義	0.1	5.8	0.24	"	15	L	灰 褐	黄褐色L, 95cm 以下灰褐色
2162	西 村	長黒296	井上 徹夫	0.5	5.3	0.15	富	23	SL	"	褐色SL, 40~50cm 灰褐色S, 以下礫 土
2163	"	大町	高橋 稔	0.3	5.7	0.22	"	24	SL	"	暗灰褐色SL, 60cm 地下水以下礫土
2167	高須村	三筆間	川村. 種助	0.4	5.6	0.20	"	20	SL	"	青色SL, 25cm 以下礫土
2168	"	東新開	村上 峯一	0.6	5.7	0.15	含	16	SL	暗黄褐	鉄集積層暗黄褐色SL, 60cm 以下青 色地下水
2169	"	切戸	川上 展雄	0.3	6.0	0.22	富	15	SL	"	暗黄褐色SL, 60cm 以下地下水
2170	"	西新開	垣本 太郎	0.4	5.7	0.17	"	18	L	"	青色L, 25cm 以下青色SL
2171	"	筒井	村上 四郎	0.2	6.2	0.26	含	20	SL	"	暗黄褐L, 25cm 以下黄褐色L
2174	今津村	大明神	大宮 忠一	0.2	6.2	0.22	富	19	SL	"	青色L, 40cm 以下地下水
2175	"	前新開	三藤 林二	0.1	5.9	0.19	"	17	S	灰 褐	青色S, 30cm 以下地下水
2176	松永町	槻村602	葉井吉次郎	0.3	5.8	0.17	"	13	SL	"	黄褐色S, 60cm 以下地下水
2177	"	小代新開	片山 武義	1.9	5.0	0.08	含	17	S	"	暗黄褐色S
2178	"	外小代25	佐藤 静一	0.3	6.1	0.16	"	20	SL	緑灰褐	灰褐色S
2181	柳津町		野島 正夫	0.4	6.0	0.23	"	20	L	灰 褐	暗黄褐色L, 40cm 以下暗灰褐色S

本地区は柳津村、及び本郷村以西に古生層がみられ、他は主として花崗岩である。

西村・高須村・今津町・松永町等は腐植に富むが、概して含む程度である。耕土の土性は東村・赤坂村等に壤土がみられるが他は主として砂壤土である。

置換酸度は0~2で一般的に低く、瀬戸村・神村・本郷村等に微酸性土壤が多いが、他は何れも中性に近い。水浸液のPHは4.3~6.2、置換石灰は0.07~0.3%で本郷村・今津町・松永町以西はPH6前後が多く

石灰も0.2%近くであるが、東部の町村は何れもPH5.5以下で置換石灰も0.1%前後が多い。

聴取調査の結果では、堆肥は高須村・西村・神村・本郷村に反当400~600貫施用され、松永町・赤坂村は200貫程度で、他は少い様である。石灰は本郷村・高須村・東村・松永町の一部に10~30貫程度施用した所があるが他は概して施用しない所が多い。

第2地区 (J-2)

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
	町村名	字番地		酸度 Y1	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性		色
2190	金江村	片地2842	野島未三郎	0.1	6.2	0.27	含	19	SL	暗灰褐	灰褐色SL, 40cm以下礫土
2191	"	薬江	佐藤吟藏	1.7	5.0	0.16	"	16	SL	"	青色SL, 25~35cm黄褐色S, 以下礫土
2192	"	賀茂田	宮沢功	0.1	5.7	0.23	"	12	L	"	黒褐色L, 30cm鉄集積以下礫土
2193	"	薬江	箱田茂一	1.1	5.2	0.23	"	16	L	暗黄褐	暗黄褐色L, 30~50cm青色L
2196	藤江村	新開	松山佐七	1.3	6.4	0.27	富	14	SL	暗灰褐	青色L, 30cm以下黄褐色L
2198	"	中組405	壇上仁一	6.9	5.3	0.26	"	12	L	暗黄褐	暗黄褐色L
2203	浦崎村	川原田2055	神原登	3.6	5.1	0.14	含	14	L	灰褐	黄褐色L, 25cm以下黄褐色SL, 80cm地下水
2204	"	王丁目沖	神原三好	0.2	5.9	0.18	"	10	SL	暗灰褐	青色SL, 20cm以下暗灰褐色S, 80cm地下水
2205	"		藤井実	1.0	7.2	0.13	"	30	L	暗黄褐	暗黄褐色L
3230	百島村	浦脇	旗手享一	0.3	7.3	0.07	"	25	SL	灰褐	灰褐色SL, 40cm以下地下水暗黄色SL
3231	横島村	苗代	渡辺寅一	0.1	7.8	0.17	"	15	SL	暗黄褐	灰褐色S, 70cm以下母材(未風化物)
3236	田島村	内浦	桑田次郎		5.6		"	15	SL	暗灰褐	暗灰褐色SL, 25cm以下地下水暗黄色SL
2212	千年村	草深浜川	池上善一	0.6	5.9	0.38	"	16	L	暗黄褐	暗灰褐色L, 20~70cm暗黄褐色L, 以下礫土
2213	"	片山沖	友野清二	0.9	5.9	0.19	"	15	L	"	暗黄褐色L, 30cm以下礫土
2214	"	将木角	岡本ユフサ	0.3	6.3	0.15	"	10	SL	灰褐	暗黄褐色SL, 20~30cm暗黄褐色S, 以下礫土
2219	山南村	上森迫	芝垣静一	1.5	5.0	0.35	"	10	L	暗黄褐	暗黄色CL, 盤層
2220	"	小坂	箱田荒一	0.6	6.0	0.16	"	13	SL	黄	黄褐色S, 70cm以下礫土
2223	"	法仏	須野田清吉	0.3	5.6	0.21	"	11	L	"	黄褐色L
2225	熊野村	一本松133	柳井徳一	1.6	5.2	0.10	"	11	L	灰褐	黄褐色L, 30cm以下盤層密
2228	"	黒尾	門田英一	2.8	6.4	0.16	"	9	L	"	黄褐色L, 60cm以下盤層密
2230	"	立中	前川清一	0.1	5.2	0.11	"	16	L	暗黄褐	黄褐色CL, 40cm以下盤層密
2231	"	土居原2960	佐藤典之		5.9	0.14	"	13	L	"	黄褐色L, 35cm以下礫土
2232	"	甲谷	森田豊	2.8	5.1	0.13	"	12	L	灰褐	黄褐色L, 25cm以下盤層密
1224	水呑町	大川下新田	岡田勇	0.6	5.0	0.07	"	14	SL	"	灰褐S, 70cm以下地下水
1225	"	竹ヶ端	前田準次	0.4	5.4	0.06	"	11	SL	"	鉄集積層灰褐色S, 35cm以下緑色CL
1226	"	松前	杉原穂太郎	1.3	4.7	0.06	"	14	UL	暗黄褐	暗黄褐CL, 18~32cm暗黄褐L, 以下緑色CL
1227	"	釣ヶ端新開	中原行治郎	0.8	5.5	0.07	"	12	SL	"	灰褐色CL, 45cm以下緑色CL
1231	"	井上新開	宇田栄造		4.5	0.04	"	12		"	鉄集積層20~45cm暗黄褐色S, 以下緑色S, 地下水
2238	鞆町	水呑大谷	藤井益夫	1.1	5.6	0.15	富	15	L	"	褐色L, 25~35cm暗黄褐L, 以下暗灰褐色SL

本地区も一般に古生層が多いが、千年村と鞆町の南部及び熊野村に、花崗斑岩及び花崗岩がみられ、百島村・横島村・浦崎村は花崗岩である。又田島村は北部が古生層で他は花崗斑岩が多い。一般に腐植は含む程度で

少なく、耕土の土性は千年村・鞆町・熊野村が壤土で他は大體砂壤土である。

置換酸度は0~8で、約50%が微酸性土壤で島嶼部は中性に近い。水浸液のPHは4.6~7.0で5.3前後が多く、島嶼部は特に高い。金江村・藤江村・千年村等に置換石灰の0.2%以上の所もみられるが一般に石灰含量は中程度以下である。

堆肥は山南村・熊野村・鞆町・千年村に反当400貫程度施用が多く、他は100~200貫の所が多い。一般に石灰の施用は見られない。

2 畑の部

第1地区 (J-1)

整理番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土							下層土の状態
			酸度 Y1	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性	色	
1243	津之郷村平木2197	田曾銀二郎	0.3	6.0	0.10		12	SL	暗黄褐	暗黄褐色SL, 30cm以下黄褐色礫土
1248	赤坂村 赤坂小原	桜田 悟一	0.3	5.8	0.10	含	11	L	暗 褐	褐色L, 30cm以下褐色CL
1252	〃 福相村新庄南平	下官太郎	0.3	4.8	0.06		8	L	灰 褐	明褐色礫を含むC
2148	神 村	平 茂一	4.4	7.2	0.16	含	30	S	暗黄褐	黄褐色CL
2149	〃 西山1482	牧 良一	赤変	5.1	0.23	〃	27	L	灰 褐	灰褐色L
2150	〃 西山1640	牧 元助	0.5	5.7	0.13	〃	21	SL	黄	黄色SL
2154	本郷村 天神山	上野 餘一	8.2	5.3	0.20	〃	30	L	暗黄褐	暗黄褐色CL
2159	東 村 天保	福田 浦一	7.1	5.0			45	S	〃	暗黄色SL
2160	西 村 兵庫1481の2	高橋 叟一	0.6	5.0	0.12	含	30	S	〃	黄褐色SL
2161	〃 石字津	広上 関助	0.1	5.9	0.16	〃	17	SL	〃	黄褐色SL, 30cm以下礫土
2164	高須村 後	杉谷 満	0.2	5.8	0.11	〃	17	S	〃	黄褐色S
2165	〃 横路後山	樋上 栄吉	0.1	6.0	0.15	〃	30	S	〃	黄褐色S, 50cm以下灰褐色S
2166	〃 峠	豊田伊佐吉	0.2	6.1	0.17	〃	30	S	灰 褐	黄褐色S, 40cm以下地下水
2172	〃 椎屋垣内	岡田 勝見	0.1	6.0	0.12	〃	18	S	暗黄褐	黄色SL
2173	今津村 仲間1481	大宮 忠一	0.1	6.5	0.16	富	14	S	〃	黄褐色SL
2179	柳津町	野島 正夫	0.2	6.3	0.18	含	16	CL	黄 褐	明褐色CL
2180	〃	村上 雪子	0.1	6.4	0.26	〃	20	CL	〃	明褐色CL

本地区の畑は耕地の30%で、腐植含量は何れも含む程度である。耕土の土性は、赤坂村・柳津村等に壤土がみられるが他は主として砂土~砂壤土が多い。

置換酸度は神村に一点弱酸性、東村に一点強酸性がみられるが他は中性に近く、水浸液のPHは4.8~6.5で水田に比しPHの高い所が多い様である。置換石灰は0.1~0.2%で中程度以下である。

堆肥は反当300~400貫施用し、石灰の施用はみられない。

第2地区 (J-2)

整理番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土							下層土の状態
			酸度 Y1	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性	色	
2188	金江村 池上	大村隆三郎	0.3	5.5	0.31	含	10	CL	黄 褐	暗黄褐色CL
2189	〃 家奥265	箱田 利一	0.6	5.8	0.19	〃	35	L	暗 黄	黄色SL

整理 番号	調査地点		作 氏 名	土						下層土の状態	
	町村名	字番地		酸度 V ₁	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm	土性		色
2194	藤江村	池浜666	坂田 佐一	2.3	5.6	0.14	含	15	SL	暗黄褐	黄褐色L
2195	"	中原組1981	神原友太郎	4.2	6.2	0.13	"	15	L	"	黄色L
2197	"	出所	田内 梅夫	0.6	6.3	0.2	"	45	CL	"	黄褐色CL
2199	浦崎村	犬吠	檀上佐保恵		7.1	0.09	"	17	S	黄 褐	黄褐色S, 80cm以下黄色CL
2200	"	堂々	藤井源太郎	2.4	5.4	0.18	"	40	L	"	黄褐色L
2201	"	大島4100	生田 甫	0.6	5.8	0.23	"	40	S	暗黄褐	暗黄褐色S
2202	"	塚尾4561	渡辺鹿太郎	0.1	7.1	0.18	"	20	S	灰 褐	灰褐色S
3226	百島村	丸石502	藤本 朝光	0.3	6.6	0.08	"	20	SL	暗 黄	黄褐色礫を含むS
3227	"	池上1216/2	赤松 庄吉	赤変	7.9	0.08	"	20	SL	黄 褐	黄褐色S
3228	"	古家219	村上 義子	0.4	6.5	0.07	"	20	SL	"	黄褐色SL
3229	"	福田1798	西崎 繁代	0.3	8.1	0.10	"	20	SL	灰 褐	暗黄色S
3232	横島村	奥上	村上 士儀	0.9	7.3	0.09	"	20	SL	黄 褐	黄褐色SL
3233	"	青山	渡屋正次郎	0.5	7.0	0.11	"	20	SL	"	"
果3234	"	江良963	中尾 吉子	0.5	5.2	0.09	"	20	SL	"	"
3235	横島村	新涯	園田 実	赤変	6.8	0.10	富	20	SL	"	25cm以下地下水黄褐色S
3237	田島村	箱崎	金田 耕一	1.1	5.6	0.08	含	16	L	暗 黄	暗黄色礫に富むL
3238	"	奥起	藤原 栄吉	0.2	7.8	0.11	"	15	L	黄 褐	"
3239	"	釜谷	藤田 正人	0.3	8.1	0.17	"	15	L	暗黄褐	明黄褐色C
3240	"	大浦	西岡 惣一	0.3	8.2	0.16	"	20	L	"	暗黄色CL
3241	"	南	檀上 孝一	0.2	7.4	0.11	"	12	SL	黄 褐	黄褐色SL
2206	千年村	何畑	佐藤 重助	0.5	6.2	0.25	"	11	L	暗黄褐	黄褐色L
2207	"	奈良原	曾我 静子	0.2	6.4	0.2	"	16	SL	"	暗黄褐色SL, 25cm以下礫土
2208	"	川谷1105	神原 朝一	2.0	6.7	0.14	"	19	S	"	暗黄褐色S, 45cm以下礫土
2211	"	西谷381の1	寺岡 喜作	1.9	5.6	0.16	"	20	SL	黄	暗黄褐色SL, 45~70cm黄色S, 以下礫層
2216	山南村	上山南150	倉田 弘	0.8	6.1	0.09	"	25	SL	暗黄褐	黄褐色L, 45cm以下暗黄褐色SL
2217	"	鷹巣	桑田猪三郎	0.1	7.9	0.18	"	13	L	"	明褐色CL
2218	"	法仏	三浦 又六	0.5	6.2	0.16	"	24	SL	"	暗黄褐色SL, 40cm以下黄褐色CL
2224	熊野村	北迫丙180	小野一太郎	0.4	6.5	0.21	"	15	L	"	暗黄褐色CL
2226	"	南坊2255	田川伊三夫	赤変	4.9	0.19	"	24	L	"	黄褐色CL, 70cm以下礫土
2229	"	込山	宮本鶴次郎	0.8	6.0	0.16	"	21	L	"	暗黄褐色CL
1228	水呑町	釣ヶ端山崎 新開	小島 武雄	4.1	4.7	0.04	"	17	SL	"	黄褐色SL, 40cm以下紫灰色CL, 地下水
1229	"	釣ヶ端	内林源太郎	0.7	5.2	0.05	"	14	S	"	灰褐色S, 20cm以下灰褐色CL
1230	"	福寺分	倉田 解由	0.3	6.2	0.08	"	12	CL	黄 褐	明褐色C
2233	瀬 町	中之池2987	坂本喜一郎	0.1	6.2	0.13	"	36	SL	暗黄褐	暗黄褐色SL
2234	"	後地	岡本 芳明	0.4	6.6	0.17	富	24	SL	"	黄褐色SL
2235	"	"	藤井 徳枝	赤変	7.2	0.24	"	28	SL	"	暗黄褐色礫に富むSL
2236	"	田尻向山	下山 啓夫	0.4	6.0	0.19	含	20	L	暗黄褐	黄色L, 30cm以下礫土
2237	"	大平田尻	佐藤徳次郎	0.4	6.5	0.23	"	30	礫含 L	"	礫土

本地区の畑は耕地の40~70%を占め島嶼部は殆ど畑である。腐植含量は含む程度で少なく、耕土の土性は金江村・藤江村・田島村・熊野村に壤土がみられ他は砂土~砂壤土である。

置換酸度は概して低く、水呑町・藤江村・浦崎村・千年村等に酸性土壌がみられる外は概して中性に近い。水浸液のPHは4.8以上8近くまで広く分散しているが高い所が多い。置換石灰は0.2以下が83%もあり、石灰含量は多くは中程度以下である。

堆肥は反当300~400貫施用しており、島嶼部では海藻類、魚肥の施用がみられる。石灰は何れも施用されて居らない。

(3) 郡 総 括

置換酸度、石灰含量、PH及腐植含量による程度別点数表

項目 地区 程度	置換酸度 Y ₁							置換石灰 %						
	0~	1~	3~	6~	15以上	平均値	0~	0.1~	0.15~	0.2~	0.25~	0.3以上	平均値	
	0.99	2.99	5.99	14.99			0.09	0.14	0.19	0.24	0.29			
水田	1	32	13	1	0	0	0.6	19	7	10	8	2	0	0.14
	2	14	10	1	1	0	1.2	6	6	8	3	3	2	0.17
	郡計	46	23	2	1	0	0.8	25	13	18	11	5	2	0.15
	同比率	63.8	32.0	2.8	1.4	0		33.7	17.6	24.3	14.9	6.8	2.7	
畑	1	14	0	1	2	0	1.3	1	6	6	2	1	0	0.15
	2	32	5	2	0	0	0.8	11	9	12	6	1	1	0.14
	郡計	46	5	3	2	0	0.9	12	15	18	8	2	1	0.15
	同比率	82.1	8.9	5.4	3.6	0		21.4	26.8	32.1	14.3	3.6	1.8	

項目 地区 程度	水浸液 PH									腐植		
	4.5以下	4.6~5.0	5.1~5.5	5.5~6.0	6.1~6.5	6.6~7.3	7.4以上	平均値	含む	富む	頗富	
水田	1	4	10	14	15	3	0	0	5.3	38	8	0
	2	1	4	8	10	3	2	1	5.7	26	3	0
	郡計	5	14	22	25	6	2	1	5.5	64	11	0
	同比率	6.7	18.7	29.4	33.2	8.0	2.7	1.3		85.2	14.8	0
畑	1	0	3	2	7	4	1	0	5.8	13	1	0
	2	0	2	4	7	11	8	8	6.5	37	3	0
	郡計	0	5	6	14	15	9	8	6.3	50	4	0
	同比率	0	8.8	10.5	24.6	26.3	15.8	14.0		92.6	7.4	0

本郡の耕地は腐植は概ね含む程度が多い。水田の置換酸度は第1地区に比し第2地区が稍高い。畑は第1地区に強~弱酸性が3点(18%)あり、平均値も高くなっているが、1以下が80%以上あり酸性土壌の比率は水田に比して著しく少い。置換石灰は分布範囲は広いが田畑共に0.2以下が80%近くあり、第2地区の水田にやゝ含量の高いものが見られるが概して中程度以下が多い。水浸液のPHは石灰同様分散範囲は広く第1地区の水田が特に低い様であるが、他は概して高く、第2地区、畑が特に高い所が多い。これ等の大体の傾向としては酸度が低くPHの高い所に石灰含量の0.2%以上の所が多い様であり、酸度1以上のものはPHも低く石灰も概して少い。この傾向は第1地区に特に顕著である。

K: 深安郡の部

本郡は県東南端に位し、神辺平野を中心に北は神石高原をひかえて傾斜地となり、東は岡山県に接し、西は芦品・沼隈の二郡に境し南は小波状丘陵地をなして瀬戸内海に至る。本郡を主として地形により2地区に区分する。

(1) 地区の概況並に所属町村名

第1地区：山野村、廣瀬村。

南北に延び、東西に狭る本郡の北部に位置し、神石郡に接し、笠木山・馬乗山等海拔500m前後の山岳が連り、平坦耕地にとぼしく、神石郡に発し山野村を経て隣県岡山に入る山野川に沿い僅かに平坦部を有するにすぎぬ。主な耕地の標高は山野村は200m前後にあり、廣瀬村は300~400mの間にある。約60%の畑地を有し、甘藷・麦・煙草を栽培する。廣瀬村においては水田のうち70%、山野村においては40%が一毛作田をなす。

第2地区：引野村、大津野村、坪生村、春日村、市村、千田村、御幸村、神辺町、御野村、竹尋村、湯田村、中條村、加茂村、加法村、道上村。

郡中南部に位置し、神辺盆地を中心とするおほむね平坦な沃野地帯で、本県としては最も広轄な農耕地の一を形成し、耕地は主として100m以下で、主要な河川は芦田川及び岡山県に発し郡中央部を横断して芦田川に入る高屋川である。神辺盆地は水田を主とし、周辺町村において畑を増加し、30~40%の畑地を有し甘藷・麦・煙草・ハッカを栽培し、特に大津野村は約六割の畑を有する。水田のうち約30%弱が一毛作田である。山野村・加茂村・市村等は二毛作田が多い。

1 水田の部

第1地区 (K-1)

整理番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
			酸度 Y1	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性 色		
3135	山野村 殿川内3723	紫田 太一	0.4		0.17	含	13	SL	暗黄褐色	暗灰褐色SL, 20~30cm 暗黄色SL, 30~35cm 暗黄褐色SL, 以下礫土
3137	" 矢川川北159	藤井 吾六	0.4	6.2	0.20	富	18	L	"	灰褐色L, 25~40cm 暗黄褐色L, 以下暗黄褐色礫土
3140	" 田石2007	藤田 房一	0.3	6.2	0.21	含	12	L	"	暗黄褐色礫に富むL, 25~30cm 暗灰褐色L, 以下礫土
2948	廣瀬村 北山250	佐藤 竹男	1.3	5.6	0.17	"	12	CL	"	暗黄褐色CL, 35cm 以下黄褐色CL
2949	" " 75	大竹 忠雄	0.4	6.8	0.14	"	12	SL	"	褐色SL, 15~25cm 暗灰褐色SL, 以下鉄集積暗褐色SL

本地区は山野村の北に一部石英斑岩がみられる他は殆ど古生層よりなる。腐植は含む程度で耕土の土性も壤土~砂壤土である。

置換酸度は一般に中性に近くPHも高い方である。置換石灰の含量は0.2%前後の中程度が多い。聴取調査によれば堆肥は反当300~600貫程度施用しており概して多く、石灰の施用は少ない様である。

第2地区 (K-2)

整理番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
			酸度 Y1	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性 色		
3051	引野村 手成	城本 幸一		6.2	0.09	含	12	SL	黄褐色	青色SL, 35cm 以下青色S
3053	" "	山本 良三	1.1	4.3	0.11	"	12		灰褐色	鉄集積22~30cm 灰褐色SL, 30~50cm 地下水以下灰褐色S
3054	" 谷地下	山内喜四郎	1.6	5.0	0.10	"	14	SL	"	灰褐色SL, 20~35cm 鉄集積暗黄褐色SL, 以下灰褐色S

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土					土性	色	下層土の状態
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm			
3055	引野村 宅部3838	藤一 良一	0.4		0.15	含	19	C	暗黄褐	暗黄褐色L, 80cm以下地下水
2955	大津野村 野々2454	藤尾 利平	0.3		0.13	〃	14	SL	灰 褐	灰褐色S, 25~35cm 黄色S, 35cm鉄 集積, 以下青色(グライ)
2957	〃 大門	藤井玉次郎	0.3	6.7	0.18	〃	14	SL	〃	灰色SL, 18~25cm鉄集積, 以下灰褐 色SL
2993	坪生村 層根田	藤本 二郎	0.1	5.1	0.16	〃	12	SL	〃	黄褐色SL
2995	〃 〃 3585	掛谷 亨一	1.8	5.0	0.16	富	14	SL	暗黄褐	暗黄褐SL, 40cm以下灰褐色SL
2997	〃 〃 中山 947	桑田 昇				含	22	SL	灰 褐	暗黄褐SL, 35cm鉄集積, 以下離層
2880	春日村 通甲1583	藤尾 菊太	0.1	5.2	0.16	〃	15	L	暗黄褐	暗黄褐色L, 20~40cm鉄集積暗黄褐 色以下礫土
2884	〃 浦上2793	藤井松衛門	0.3	5.2	0.11	〃	14		灰 褐	鉄集積30~40cm 灰褐色, 以下青色
2885	〃	藤井伝衛門	0.6	5.1	0.16	富				
2907	市 村	羽原 優	0.5	5.6	0.20		18	L	灰 褐	鉄集積25~80cm 青色L, 以下地下水
2908	〃 仁信2458	深川 定一	0.5		0.21	含	14	L	暗黄褐	暗黄褐色L, 70cm以下青色L
2909	〃	藤井浜次郎	2.5	4.7	0.13		12	SL	灰 褐	鉄集積層暗黄褐色L, 45cm以下灰褐 色L, (溶脱層)
2911	〃 金原	尾熊 函逸	3.5	4.6	0.08	〃	12	SL	〃	暗黄褐色L, 35~45cm 灰褐色L, 以 下鉄集積
3071	千田村	藤井 兼藏	0.3	5.3	0.14	〃	12	SL	灰 褐	暗黄褐色SL, 35cm以下灰褐色S~ SL
3073	〃	竹縄新太郎	1.8	5.6	0.18	富	12	SL	〃	灰褐色SL, 40cm以下暗黄褐色L
3074	〃 横尾288	古川 恒男	赤変	5.6	0.28	〃				
2962	御幸村 堂前745	戸田 幸三	0.9	5.4	0.11	含	18	SL	暗黄褐	暗黄褐色SL, 45cm以下暗黄褐色L
2964	〃 江戸渡1533	小林福太郎	0.3	5.9	0.19	〃	18	SL	〃	暗黄褐色SL, 25~30cm 鉄集積, 30~ 42cm 青色SL, 以下地下水灰褐色SL
2965	〃 下岩成1288	山上 邦夫	0.3	5.7	0.30	〃	15	L	〃	鉄集積20cm以下暗黄褐色L
2966	〃 正戸 7	渡辺太治兵衛	0.3	6.2	0.17	富	12	SL	〃	青色SL, 25~30cm 暗黄褐色S
2967	〃 平柳	千葉 惣一	0.6	5.9	0.17	含	12	SL	灰 褐	鉄集積L, 55cm以下青色L
2898	神辺町	小森 龜藏	0.3	5.2	0.28	〃	15	CL	暗黄褐	鉄集積CL, 25~80cm 暗黄褐色CL, 以下地下水
2899	〃 二川	藤井 吉雄	0.1	5.7	0.23	〃	20	CL	〃	暗黄褐色CL, 28~40cm 灰褐色CL, 以下暗黄褐色CL
2900	〃 川南88013	石岡 寿一	赤変	8.4	0.35	〃	23	L	〃	青色CL
2901	〃 〃 1465	福島 貫市	〃	6.8	0.26	〃	12	L	〃	暗黄褐色L, 60cm以下灰褐色CL
2902	〃 川北895ノ2	黒瀬 栄吉	0.3	5.0	0.11	〃	15	L	〃	暗黄褐色L
3155	御野村 下御領16	長田 静男	1.4	5.6	0.11	〃	13	CL	灰 褐	灰褐CL, 25~35cm 暗褐色CL, 35~ 65cm 暗黄褐色CL
3156	〃 田村129	岩佐 一志	0.9	6.7	0.11	〃	15	L	暗灰褐	灰褐色CL, 25~85cm 暗黄褐SL, 以 下黄色S
3157	〃 下御領749	谷田 能夫	5.1	5.3	0.12		16	L	〃	灰褐色L, 22cm以下暗黄褐色SL
3158	〃 平ノ961ノ3	森井 寿	0.6	6.2	0.24	富	15	CL	〃	暗灰褐色C, 23~50cm 褐色C, 以下 暗褐色礫を含むL
3159	〃 146	諏沢 善一	0.6	5.6	0.14	含	51	L	〃	鉄集積黄褐色L, 50cm以下暗黄褐色
3160	〃 上黒1779	池田 為裕	0.6	5.2	0.13	〃	20	L	〃	暗灰褐色CL
3161	〃 奈良原2077	岡本 光大					17	CL	〃	黄褐色SL, 25~40cm 明黄褐色S, 以 下暗黄褐色SL
2935	竹尋村 大坪1344	金政 保治	5.0	5.2	0.21	富	14	CL	灰 褐	暗黄色SL, 50cm以下礫土
2937	〃	北川 清通	1.3	5.0	0.37	〃	15	L	暗黄褐	暗灰褐色CL, 30cm以下地下水
2938	〃 入尋唐橋1019	小林 長一	2.9	5.0	0.30	〃	15	SL	暗灰褐	暗黄褐色SL, 60~80cm 暗黄褐色SL, 以下灰褐色SL

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm	土性		色
2939	竹尋村	入尋下向山1123	猪原 治一	2.9	5.0	0.30	含	15	L	暗黄	暗黄褐色C45cm以下灰褐色C
2941	"	589の2	猪原 二一	3.8	6.6	0.18	"	12	CL	明黄褐	明黄褐色CL, 30~50cm暗黄C以下密
2887	湯田村	戸井631の1	徳永 栄次	0.3	4.8	0.10	"	12	SL	灰 褐	灰褐色SL, 22~35cm暗黄褐SL, 以下灰褐色SL
2888	"	徳田 荒田	高橋 虎一	0.3	5.0	0.12	"	16	SL	"	鉄集積20~40cm青色SL, 40~80cm灰褐色S, 地下水80cm以下密
2889	"	中島町1552	小島 延男	0.3	5.1	0.10	"	18	SL	"	灰褐色SL, 20~30cm鉄集積, 30~45cm灰褐色S, 以下密
2890	"	橋本241	竹代 靖次	1.3	4.9	0.08	"	13	SL	"	灰褐色SL, 鉄集積25~35cm暗褐色SL以下灰褐色S
2892	"	南日793	猪原 涉	0.4	5.4	0.13	"	18	L	暗黄褐	暗黄褐色L, 25~60cm黄褐色CL
2893	"	湯野溝下412	藤田 広	0.5	5.2	0.09	"	13	SL	灰 褐	暗黄褐色SL, 鉄集積50cm以下灰褐色CL
3112	中条村	233	阿部 敏雄	0.5	6.1	0.26	"	15	SL	暗黄褐	暗黄褐色S, 20~35cm黄褐色SL, 以下S
3113	"	上尾屋田198の1	金尾 順一	0.5	5.3	0.14	"	15	SL	灰 黄	黄褐色SL, 15cm以下黄褐色S
3114	"	堂谷1443	藤井 邦夫	0.6	4.9	0.10	富	14	SL	暗黄褐	暗灰褐色SL, 30cm以下暗黄色礫に富むS~SL
3115	"	仲田1098	神原八十一	0.4	5.2	0.10	"	15	SL	暗灰褐	暗灰褐色SL
3116	"	正坪432	安川 建造	0.6	5.2	0.13	"	15	L	"	暗黄褐色S, 35~60cm灰色S, 以下礫土
3117	"	樋3514	藤坂 鶴吉	0.6	4.9	0.13	"	15	SL	明黄褐	鉄集積25~50cm灰褐色礫に富むS, 50~55cm黒色礫土以下明黄褐色礫土
3120	"	深水1942	佐藤 春一	0.6		0.13	含	12	L	暗黄褐	暗黄褐色CL, 60cm以下暗褐色礫に富むSL
2943	加茂村	1125	西村 正男	0.5	4.7	0.13	"	20	SL	"	暗灰褐色SL, 30~35cm明褐色SL, 35~50cm黄褐色SL鉄集積, 50~68cm黒褐色SL, 以下黄褐色SL
2944	"	芦原勇言716	藤井 秀一	0.6	4.9	0.11	"	12	SL	明 褐	明褐色SL, 30cm以下暗黄褐色SL
2945	"	中野1072	高橋 益男	0.8	7.3	0.14	"	10	CL	暗灰褐	黒色C, 18cm以下青色CL~C
2946	"	中ノ130	福本好太郎	0.3	4.6	0.13	"	10	L	"	暗灰褐色L, 20~25cm明褐色L, 25~35cm暗黄L, 以下暗灰褐色礫に富むL
2947	"	神上483	三島 太郎	0.3	5.9	0.14	"	15	SL	暗灰褐	暗黄褐色CL, 25~50cm青色CL, ~C, 50cm以下暗黄褐色C
3148	加法村	下加茂ツカワキ446	松井管太郎	0.8	5.6	0.15	"	15	SL	暗黄褐	黄褐色C, 20~35cm灰褐色SL, 35~70cm暗黄褐色L, 以下暗黄褐色SL
3149	"	近未2418	松平 喜臣	1.8	5.2	0.14	"	15	L	灰 褐	暗灰褐色L, 25~30cm暗褐色L, 以下鉄集積, 暗黄色L
2894	道ノ上村	門前1298	井上 堅一	0.1	5.3	0.12	"	14		暗黄褐	鉄集積30~70cm暗黄褐色以下灰褐色
2896	"	正藤1931	林 植五郎	0.2	4.9	0.10	"	12	SL	灰 褐	鉄集積暗黄褐色SL, 25cm以下灰褐色S
2897	"	正藤東町	園 尾二郎	0.8	4.9	0.08	"	9	SL	"	鉄集積15cm以下礫土
2913	"	十三軒屋42	植峠 久志	1.4	5.7	0.19	富	18		暗黄褐	暗黄褐色L, 23~40cm青色L, 以下地下水S

本地区の北部及び南部沿岸部は花崗岩を主体とし、中央部は芦田川の沖積層及び古生層が大部分を占め花崗岩及び洪積層が露出する。腐植は概して含む程度であり耕土の土性は神辺町・御野村及び竹尋村の一部に埴壤土及至壤土がみられる他は砂壤土が多い。

置換酸度は竹尋村・引野村・市村に微~弱酸性の比率が高いが、その他の町村では一部にみられるのみで概して中性に近い。水浸液のPHは4.5~7.4で分布範囲が広いが5.2前後が多い。置換石灰も0.08~0.3%以上にわたり何れも分布範囲が広く、竹尋村、神辺町は0.2%以上が多く含量は高い方であるが、他の村は何れも0.1~0.15%の少ない所が著しく多い。

堆肥は引野村・中条村に反当400~600貫の施用もみられるが他は200~300貫程度の所が多い。石灰は余り施用されて居ない様である。

2 畑 の 部

第 1 地区 (K-1)

整理 番号	調査地点		耕 作 者 氏 名	作 土						下 層 土 の 状 態	
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性		色
3136	山野村	4685	松井 久夫	0.4	6.1	0.38	富	30	礫富 L	暗黄褐	暗黄褐色礫に富むL, 60cm以下母岩
3138	"	江谷714	藤井 芳男	0.1	5.6	0.47		14	L	//	暗黄褐色礫に頗る富むSL
3139	"	下原谷56	田中 健市	0.3	6.3	0.23	含	20	L	//	明黄褐色CL
3141	"	高尾3982	渡辺 芳男	0.6	5.6	0.31	富	20	L	黄 褐	礫土
3142	"	大谷4766の2	森原 清	0.3		0.62	//	25	SL	暗黄褐	礫土
2950	広瀬村	小仁吾1928	山本 政一	0.5	7.4	0.21	含	20	L	暗黄褐	暗黄褐色CL
2951	"	大平	松井 敏太	0.4	7.4	0.28	//	25	L	//	黄色L
2952	"	北山581	石原 和	0.3	6.8	0.39	//	20	CL	暗 褐	明褐色CL

第 2 地区 (K-2)

整理 番号	調査地点		耕 作 者 氏 名	作 土						下 層 土 の 状 態	
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性		色
3050	引野村	東沖深654ノ1	坪野 栄松	0.1	4.6	0.10	含	20	S	暗黄褐	黄褐色S, 30cm以下黄褐色SL
3052	"	野呂	山口英五郎	赤変	5.6	0.31	//	16	CL	//	青色C
3056	"	長浜5135	広井弓太郎	//		0.21	//	20	SL	暗 褐	灰褐色SL
2953	大津野村	野々1562	桑田 穰	0.3	6.3	0.11	//	12	S	暗黄褐	黄褐色S
2954	"	甲7787の1	五十川 儀	赤変	6.1	0.11	//		S	//	同上
2956	"	大門490	枝広 弘	//	6.7	0.22	//	20	SL	//	暗黄褐色L, 密
2958	"	奈免良	藤井 勇	1.6	6.0	0.14	//	28		//	黄褐色礫土
2959	"	津下向916		6.6	4.9	0.14	//	17	S	//	黄褐色S, 40cm以下母岩
2904	坪生村	3349ノ2	橋本 国松	0.8	5.7	0.12	//	14	L	暗黄褐	暗黄褐色礫土
2996	"	滑池上	藤井 一郎	5.6	4.6	0.25	//	10	L	//	灰褐色CL
2881	春日村	宇山750	尾熊 条尙	0.3	5.9	0.43	//	32	CL	//	黄褐色CL
2882	"	浦上197ノ1	高橋 元一	8.1	4.7	0.04	//	20	S	//	暗黄褐色S, 25cm以下黄褐色S
2883	"	浦上1901	藤井正次郎	0.1	5.2	0.09	//	14	L	灰 褐	灰褐色L, 30cm以下灰褐色CL
2886	"	林 537	桑田 二太	0.3	5.6	0.12	//	14	S	暗黄褐	黄褐色S, 25cm以下母岩
2910	市 村		大屋 大造	1.9	5.0	0.18		14	L	明黄褐	暗褐色CL
2912	"	坐王手	藤井 浜治	0.7	5.3	0.08	//	20	S	暗黄褐	暗黄褐色S
3070	千田村	藏玉原2862	清水 武男	0.8		0.12	富	24	CL	//	黄褐色CL, 50cm以下礫土
3072	"	峠谷987	渡辺友三郎	0.5	5.2	0.11	//	30	L	//	黄褐色CL
3075	"		尾熊 準一	0.3	5.2	0.28				//	
2963	御幸村	外水ノ越	松本 二郎	0.4	6.1	0.13		30	S	//	暗黄褐色S

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm	土性		色
2933	竹尋村	3082	北川 琢士	0.6	5.3	0.40	含	20	CL	暗灰褐	暗黄褐色CL, 40cm以下灰褐色C
2934	"	347	北川 忍	赤変	6.4	0.25	富	15	深富 L	暗黄褐	暗黄褐色礫に富むL, 50cm以下礫土 地下水
2936	"	若林672	橋本 忠男	0.3	5.0	0.51	"	20	L	"	暗黄褐色L, 40cm以下暗黄褐色礫を 含むL
2940	"	板ヶ1641	猪原 光男	0.3	4.4	0.47	含	15	L	黄 褐	暗黄褐色CL, 青色混
2891	湯田村	豊久保	池田 静一	0.3	5.3	0.10	"	40	L	暗黄褐	礫土
3118	中条村	森毛市9917	金尾 順一	0.3	5.1	0.21	富	50	S	"	黄褐色礫に類る富むS
3119	"	藤森1443	藤井 卯男	0.3	6.0	0.20	含	12	S	"	明黄褐色S, 20cm以下暗黄褐色S
3150	加法村	仁井張493	岡 芳夫	3.0	5.3	0.19	"	12	L	"	黄褐色礫に類る富むC
3151	"	赤小石124	吉岡 胖	1.3	5.5	0.18	含	30	S	黄 褐	暗黄褐色S
3152	"	東中道城2074	田口 佐市	1.8	5.4	0.16	"	25	SL	暗黄褐	暗黄褐色S
3153	"	上組1935	河崎 正美	0.4	5.9	0.16	"	30	SL	黄 褐	同上
3154	"	郷の坪1098の1	児宝 弘	0.4	6.7	0.22	"	25	SL	暗黄褐	暗黄褐色S, 60cm以下地下水暗褐色 SL
2895	道ノ上村	門前 1836の1	安中彦二郎	0.9	4.9	0.06	富	28	SL	暗黄褐	暗黄褐色SL

第1地区の山野村の畑は腐植に富む所が多いが広瀬村では含む程度が多い。耕土の土性は何れも壤土である。第2地区では千田村・竹尋村等が一部腐植に富むが他は含む程度であり、耕土の土性は竹尋村・湯田村は壤土であるが他は主として砂土～砂壤土である。

第1地区の置換酸度は何れも低く中性に近く、PHも高く置換石灰含量も著しく多い。

堆肥は反当300～500貫施用され多い方であるが、石灰は施用されていない。第2地区では調査点数の76%迄が中性に近く25点中2点強酸性がみられ他は微～弱酸性である。水浸液のPHは4.5～7.3で範囲が広く、水田とはほぼ同様の傾向で5.2前後が多い。置換石灰は0.08～0.5%までと同様分布範囲は広いが、竹尋村・引野村・中条村等に0.2%以上の所が多く見られる。

堆肥は大体反当200～300貫施用し、石灰は一部10～20貫施用してゐる。

(3) 郡 総 括

置換酸度、石灰含量による程度別点数表

項目	地区	置換酸度 Y ₁						置換石灰%						
		0~0.99	1~2.99	3~5.99	6~14.99	15以上	平均値	0~0.09	0.1~0.14	0.15~0.19	0.2~0.24	0.25~0.29	0.3以上	平均値
水	1	4	1	0	0	0	0.6	0	1	2	2	0	0	0.18
	2	46	12	4	0	0	0.9	5	31	13	5	5	4	0.16
	郡計	50	13	4	0	0	0.9	5	32	15	7	5	4	0.17
	同比率	74.5	19.5	6.0	0	0		7.4	47.0	22.0	10.3	7.4	5.9	
畑	1	8	0	0	0	0	0.4	0	0	0	2	1	5	0.36
	2	25	4	2	2	0	1.2	4	11	5	5	3	5	0.19
	郡計	33	4	2	2	0	1.0	4	11	5	7	4	10	0.22
	同比率	80.4	9.8	4.9	4.9	0		9.8	26.8	12.2	17.1	9.7	24.2	

PH, 腐植含量による程度別点数表

項目 地区 程度	水 浸 液 PH									腐 植		
	4.5以下	4.6~ 5.0	5.1~ 5.5	5.6~ 6.0	6.1~ 6.5	6.6~ 7.3	7.4以上	平均値	含む	含む	頗る	
水 田	1	0	0	1	2	1	0	6.2	4	1	0	
	2	1	17	18	13	4	5	5.5	49	12	0	
	郡計	1	17	18	14	6	6	5.5	53	13	0	
	同比率	1.6	27.0	28.6	22.2	9.5	9.5	1.6	80.3	19.7	0	
畑	1	0	2	0	0	2	1	2	6.5	4	3	0
	2	1	7	10	7	4	2	0	5.5	22	6	0
	郡計	1	7	10	7	6	3	2	5.7	26	9	0
	同比率	2.6	23.6	26.3	18.4	15.8	7.8	5.5	74.3	25.7	0	

本郡の耕地は腐植は概して含む程度が多い。水田の置換酸度は1以上は26%程度で竹尋村・引野村・市村に酸性土壌の比率が高いが他は一般に中性に近い所が多い。置換石灰は0.08~0.3%以上まで範囲が広く、竹尋村・神辺町が0.2%以上で石灰含量は多いが他は一般に中程度以下である。水浸液のPHは第2地区が4.5~7.4と他の郡に比較して範囲が広く変異が大きいが第1地区は高い方である。畑の置換酸度も第2地区に1以上が24%あり、10%は強~弱酸性であるが他は中性に近い。置換石灰は水田に比し多く特に第1地区は高い。水浸液のPHもやや高く、特に第1区は県内でも高い部類に属する。

L: 甲奴郡の部

本郡は県東北部比婆郡南部に位し県の中央山地帯に在り地形は起伏に富む。東は神石郡西は世羅・双三の2郡に接し南は芦品郡に界する。本郡を主として地形並に位置により2地区に区分する。

(1) 地区の概況並に所属町村名

第1地区：吉野村、領家村、田総村、上川村、甲奴村。

本郡北部に位置し、丸猛山・岳山・鷹志風呂山等大小山岳が起伏重畳して平地に乏しく、吉野村に発し郡の中央部を西流し第2地区上下町及び甲奴村を貫き郡西境を北流して田総川と合し江の川につらなる上下川、及び領家村に発し北部を西流して田総村に至り上記上下川と合する田総川の流域地帯で、これ等河川にそってやゝ平坦な耕地を形成するにとどまる。

耕地は主として標高400~500mの間にあり、比較的高冷で水田を主体とするが、領家村・田総村・上川村には30~40%の畑を有する。水田のうち60~70%は一毛作田であるが、田総村は約65%を二毛作田としている。

第2地区：上下町、矢野村、清獄村、階見村。

郡南部に位置し、第1地区同様大小山岳が起伏して平坦耕地にとほしく、上下町を中心とする上下川沖積地が主な農耕地を形成してゐるにすぎぬ。耕地の標高は主として400~500mの間にあり比較的高冷で、30~35%の畑を有するが、水田が主体で、約60%は一毛作田である。

(2) 地区別調査結果

1 水田の部

第1地区 (L-1)

整理番号	調査地点		耕作者氏名	作 土					下層土の状態		
	町村名	字番地		酸度 YI	PH	石灰 %	腐植 厚さ cm	土性 色			
2325	吉野村	吉森	梅田	0.4	6.1	0.19	富	CL	黒 褐	黒褐色CL,密	
2326	"	市場	花谷 一作	0.2		0.27	"	CL	黒 褐	同 上	
2327	"	二森	深川	0.1	5.7	0.25	"	L	"	黒褐色礫に富むL	
2328	"	川井	上門	0.1	5.8	0.30	頗富	L	暗灰褐	礫 土	
2329	"	小堀		0.8	5.3	0.19	富	L	"	暗灰褐色L	
2330	"	小塚	右代谷哲馬	0.8	5.3	0.22	"	L	黒 褐	黒褐色L	
2331	"	有福一	渡辺	0.5	5.5	0.20	"	L	"	同 上	
2332	"	有福	伊達樋右エ門	1.3	5.2	0.12	"	L	灰 褐	灰褐色L	
2334	領家村	黒目	西水 岩吉	0.8	5.8	0.17	頗富	20	L	暗黄褐	黄褐色L,50cm以下暗黄褐色礫に富むL
2336	"	五郎丸	中谷 松	1.6	4.2	0.19	富	12	L	"	黄褐色S,30cm以下礫土
2337	"	上谷小坂	福馬 万之	赤変	6.8	0.40	頗富	17	L	"	黄褐色CL,30cm以下鉄集積黄褐色L
2338	"	原谷	迫江 一二	0.4	4.5		富	15	L	"	暗黄褐色L,50cm以下礫土
2339	"	中領家	北部普及農場	0.5	4.1	0.20	"	15	L	"	礫 土
2340	"	大上田	永井 虎一	0.7	4.1	0.15	"	17	L	"	暗黄褐色L,20cm~25cm鉄集積25~80cm暗黄褐色L以下礫土
2343	田総村	木屋アクシマ沖	小林 百三	0.4	5.8	0.29	頗富	15	L	"	黄褐色礫に富むL,30cm以下礫土
2344	"	稲草	山地松太郎	0.4	6.1	0.25	"	14	L	"	黄褐色L,鉄集積25cm以下黄褐色L
2345	"	花屋	山田 徳市	0.6	6.3	0.24	富	15	CL	暗黄褐	暗黄褐色CL
2346	"	滝谷	松山 頼藏	0.3	5.7	0.30	頗富	13	L	"	黄褐色CL,40cm以下礫土

2
の
及
や
こ
地
区

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
	町村名	字番地		酸度 Y1	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性		色
2347	"	砂田	永岡 尚一	0.4	6.0	0.26	頗富	12	L	暗黄褐	黄褐色L, 20cm以下礫に富むL
2348	上川村	太郎丸大仙沖	二井 善一	3.8	4.8	0.15	富	15	L	"	青色L
2352	"	太郎丸	風呂松太郎	0.5	5.5	0.14	"	15	L	"	褐色L, 20~50cm 黄褐色SL, 以下礫土
2353	"	西谷	茨木 四郎	0.6	5.5	0.14	"	20	L	"	黄褐色CL, 40~50cm 黒褐色CL, (火山灰土)以下地下水火山灰土
2354	"	西谷	中岡 角郎	0.3	5.2	0.14	富	15	SL	"	褐色L
2355	"	面坪	西家 義正	0.8	5.0	0.12	"	16	L	"	暗黄褐色L, 30cm以下暗黄褐色CL
2356	"	堀越	須沢 勇	0.3	5.0	0.10	"	13	L	"	灰褐色SL, 30~40cm 暗黄褐色CL, 以下礫土
2357	"	安田	神崎 木二	0.5	4.3	0.14	頗富	13	SL	"	暗黄褐色SL, 60cm以下暗黄褐色CL
2358	"		前原 篤来	0.3	5.3	0.11	富	16	L	"	鉄集積20cm以下暗黄色L
2360	"	知和供坊	有兼 義見	0.5	5.3	0.18	"	15	SL	"	暗黄褐色L, 40~70cm 暗灰褐色L, 70cm以下暗黄色SL
2362	甲奴村	本郷	西村佐久馬	0.3	5.1	0.22	"	16	L	"	暗黄褐色L, 40cm以下礫土
2363	"		松山 甫夫	0.3	4.6		含	14	L	"	暗黄褐色L, 20~30cm 暗黄褐色CL, 以下礫土
2364	"		才平 勘一	0.9	5.0	0.25	富	18	L	"	暗黄褐色L, 25~50cm 灰褐色S, 50~60cm 暗黄褐色SL, 以下礫土
2365	"		前保 イワ	0.7	4.9	0.15	含	18	SL	"	暗黄褐色L, 30~60cm 暗黄褐色CL, 60~80cm 黄褐色CL, 以下緑灰色
2366	"	福田	久保 浜一	0.3	5.0	0.52	富	14	SL	暗灰褐	暗灰褐色SL, 30cm以下暗灰褐色S
2367	"		佐々木利美	0.4	4.9	0.23	"	12	L	暗黄褐	黄褐色L, 50cm以下地下水暗黄褐色SL

本地区の地質は吉野村・領家村は主として中生層よりなり領家村の北部に古生層、上川村の南部及び甲奴村に花崗岩、上川村の北部及び田総村には玢岩及び中生層が分布する。

何れも腐植に富み一部頗る富む所もある。耕土の土性は上川村・甲奴村の一部に砂壤土がみられ他は何れも壤土が多い。

置換酸度は上川村・領家村の各一点を除き何れも中性に近い。水浸液のPHは4.0~6.3で範囲は広いが主として5.8前後である。置換石灰は上川村が0.15%前後で少いが、他は何れも0.2%以上で含量は多い方である。

聴取調査によれば堆肥の施用量は一般に多く、領家村では山草400~700貫施用が多く他も何れも400~600貫施用してゐる。石灰の施用は余りみられない。

第2地区 (L-2)

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
	町村名	字番地		酸度 Y1	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性		色
2305	上下町	竜口	西長 平一	0.2	5.0	0.20	富	17	L	暗黄褐	暗黄褐色L, 20~60cm 暗灰褐色S, 以下礫土
2307	"	浜岩	野津山平次	0.3	5.1		"	17	SL	"	暗黄褐色SL, 25~50cm 暗黄褐色L, 以下地下水
2308	"	下沖	柏木 武夫	0.3	4.8	0.28	"	15	L	"	暗黄褐色L, 80cm以下暗黄色SL 地下水
2309	矢野村	国富	岡 サエ	0.7	5.7	0.28	"	17	L	"	暗黄褐色L, 22cm以下暗灰褐色CL
2310	"	国富先谷	藤達 明登	1.6	5.4	0.15	"	13	L	"	黄褐色L, 50~60cm 地下水以下礫土
2312	"	片屋	国永 穂男		5.6		"	13	L	"	黄褐色CL, 25~40cm 暗黄褐色CL, 以下礫土
2313	"	塚定	光永順太郎	2.3	5.5	0.26	"	13	L	"	黄褐色30cm以下黄褐色CL

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性 色		
2314	矢野村 矢多田郷	貞清 兼吉		6.1		富	15	L	暗黄褐色	暗黄褐色SL, 20~50cm 黄褐色SL, 以下礫土
2315	〃 矢多田	上野 晋一		6.0		〃	13	SL	〃	暗黄褐色SL, 50~80cm 暗黄褐色L, 以下地下水
2317	清獄村 井永	丹下 治郎	1.7	4.8	0.27	〃	13	L	〃	黄褐色L, 40~60cm 黒褐色CL, (火 山灰土)以下礫土
2318	〃 佐倉	坂井 常之	4.6	4.8	0.17	含	10	SL	〃	黒褐色SL, 30~60cm 黄褐色S, 以下 礫土
2319	〃 永永	松岡 新一	3.2	4.7	0.24	富	10	L	〃	黒褐色L, 40cm 以下(火山灰土)
2322	階見村 城下	田原 都士郎		5.0	0.23	〃	17	L	〃	暗黄褐色L, 20~50cm 暗黄褐色L, 黄褐色L, 25~80cm 暗黄褐色CL, 以 下地下水礫に富むL
2323	〃 大仙元	伊達 民造		5.0	0.19	〃	15	L	〃	

本地区は清獄村・矢野村の南部及び階見村が花崗岩であるが他は中生層が分布する。一般に腐植に富み耕土の土性は壤土が多く、一部に砂壤土がある。

置換酸度は上下町が中性に近く清獄村に酸性土壌が多い。水浸液のPHは5前後であるが、置換石灰含量は一般に多い。

堆肥は反当300~400貫施用が多く、柴草等を多量に施用する。石灰は矢野村の一部・清獄村に20~30貫施用して居り他は余り施用していない。

2 畑 の 部

第 1 地 区 (L-1)

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性 色		
2333	領家村 上谷原谷	迫江 一二	0.4	6.4	0.27	富	16	SL	暗黄褐色	黄褐色L, 25~65cm 黄褐色SL, 以下 礫土
2335	〃 火上田	永井 虎一	1.4	5.5	0.11	〃	20	CL	〃	黄褐色CL
2342	田総村 白島	田村 政行					15	L	〃	暗黄褐色L, 30~50cm 黄褐色CL, 以 下礫土
2349	上川村 抜湯	伊野木 隆一	0.3	6.3	0.31	富	30	L	〃	暗黄褐色L
2350	〃 西谷	田村 敏之	0.3	5.6	0.15	含	30	SL	〃	黒褐色SL
2351	〃 安田	大田 正一	0.3	5.8	0.20	富	25	L	〃	礫 土
2359	〃	濤部 国四郎	0.1	5.7	0.09	頗富	30	SL	〃	〃
2361	甲奴村 福田	佐々木 利美		6.8	0.29	富	25	SL	〃	黄褐色CL

第 2 地 区 (L-2)

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性 色		
2306	上下町 ドシヨネ	小村 都次郎	0.8	4.9	0.20	含	20	L	暗黄褐色	明黄褐色L, 50cm 以下明黄褐色CL
2311	矢野村 小田部	宗好 敬一					20	L	〃	黄褐色CL
2316	清獄村 井永	赤迫 源三	7.9	4.3	0.12	含	10	L	〃	黄褐色L
2320	階見村 陰場	黒瀬 常夫	0.3	4.6	0.26	富	20	CL	〃	黄褐色L, 50cm 以下礫土
2321	〃 大仙本	田原 和一	0.3	4.8	0.23	頗富	20	CL	〃	暗黄褐色礫を含むCL

畑も一般に酸性土質の土質性は第1地区は壤土又は砂壤土、第2地区は壤土が多い。
 置換酸度は第1地区は酸性が高いが(強酸性)他は何れも中性に近い。水浸液のPHは第1地区は5.5以上
 で高い所が、第2地区は5以下で低い。置換石灰は何れも中程度以上が多い。
 第1地区では堆肥は150~300貫、石灰は10~20貫施用する所が多く、第2地区では堆肥は多く200~
 400貫施用され、石灰の施用はみられない。

(3) 郡 総 括

置換酸度、石灰含量、PH及腐植含量による程度別点数表

項目 地区	程度	置換酸度 Y1						置換石灰%						
		0~0.99	1~2.99	3~5.99	6~14.99	15以上	平均値	0~0.09	0.1~0.14	0.15~0.19	0.2~0.24	0.25~0.29	0.3以上	平均値
		水田	1	31	2	1	0	0	0.6	0	8	8	6	6
	2	4	3	2	0	0	1.7	0	0	3	3	4	0	0.23
	郡計	35	5	3	0	0	0.8	0	8	11	9	10	4	0.21
	同比率	81.4	11.6	7.0	0	0		0	19.1	26.2	21.4	23.8	9.5	
畑	1	5	1	0	0	0	0.5	1	1	1	1	2	1	0.2
	2	3	0	0	1	0	2.3	0	1	0	2	1	0	0.2
	郡計	8	1	0	1	0	1.2	1	2	1	3	3	1	0.2
	同比率	80	10	0	10	0		9.1	18.3	9.1	27.2	27.2	9.1	

項目 地区	程度	水浸液 PH								腐植		
		4.5以下	4.6~5.0	5.1~5.5	5.6~6.0	6.1~6.5	6.6~7.3	7.4以上	平均値	含む	富む	頗富
		水田	1	5	9	10	6	3	0	0	5.2	3
	2	0	7	3	3	1	0	0	5.3	1	13	0
	郡計	5	16	13	9	4	0	0	5.2	4	35	8
	同比率	10.6	34.1	27.6	19.2	8.5	0	0		8.5	74.5	17.0
畑	1	0	0	1	3	2	1	0	6.0	1	5	1
	2	1	3	0	0	0	0	0	4.7	2	1	1
	郡計	1	3	1	3	2	1	0	5.5	3	6	2
	同比率	9.1	21.2	9.1	27.2	18.3	9.1	0		27.3	54.5	18.2

本郡の耕地は田畑共に70~80%が腐植に富むで、置換酸度は田畑共に低く80%まで1以下で概して中性に近い所が多い。置換石灰は0.2%以上が田で54.7%、畑で68.5%を占め、石灰含量は著しく多い方である。水浸液のPHは石灰含量とは異り5以下が40%近くあり県内でも低い部類に属する。

M: 神石郡の部

本郡は県の東端に位し準平原をなし南は深安郡・蘆品郡に接し、西北一帯の地は甲奴郡及び比婆郡に連り東は岡山県川上・後月の2郡に隣接する。本郡を主として地形により2地区に区分する。

(1) 地区の概況並に所属町村名

第1地区：油木町、豊松村、小野村、新坂村、永渡村、高光村、牧村。

本地区は神石郡北部に位置し、岡山県に注ぐ東城川・帝釈川の流域並に、これ等河川の支流・草木川・高光川・見原川の分水嶺地帯で地勢は概して高峻で、星居山・権現山・仙養山・二子山・広石山等の諸山を有し、神石準平原を成す。平坦耕地は極めて乏しく高冷で耕地の標高は300~600mの間にあり約40~50%畑を有する町村が多く、水田は殆ど1毛作田である。畑作は甘藷・麦類の外コンニャクの栽培が盛に行はれる。

第2地区：来見村、仙養村、小畠村、高蓋村。

郡南部に位置し、岡山県高梁川上流小田川・山野川の分水嶺ならびに流域地帯で、第1地区同様平坦地に乏しく、高冷で耕地の標高は主として500~600mの間にあり、小畠村を除けば40~50%の畑を有し、第1地区同様麦類・甘藷の外コンニャクを栽培し水田は殆ど一毛作田である。

(2) 地区別調査結果

1 水田の部

第1地区 (M-1)

整理番号	調査地点		耕作者氏名	作 土						下層土の状態	
	町村名	字番地		酸度 Y _T	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性		色
1171	油木町	上河内谷	藤川 唯男	4.4	4.7	0.15	富	15	CL	黄 褐	黄褐色CL, 20~35cm 灰褐色CL, 35~80cm 黒色CL, (火山灰土) 以下暗灰褐色SL
1174	"	"	池田壮太郎	9.8	4.5	0.10	含	15	L	"	黄褐色L, 盤層密
1176	"	"	加村 浩二	1.6	4.8	0.18	富	23	CL	暗黄褐	灰褐色SL
1177	"	"	藤井 藤一	2.9	5.0	0.13		14	礫含 SL	"	灰褐色礫に富むSL
2777	豊松村		日谷 悟市	0.3	5.6	0.30	"	10	C	暗灰褐	黄褐色C
2778	"	18	高木 行乃	0.6	4.7	0.26	"	20	C	暗黄褐	黒褐色L, 50cm 以下青色L
2779	"	"	藤原甚三郎	0.9	4.0	0.22	"	15	CL	"	暗黄褐色L, 70cm 以下礫土
2780	"	日野	矢川 竜一				含	15	CL	"	暗黄褐色CL, 45cm 以下黒褐色C (火山灰土)
2781	"	有木	山崎 正徳	3.1	4.9	0.15		10	L	"	暗黄褐色L, 20cm 以下青色L
2782	"	1071	松井 繁夫	0.9	5.2	0.21	富	15		"	暗黄褐色, 20cm 以下青色
2783	"	"	池田 有造				"	15	CL	"	暗黄褐色L, 20cm 以下暗黄褐色CL
2784	"	"	江草 計市	0.9	4.0	0.31	"	15	C	"	暗黄褐色L, 30cm 以下青色L
2765	小野村	原 230	長谷川万寿	0.6	5.0	0.22	"	15	L	"	暗黄褐色L~CLに漸移
2766	"	今井607	谷本 浅男	0.3	5.3	0.22	含	15	C	"	暗黄褐色CL, 25~45cm 黒褐色C~CL, (火山灰土), 以下礫土
2791	新坂村	三坂	村上 長一	0.9	5.4	0.22	富	15	礫富 L	"	暗黄褐色C, 50cm 以下母材(未風化物)
2792	"	新面	寺岡 利八	0.3	4.4	0.04	"	15	CL	明黄褐	明黄褐色CL, 25cm 以下母材(未風化物)
2796	"	三坂115	池田 次郎	0.9	4.5	0.20	"	15	礫富 CL	暗黄褐	暗黄褐色CL, 40cm 以下母材(未風化物)
2815	永渡村	1364	横山助太郎	0.8	5.6	0.19	富	15	L	暗 褐	暗黄色CL, 35cm 以下母材(未風化物)

東
光
ハ
下
三
同
35
暗
火
L
ヒ
化
化
物

整理番号	調査地点		耕作者氏名	作 土					下層土の状態
	町村名	字番地		酸度 Y1	PH	石灰 %	腐植 厚さ cm	土性 色	
2816	永渡村		佐々木 久	0.3	5.6	0.10	富 15	L 暗黄褐	暗黄褐色CL, 25~50cm 暗黄色CL, 50~65cm 暗黄褐色CL, 以下母材(未風化物)
2817	"		伊藤 嘉市	0.6	5.4	0.16	" 14	L 暗 褐	黒褐色CL, (火山灰土)
2821	"		上田儀三太	0.6	6.0	0.26	" 10	L "	明黄褐色SL, 35cm 以下母材(未風化物)
2797	高光村	吉ヶ迫360	田辺 福男	5.3	4.0	0.12	頗富 13	SL "	黒褐色SL
2798	"	" 199	田辺 忠雄	1.3	4.6	0.15	" 12	SL "	同上
2799	"	" 3874	黒川 止代	1.9	4.2	0.19	" 20	SL "	暗黄色SL, 母材(未風化物)
2800	"	本郷	福田彌太郎	0.6	5.1	0.26	" 18	L "	暗褐色L, 50cm 以下母材(未風化物)
2801	"	下郷1580	丹下 繁雄	0.6	5.8	0.22	富 15	SL 暗黄褐	暗黄褐色SL, 55cm 以下礫土
2802	"	宮前	久岡 進	0.6	5.3	0.19	" 18	CL "	暗黄褐色L, 65cm 以下母材(未風化物)
2803	"	高光3002	高橋 辰次	0.6	5.2	0.14	" 15	L 暗 褐	暗黄色CL, 55~65cm 暗黄色CL, 以下母材(未風化物)
2804	"	正久2172の3	黒木 俊雄	0.9	5.2	0.21	" 15	L 暗黄褐	暗黄褐色L, 25~40cm 暗黄褐色C, 40~60cm 暗黄褐色L, 以下母材(未風化物)
2809	牧 村	田頭330	明見 琢道	1.3	5.6	0.12	" 15	SL "	礫土
2810	"	福地	横山 尙三	0.5	5.1	0.18	" 13	SL "	黄褐色L, 25cm 以下暗褐色L
2811	"	福永七曲434	佐藤 勝	0.6	5.2	0.15	" 16	SL "	暗黄褐色L, 25cm 以下礫土

本地区の地質は小野村・油木村・豊松村は石英斑岩で南に一部古生層・閃緑岩の露出をみる。その他の町村は何れも古生層である。

腐植は高光村に頗る富む所が多く、他も概ね腐植に富む。耕土の土性は高光村の一部及び牧村が砂壤土なるも他は概して壤土であり、油木村・豊松村等に埴壤土もみられる。

置換酸度は高光村の一部及び油木村に酸性土壌が多く他は概ね中性に近い。水浸液のPHは4~6で永渡村が稍高いが他は5.0前後で概ね低い。置換石灰は0.1~0.3%で0.2%前後が多く、豊松村・小野村・新坂村・及牧村に石灰含量の多い所があり0.2%以上である。

聴取調査によれば堆肥の施用は反当300~500貫で何れも多いが、石灰は余り施用して居ない。

整理番号	調査地点		耕作者氏名	作 土					下層土の状態
	町村名	字番地		酸度 Y1	PH	石灰 %	腐植 厚さ cm	土性 色	
1180	来見村	2607	林 五郎	4.8	5.1	0.09	含 9	SL 暗 褐	青色砂壤土, 35~65cm 暗黄褐色SL, 以下地下水
1181	"		渡辺伊佐太	2.4	4.7	0.14	富 12	CL "	暗褐色CL, 20~40cm 暗褐色S, 以下礫に富むSL
1182	"		渡辺伊佐太	0.5	5.2	0.16	"	灰 褐	鈣毒地
1183	"		貞佐比那吉	4.2	4.5	0.11	含 18	CL 暗黄褐	黄褐色礫に富むCL, 50cm 以下灰褐色礫土
1184	"		前原桂次郎	0.6	4.2	0.12	" 13	SL 暗 褐	黄褐色L, 35~70cm 黒色CL, 70cm 以下地下水SL
1188	仙養村	矢名瀬谷82の2	清水 富夫	2.0	5.2	0.20	富 12	SL 暗灰褐	鉄集積, 暗灰褐色礫土
2769	小島村		若林 薫		4.2	0.18	含 20	C 暗黄褐	暗黄褐色C, 30cm 以下黒褐色CL, (火山灰土)
2770	"		瀬民 正	0.9	4.7	0.16	" 15	CL "	黄褐色L, 80cm 以下S
2771	"	キナノタ	桑田ヒサコ	0.3	4.6		" 15	C "	黒褐色C, 35cm 以下黒褐色L
2772	"		行広 十郎	0.9	4.6	0.19	" 15	C "	暗黄褐色L, 25cm 以下黒褐色L

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm	土性		色
2773	小島村	白谷1958	佐々木利三田	0.9	5.3	0.18	含	16	C	暗黄褐	黒褐色CL, 20cm以下黄褐色CL
2774	"	692	大田 五市	2.8	4.9	0.15	"	15	L	"	暗黄褐色CL, 20cm以下褐色L
2756	高蓋村	1364	芦田ミスケ	6.9	4.8	0.10	富	15	S	"	暗黄褐色S
2757	"	桑木	松山 登	0.6	5.3	0.22	含	15	SL	"	暗黄褐色S, 20~80cm青色L, 以下礫土
2758	"	2691	苗代迫勘一	0.7	5.0	0.13	"	15	SL	"	褐色SL, 25cm以下黄褐色L
2759	"	久木2262	行則 トミ	0.3	5.4	0.20	富	15	礫富 SL	"	暗黄褐色S, 20cm以下明褐色SL
2760	"	久木野338の1	福広 清	5.6	5.0	0.05	富	15	CL	"	暗黄褐色CL, 25~50cm黒褐色C(火山灰土)以下黄褐色C
2761	"	光末214	小林 春夫	1.5	4.9	0.23	"	15	C	"	暗黄褐色C, 35cm以下黒褐色C(火山灰土)

本地区では仙養村・来見村に石英斑岩がみられ他は主として中生層である。
 耕土の土性は小島村が埴土~埴壤土であるが他は砂壤土が多く、一部腐植に富むが60%は含む程度である。
 置換酸度は0~7でその内50%が酸性土壌で、小島村に中性に近い所が多いが他は一般に酸性の程度は高い。
 水浸液のPHも4.2~5.5で概して低く、置換石灰は0.2%以下で来見村・仙養村に乏しい所が多い。
 堆肥は一般に反当200~400貫施用してゐるが石灰は余り施用して居ない。

2 畑 の 部

第 1 地区 (M-1)

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm	土性		色
1172	油木町		惣道 明	3.0	4.8	0.16	頗富	12	L	黒	黒色L
1173	"		中野 正夫	2.7	4.6	0.15	"	15	L	暗黄褐	暗灰褐色L
1175	"		小里 静一	0.6	5.3	0.15	含	15	CL	褐	暗黄褐色CL, 25cm以下黄色CL
1178	"		妹尾 秀一					11	L	黒 褐	褐色CL, 40~85cm黄褐色CL, 以下明黄褐色礫土
2785	豊松村	3369	大田 和	0.3	5.3	0.13	富	30	L	暗黄褐	黄褐色L, 40cm以下黄色L
2786	"	453	井原 統民	0.9	4.7	0.22	"	25	L	黄 褐	黄褐色L, 30cm以下黄色C
2787	"		内藤 正	0.3	5.4	0.38	含	20	L	暗黄褐	黄褐色C, 50cm以下暗黄褐色C
2788	"	1077	平笹 明	1.3	4.0	0.24	"	30	CL	黄 褐	黄褐色C
2789	"	2475	江草喜美男	0.3	5.6	0.28	"	15	C	暗黄褐	暗黄褐色C, 50cm以下黒褐色C
2790	"		平松 斗市	0.6	5.1	0.38	"	20	C	黄 褐	黄褐色L
2767	小野村	今井414	前原一二三	5.0	5.1	0.14	"	15	CL	黄	黄色C, 30cm以下礫土
2768	"	有郷1444	谷本 銀一	3.1	5.3	0.16	"	28	L	明黄褐	黄色L, 30cm以下礫土
2793	新坂村	新面	寺岡 利八	0.3	5.6	0.22	"	25	L	"	暗黄褐色礫に富むL
2794	"		津村 シズ	0.6	5.3	0.15	"	15	CL	"	黄褐色L
2795	"	三坂	横溝 一夫	0.6	6.0	0.25	富	22	SL	"	暗黄色SL, 60cm以下明褐色C
2818	永渡村	628	秋中 静	1.0	5.3	0.23	頗富	30	L	暗 褐	黒褐色L, 50cm以下母岩
2819	"		横山 文三	0.8	5.9	0.29	富	23	CL	暗黄褐	暗黄褐色CL
2820	"		渡辺 龜代	0.6	5.7	0.16	頗富	40	L	暗 褐	黒褐色CL

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
			酸度 Y1	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性 色		
2805	高光村 本郷144	福本 惣一	0.6	5.9	0.30	富	23	SL	暗黄褐	暗黄褐色CL
2806	〃 峠 492	川辺 群治	0.8	6.0	0.21	〃	22	L	暗黄	暗黄色L, 80cm以下母岩
2807	〃 中山方982/1	横山 嘉一	0.3	5.5	0.31	〃	22	SL	暗黄褐	暗黄褐色SL
2808	〃 森迫甲832	佐々木照夫	0.5	5.9	0.19	含	21	L	黄褐	暗黄褐色C, 35cm以下母材
2812	牧村 田頭194	沖田清太郎	1.8	5.1	0.12	頗富	25	SL	暗黄褐	暗褐色SL
2813	〃 永谷越3035	田辺 忠男	5.8	4.8	0.12	含	26	SL	灰褐	灰褐色SL, 50cm以下褐色礫土
2814	〃 七曲356	佐藤 勝	10.3	4.6	0.07		21	SL	明黄褐	明褐色SL, 40~45cm黄褐色L, 以下黒褐色L

本地区は畑が耕地の40~50%を占め一般に多い方である。腐植含量は一般に高く永渡村・高光村が富む又は頗る富むで、他の町村は富む~含むの程度である。耕土の土性は高光村の一部及び牧村が砂壤土で他は何れも埴土~壤土である。

小野村・牧村は置換酸度が高く置換石灰も少ないが、その他の町村は中性に近く、石灰含量も概して多い。水浸液のPHは4.5~6.0で水田と同様の傾向を示す。

堆肥は何れも300~400貫施用してゐるが、石灰は余り施用してゐない様である。

第2地区 (M-2)

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
			酸度 Y1	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性 色		
1179	来見村	渡辺 彌平	1.1	4.6	0.18	含	15	L	暗褐	暗褐色L, 15cm以下母岩
1185	〃	小出 正夫	0.7	5.3	0.14	〃	60			黒褐色C, 60cm以下黄褐色CL, 礫層
1186	〃 井関		0.6	5.3	0.14	〃				
1187	仙養村 矢名瀬谷56	土井 昌逸	0.3	5.9	0.17	富	12	礫富 L	暗褐	暗褐色L密
1189	〃 近田	中西 彦一	0.4	5.3	0.23	〃	15	L	暗褐	黒色L, 35~45cm黒色CL, 以下礫土
2775	小島村 木原 77	児玉千代根	7.2	4.2	0.10	含	20	礫含 L	黄褐	黄褐色L, 30~80cm黄褐色CL, 以下黄褐色C
2776	〃 岩安	小川 良一	0.6	4.8		富	15	C	暗黄褐	黄褐色C
2762	高蓋村	西岡 兼市	1.6	5.0	0.14	含	40	C	〃	黄色CL, 50cm以下黒褐色C
2763	〃 光信	江村 正夫	0.9	6.1	0.21	富	15	CL	黄褐	暗黄色CL, 40~80cm黄色C, 以下黒色C
2764	〃	川本 繁一	0.5	5.3	0.23	含	12	L	〃	明褐色C

本地区も第1地区同様畑が多く、仙養村は腐植に富むが他は概して含む程度である。耕土の土性は何れも埴土~壤土であり、下層土にも埴土・埴壤土が多い。

置換酸度は小島村に1点強酸性があるがその他は微酸性~中性に近い。水浸液のPHは一般に低く置換石灰も分布範囲は広いが多くは含量が中以下である。

堆肥は年間反当300貫程度施用するが、石灰の施用は少い様である。

(3) 郡 総 括

置換酸度、石灰含量、PH及腐植含量による程度別点数表

項目 地区		置換酸度 γ_1						置換石灰 %						
		0~0.99	1~2.99	3~5.99	6~14.99	15以上	平均値	0~0.09	0.1~0.14	0.15~0.19	0.2~0.24	0.25~0.29	0.3以上	平均値
水田	1	21	5	3	1	0	1.5	1	6	10	8	3	2	0.19
	2	9	4	3	1	0	2.1	2	5	6	4	0	0	0.15
	郡計	30	9	6	2	0	1.7	3	11	16	12	3	2	0.17
	同比率	63.7	19.2	12.8	4.3	0		6.4	23.4	34.0	25.6	6.4	4.2	
畑	1	15	5	3	1	0	1.8	1	4	7	5	3	4	0.21
	2	7	2	0	1	0	1.4	0	4	2	3	0	0	0.17
	郡計	22	7	3	2	0	1.6	1	8	9	8	3	4	0.20
	同比率	66.7	20.6	6.8	5.9	0		3.0	24.2	27.3	24.2	9.1	12.2	

項目 地区		水 浸 液 PH								腐 植		
		4.5以下	4.6~5.0	5.1~5.5	5.6~6.0	6.1~6.5	6.6~7.3	7.4以上	平均値	含む	富む	頗富
水田	1	7	7	10	6	0	0	0	5.0	3	23	4
	2	3	9	6	0	0	0	0	4.9	11	7	0
	郡計	10	16	16	6	0	0	0	4.9	14	30	4
	同比率	20.7	33.4	33.4	12.5	0	0	0		29.2	62.5	8.3
畑	1	1	5	10	8	0	0	0	5.3	11	7	5
	2	1	3	4	1	1	0	0	5.2	6	4	0
	郡計	2	8	14	9	1	0	0	5.3	17	11	5
	同比率	5.9	23.6	41.2	26.4	2.9	0	0		51.5	33.4	15.1

本郡の耕地は第1地区が田畑共に腐植に富む所が多く、第2地区は含む程度が多くなっている。置換酸度は田畑共60~70%が1以下で中性に近いが弱酸性以上の所が17~18%程度あり、特に第2地区が高い。置換石灰は第1地区は分散範囲が広く、含量0.2%以上が水田で36%、畑で45%あり多い方であるが第2地区は概して中程度以下である。水浸液のPHは両区共水田が特に低く全点数の54%までがPH5.0以下で、畑は水田に比し稍高いが一般に低い方である。

M: 神石郡の部

本郡は県の東端に位し準平原をなし南は深安郡・廣品郡に接し、西北一帯の地は甲奴郡及び比婆郡に連り東は岡山県川上・後月の2郡に隣接する。本郡を主として地形により2地区に区分する。

(1) 地区の概況並に所属町村名

第1地区：油木町、豊松村、小野村、新坂村、永渡村、高光村、牧村。

本地区は神石郡北部に位置し、岡山県に注ぐ東城川・帝釈川の流域並に、これ等河川の支流・草木川・高光川・見原川の分水嶺地帯で地勢は概して高峻で、星居山・権現山・仙養山・二子山・広石山等の諸山を有し、神石準平原を成す。平坦耕地は極めて乏しく高冷で耕地の標高は300~600mの間にあり約40~50%畑を有する町村が多く、水田は殆ど1毛作田である。畑作は甘藷・麦類の外コンニャクの栽培が盛に行はれる。

第2地区：来見村、仙養村、小島村、高蓋村。

郡南部に位置し、岡山県高梁川上流小田川・山野川の分水嶺ならびに流域地帯で、第1地区同様平坦地に乏しく、高冷で耕地の標高は主として500~600mの間にあり、小島村を除けば40~50%の畑を有し、第1地区同様麦類・甘藷の外コンニャクを栽培し水田は殆ど一毛作田である。

(2) 地区別調査結果

1 水田の部

第1地区 (M-1)

整理番号	調査地点		耕作者氏名	作					土		下層土の状態
	町村名	字番地		酸度Y1	PH	石灰%	腐植	厚さcm	土性	色	
1171	油木町	上河内谷	藤川 唯男	4.4	4.7	0.15	富	15	CL	黄 褐	黄褐色CL, 20~35cm 灰褐色CL, 35~80cm 黒色CL, (火山灰土) 以下暗灰褐色SL.
1174	"	"	池田壮太郎	9.8	4.5	0.10	含	15	L	"	黄褐色L, 盤層密
1176	"	"	加村 浩二	1.6	4.8	0.18	富	23	CL	暗黄褐	灰褐色SL
1177	"	"	藤井 藤一	2.9	5.0	0.13		14	礫含SL	"	灰褐色礫に富むSL
2777	豊松村	"	日谷 悟市	0.3	5.6	0.30	"	10	C	暗灰褐	黄褐色C
2778	"	18	高木 行乃	0.6	4.7	0.26	"	20	C	暗黄褐	黒褐色L, 50cm以下青色L
2779	"	"	藤原基三郎	0.9	4.0	0.22	"	15	CL	"	暗黄褐色L, 70cm以下礫土
2780	"	日野	矢川 竜一				含	15	GL	"	暗黄褐色CL, 45cm以下黒褐色C(火山灰土)
2781	"	有木	山崎 正亀	3.1	4.9	0.15		10	L	"	暗黄褐色L, 20cm以下青色L
2782	"	1071	松井 繁夫	0.9	5.2	0.21	富	15		"	暗黄褐色, 20cm以下青色
2783	"	"	池田 有造				"	15	CL	"	暗黄褐色L, 20cm以下暗黄褐色CL
2784	"	"	江草 計市	0.9	4.0	0.31	"	15	C	"	暗黄褐色L, 30cm以下青色L
2765	小野村	原 230	長谷川万寿	0.6	5.0	0.22	"	15	L	"	暗黄褐色L~CLに漸移
2766	"	今井607	谷本 浅男	0.3	5.3	0.22	含	15	C	"	暗黄褐色CL, 25~45cm 黒褐色C~CL, (火山灰土), 以下礫土
2791	新坂村	三坂	村上 長一	0.9	5.4	0.22	富	15	礫富L	"	暗黄褐色C, 50cm以下母材(未風化物)
2792	"	新面	寺岡 利八	0.3	4.4	0.04	"	15	CL	明黄褐	明黄褐色CL, 25cm以下母材(未風化物)
2796	"	三坂115	池田 次郎	0.9	4.5	0.20	"	15	礫富CL	暗黄褐	暗黄褐色CL, 40cm以下母材(未風化物)
2815	永渡村	1364	横山助太郎	0.8	5.6	0.19	富	15	L	暗 褐	暗黄色CL, 35cm以下母材(未風化物)

東

高光
ハ
ル

二
乏
同

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土					下層土の状態		
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm		土性	色
2816	永渡村		佐々木 久	0.3	5.6	0.10	富	15	L	暗黄褐	暗黄褐色CL, 25~50cm 暗黄色CL, 50~65cm 暗黄褐色CL, 以下母材(未風化物)
2817	"		伊藤 嘉市	0.6	5.4	0.16	"	14	L	暗 褐	黒褐色CL, (火山灰土)
2821	"		上田儀三太	0.6	6.0	0.26	"	10	L	"	明黄褐色SL, 35cm 以下母材(未風化物)
2797	高光村	吉ヶ迫360	田辺 稲男	5.3	4.0	0.12	頗富	13	SL	"	黒褐色SL
2798	"	" 199	田辺 忠雄	1.3	4.6	0.15	"	12	SL	"	同上
2799	"	" 3874	黒川 止代	1.9	4.2	0.19	"	20	SL	"	暗黄色SL, 母材(未風化物)
2800	"	本郷	福田彌太郎	0.6	5.1	0.26	"	18	L	"	暗褐色L, 50cm 以下母材(未風化物)
2801	"	下郷1580	丹下 繁雄	0.6	5.8	0.22	富	15	SL	暗黄褐	暗黄褐色SL, 55cm 以下礫土
2802	"	宮前	久岡 進	0.6	5.3	0.19	"	18	CL	"	暗黄褐色L, 65cm 以下母材(未風化物)
2803	"	高光3002	高橋 辰次	0.6	5.2	0.14	"	15	L	暗 褐	暗黄色CL, 55~65cm 暗黄色CL, 以下母材(未風化物)
2804	"	正久2172の3	黒木 俊雄	0.9	5.2	0.21	"	15	L	暗黄褐	暗黄褐色L, 25~40cm 暗黄褐色C, 40~60cm 暗黄褐色L, 以下母材(未風化物)
2809	牧 村	田頭330	明見 琢道	1.3	5.6	0.12	"	15	SL	"	礫土
2810	"	福地	横山 尙三	0.5	5.1	0.18	"	13	SL	"	黄褐色L, 25cm 以下暗褐色L
2811	"	福永七曲434	佐藤 勝	0.6	5.2	0.15	"	16	SL	"	暗黄褐色L, 25cm 以下礫土

本地区の地質は小野村・油木村・豊松村は石英斑岩で南に一部古生層・閃緑岩の露出をみる。その他の町村は何れも古生層である。

腐植は高光村に頗る富む所が多く、他も概ね腐植に富む。耕土の土性は高光村の一部及び牧村が砂壤土なるも他は概して壤土であり、油木村・豊松村等に埴壤土もみられる。

置換酸度は高光村の一部及び油木村に酸性土壌が多く他は概ね中性に近い。水浸液のPHは4~6で永渡村が稍高いが他は5.0前後で概ね低い。置換石灰は0.1~0.3%で0.2%前後が多く、豊松村・小野村・新坂村・及牧村に石灰含量の多い所があり0.2%以上である。

聴取調査によれば堆肥の施用は反当300~500貫で何れも多いが、石灰は余り施用して居ない。

35
階

火

L

一

七

化

化

物

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土					下層土の状態		
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm		土性	色
1180	来見村	2607	林 五郎	4.8	5.1	0.09	含	9	SL	暗 褐	青色砂壤土, 35~65cm 暗黄褐色SL, 以下地下水
1181	"		渡辺伊佐太	2.4	4.7	0.14	富	12	CL	"	暗褐色CL, 20~40cm 暗褐色S, 以下礫に富むSL
1182	"		渡辺伊佐太	0.5	5.2	0.16	"			灰 褐	鉄毒地
1183	"		貞佐比那吉	4.2	4.5	0.11	含	18	CL	暗黄褐	黄褐色礫に富むCL, 50cm 以下灰褐色礫土
1184	"		前原桂次郎	0.6	4.2	0.12	"	13	SL	暗 褐	黄褐色L, 35~70cm 黒色CL, 70cm 以下地下水SL
1188	仙養村	矢名瀬谷82の2	清水 富夫	2.0	5.2	0.20	富	12	SL	暗灰褐	鉄集積, 暗灰褐色礫土
2769	小島村		若林 薫		4.2	0.18	含	20	C	暗黄褐	暗黄褐色C, 30cm 以下黒褐色CL, (火山灰土)
2770	"		瀬民 正	0.9	4.7	0.16	"	15	CL	"	黄褐色L, 80cm 以下S
2771	"	キナノタ	桑田ヒサコ	0.3	4.6		"	15	C	"	黒褐色C, 35cm 以下黒褐色L
2772	"		行広 十郎	0.9	4.6	0.19	"	15	C	"	暗黄褐色L, 25cm 以下黒褐色L

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm	土性		色
2773	小畠村	白谷1958	佐々木利三田	0.9	5.3	0.18	含	16	C	暗黄褐	黒褐色CL, 20cm以下黄褐色CL
2774	"	692	大田 五市	2.8	4.9	0.15	//	15	L	//	暗黄褐色CL, 20cm以下褐色L
2756	高蓋村	1364	芦田ミスケ	6.9	4.8	0.10	富	15	S	//	暗黄褐色S
2757	"	桑木	松山 登	0.6	5.3	0.22	含	15	SL	//	暗黄褐色S, 20~80cm青色L, 以下礫土
2758	"	2691	苗代迫勘一	0.7	5.0	0.13	//	15	SL	//	褐色SL, 25cm以下黄褐色L
2759	"	久木2262	行則 トミ	0.3	5.4	0.20	富	15	礫富 SL	//	暗黄褐色S, 20cm以下明褐色SL
2760	"	久木野338の1	福広 清	5.6	5.0	0.05	富	15	CL	//	暗黄褐色CL, 25~50cm黒褐色C(火山灰土)以下黄褐色C
2761	"	光未214	小林 春夫	1.5	4.9	0.23	//	15	C	//	暗黄褐色C, 35cm以下黒褐色C(火山灰土)

本地区では仙養村・来見村に石英斑岩がみられ他は主として中生層である。
 耕土の土性は小畠村が埴土~埴壤土であるが他は砂壤土が多く、一部腐植に富むが60%は含む程度である。
 置換酸度は0~7でその内50%が酸性土壌で、小畠村に中性に近い所が多いが他は一般に酸性の程度は高い。
 水浸液のPHも4.2~5.5で概して低く、置換石灰は0.2%以下で来見村・仙養村に乏しい所が多い。
 堆肥は一般に反当200~400貫施用してゐるが石灰は余り施用して居ない。

2 畑 の 部

第 1 地区 (M-1)

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm	土性		色
1172	油木町		惣道 明	3.0	4.8	0.16	頗富	12	L	黒	黒色L
1173	"		中野 正夫	2.7	4.6	0.15	//	15	L	暗黄褐	暗灰褐色L
1175	"		小里 静一	0.6	5.3	0.15	含	15	CL	褐	暗黄褐色CL, 25cm以下黄色CL
1178	"		妹尾 秀一					11	L	黒	褐色CL, 40~85cm黄褐色CL, 以下明黄褐色礫土
2785	豊松村	3369	大田 和	0.3	5.3	0.13	富	30	L	暗黄褐	黄褐色L, 40cm以下黄色L
2786	"	453	井原 績民	0.3	4.7	0.22	//	25	L	黄 褐	黄褐色L, 30cm以下黄色C
2787	"		内藤 正	0.3	5.4	0.38	含	20	L	暗黄褐	黄褐色C, 50cm以下暗黄褐色C
2788	"	1077	平笹 明	1.3	4.0	0.24	//	30	CL	黄 褐	黄褐色C
2789	"	2475	江草喜美男	0.3	5.6	0.28	//	15	C	暗黄褐	暗黄褐色C, 50cm以下黒褐色C
2790	"		平松 斗市	0.6	5.1	0.38	//	20	C	黄 褐	黄褐色L
2767	小野村	今井414	前原一二三	5.0	5.1	0.14	//	15	CL	黄	黄色C, 30cm以下礫土
2768	"	有郷1444	谷本 銀一	3.1	5.3	0.16	//	28	L	明黄褐	黄色L, 30cm以下礫土
2793	新坂村	新面	寺岡 利八	0.3	5.6	0.22	//	25	L	//	暗黄褐色礫に富むL
2794	"		津村 シズ	0.6	5.3	0.15	//	15	CL	//	黄褐色L
2795	"	三坂	横溝 一夫	0.6	6.0	0.25	富	22	SL	//	暗黄色SL, 60cm以下明褐色C
2818	永渡村	628	秋中 静	1.0	5.3	0.23	頗富	30	L	暗 褐	黒褐色L, 50cm以下母岩
2819	"		横山 文三	0.8	5.9	0.29	富	23	CL	暗黄褐	暗黄褐色CL
2820	"		渡辺 龜代	0.6	5.7	0.16	頗富	40	L	暗 褐	黒褐色CL

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土					下層土の状態		
	町村名	字番地		酸度 YI	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm		土性 色	
2805	高光村	本郷144	飯本 惣一	0.6	5.9	0.30	富	23	SL	暗黄褐	暗黄褐色OL
2806	"	峠 492	川辺 群治	0.8	6.0	0.21	"	22	L	暗黄	暗黄色L, 80cm以下母岩
2807	"	中山方982/1	横山 嘉一	0.3	5.5	0.31	"	22	SL	暗黄褐	暗黄褐色SL
2808	"	森迫甲832	佐々木照夫	0.5	5.9	0.19	含	21	L	黄褐	暗黄褐色C, 35cm以下母材
2812	牧村	田頭194	沖田清太郎	1.8	5.1	0.12	頗富	25	SL	暗黄褐	暗褐色SL
2813	"	永谷越3035	田辺 忠男	5.8	4.8	0.12	含	26	SL	灰褐	灰褐色SL, 50cm以下褐色礫土
2814	"	七曲356	佐藤 勝	10.3	4.6	0.07		21	SL	明黄褐	明褐色SL, 40~45cm黄褐色L, 以下 黒褐色L

本地区は畑が耕地の40~50%を占め一般に多い方である。腐植含量は一般に高く永渡村・高光村が富む又は頗る富むで、他の町村は富む~含むの程度である。耕土の土性は高光村の一部及び牧村が砂壤土で他は何れも埴土~壤土である。

小野村・牧村は置換酸度が高く置換石灰も少ないが、その他の町村は中性に近く、石灰含量も概して多い。水浸液のPHは4.5~6.0で水田と同様の傾向を示す。

堆肥は何れも300~400貫施用してゐるが、石灰は余り施用してゐない様である。

第2地区 (M-2)

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土					下層土の状態		
	町村名	字番地		酸度 YI	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm		土性 色	
1179	来見村		渡辺 彌平	1.1	4.6	0.18	含	15	L	暗褐	暗褐色L, 15cm以下母岩
1185	"		小出 正夫	0.7	5.3	0.14	"	60			黒褐色C, 60cm以下黄褐色OL, 盤層
1186	"	井関		0.6	5.3	0.14	"				
1187	仙養村	矢名瀬谷56	土井 昌逸	0.3	5.9	0.17	富	12	礫富 L	暗褐	暗褐色L密
1189	"	近田	中西 彦一	0.4	5.3	0.23	"	15	L	暗褐	黒色L, 35~45cm黒色OL, 以下礫土
2775	小島村	木原 77	児玉千代根	7.2	4.2	0.10	含	20	礫含 L	黄褐	黄褐色L, 30~80cm黄褐色OL, 以下 黄褐色C
2776	"	岩安	小川 良一	0.6	4.8		富	15	G	暗黄褐	黄褐色C
2762	高蓋村		西岡 兼市	1.6	5.0	0.14	含	40	G	"	黄色OL, 50cm以下黒褐色C
2763	"	光信	江村 正夫	0.9	6.1	0.21	富	15	OL	黄褐	暗黄色OL, 40~80cm黄色C, 以下黒 色C
2764	"		川本 繁一	0.5	5.3	0.23	含	12	L	"	明褐色C

本地区も第1地区同様畑が多く、仙養村は腐植に富むが他は概して含む程度である。耕土の土性は何れも埴土~壤土であり、下層土にも埴土・埴壤土が多い。

置換酸度は小島村に1点強酸性があるがその他は微酸性~中性に近い。水浸液のPHは一般に低く置換石灰も分布範囲は広いが多くは含量が中以下である。

堆肥は年間反当300貫程度施用するが、石灰の施用は少い様である。

(3) 郡 総 括

置換酸度、石灰含量、PH及腐植含量による程度別点数表

項目 地区 程度			置換酸度 Y ₁					置換石灰%						
			0~ 0.99	1~ 2.99	3~ 5.99	6~ 14.99	15以上	平均値	0~ 0.09	0.1~ 0.14	0.15~ 0.19	0.2~ 0.24	0.25~ 0.29	0.3以上
水田	1	21	5	3	1	0	1.5	1	6	10	8	3	2	0.19
	2	9	4	3	1	0	2.1	2	5	6	4	0	0	0.15
	郡計	30	9	6	2	0	1.7	3	11	16	12	3	2	0.17
	同比率	63.7	19.2	12.8	4.3	0		6.4	23.4	34.0	25.6	6.4	4.2	
畑	1	15	5	3	1	0	1.8	1	4	7	5	3	4	0.21
	2	7	2	0	1	0	1.4	0	4	2	3	0	0	0.17
	郡計	22	7	3	2	0	1.6	1	8	9	8	3	4	0.20
	同比率	66.7	20.6	6.8	5.9	0		3.0	24.2	27.3	24.2	9.1	12.2	

項目 地区 程度			水 浸 液 PH							腐 植		
			4.5以下	4.6~ 5.0	5.1~ 5.5	5.6~ 6.0	6.1~ 6.5	6.6~ 7.3	7.4以上	平均値	含む	富む
水田	1	7	7	10	6	0	0	0	5.0	3	23	4
	2	3	9	6	0	0	0	0	4.9	11	7	0
	郡計	10	16	16	6	0	0	0	4.9	14	30	4
	同比率	20.7	33.4	33.4	12.5	0	0	0		29.2	62.5	8.3
畑	1	1	5	10	8	0	0	0	5.3	11	7	5
	2	1	3	4	1	1	0	0	5.2	6	4	0
	郡計	2	8	14	9	1	0	0	5.3	17	11	5
	同比率	5.9	23.6	41.2	26.4	2.9	0	0		51.5	33.4	15.1

本郡の耕地は第1地区が畑畑共に腐植に富む所が多く、第2地区は含む程度が多くなっている。置換酸度は田畑共60~70%が1以下で中性に近いが弱酸性以上の所が17~18%程度あり、特に第2地区が高い。置換石灰は第1地区は分散範囲が広く、含量0.2%以上が水田で36%、畑で45%あり多い方であるが第2地区は概して中程度以下である。水浸液のPHは両区共水田が特に低く全点数の54%までがPH5.0以下で、畑は水田に比し稍高いが一般に低い方である。

N: 芦品郡の部

本郡は県東部に位し東北深安及神石の2郡に接し、西南甲奴・世羅・御調及沼隈の4郡に隣接する。神石高原をひかへる傾斜地と芦田川流域平坦地よりなり、本郡を主として地形により2地区に区分する。

(1) 地区の概況並に所属町村名

第1地区：岩谷村、河佐村、阿字村、大正村、藤尾村、常金丸村、服部村。

郡北部に位置し、京上山をはじめ、大小山岳が東西に走り、北部は平坦地に乏しいが、南部に至るにつれて芦田川沖積地につながる稍平坦なる耕地を形成する。耕地の標高は100~400mの間にあり、畑を有し、阿字村・大正村・常金丸村は60~70%水田であるが、他は同程度の畑を有し、麦類・煙草・雑穀を栽培する。藤尾村・大正村は一毛作田を主とするが、他の町村は二毛作田が多い。

第2地区：府中町、廣谷村、國府村、栗生村、有磨村、福相村、宜山村、駅家村、近田村、戸手村、新市町、綱引村、下川辺村。

郡南部に位置し府中盆地より深安郡神辺盆地につながる地帯で、世羅郡神田村に発し、御調郡を経て第1地区岩谷村に入り本地区の府中町を経て郡中央部を東南に貫流し、福山市を経て海に注ぐ芦田川の平坦沖積地帯を主体とする。耕地の標高は殆ど100m以下にあり、耕地は水田を主とするが畑も若干あり、特に栗生村・綱引村・下川辺村等は40~50%の畑を有する。水田の中70~80%は二毛作田で、特に新市町は殆ど二毛作田である。

(2) 地区別調査結果

1 水田の部

第1地区 (N-1)

整理番号	調査地点		耕作者氏名	作 土						下層土の状態	
	町村名	字番地		酸度 Y1	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性		色
2823	岩谷村		坪高 政一	1.3	5.2	0.16	含	20	S	暗黄褐	暗黄褐色S, 30cm以下黄褐色S
2824	"			0.5	5.7	0.15	"				
2825	"			1.3	5.1	0.16	"				
2826	"		立花	0.5	5.9	0.19	富	20	S	暗黄褐	黄褐色S
2827	"			0.5	6.4	0.26	"				
2828	"			1.0	5.3	0.13	含				
2829	"			0.3	5.7	0.14	富				
2485	河佐村	南堀	高山 高一	0.4	5.8	0.21	含	20	S	暗黄褐	暗黄褐色S, 25cm以下黄色S
2488	阿字村		下男 勝夫	0.8	5.4	0.14	"	20	S	"	暗黄褐色S
2489	"		舟田 金作	2.2	5.2	0.08	"	10	SL	"	暗黄褐色L, 20cm以下礫土
2491	大正村		宮野 豊四	2.1	5.3	0.17	"	20	SL	"	暗黄褐色SL, 30cm以下褐色CL
2492	"		中野為竹一	3.7	5.1	0.12	"	15	SL	"	青色SL, 20cm以下明褐色S
2493	"		川本 良平	3.8	4.9	0.05	"	10	S	"	暗黄褐色S, 20cm以下礫土
2494	"		羽奈 鉄藏	3.6	5.0	0.11	"	15	S	"	褐色礫に富むS, 70cm以下明褐色礫に富むS
2495	"		小川 考一	1.6	5.0	0.14	"	18	CL	"	暗黄褐色C; 25cm以下暗褐色C
2498	藤尾村	道の下	曾根 辰藏	1.3	5.5	0.12	"	17	CL	"	灰褐色CL, 25cm以下暗黄褐色CL

整理 番号	調査地点 町村名字番地	耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性 色		
2499	藤尾村 萩原	藤井 隆三	1.0	5.5	0.19	富	14	L	暗 褐	暗褐色 L, 17~25cm 暗灰褐色 L, 以下黄褐色 C
2502	常金丸村山県前	松田 泰一	1.5	5.1	0.12	含	15	S	//	暗褐色 S, 18~26cm 暗黄褐色 S, 以下黄褐色 S
2503	// 倉本	上田 一	0.8	5.4	0.17	//	15	SL	//	18cm以下礫土
2504	// 為市	児田 真一	1.1	5.3	0.12	//	15	S	褐	褐色 S
2505	// 田中	山崎 才十	0.7	5.3		富	20	L	暗黄褐	褐色 S
2506	//	尾川 勉志	0.7	5.4	0.17	含	20	S	//	暗黄褐色 S, 30cm以下明褐色 S
2507	// 大田	小川 柳一	0.8	5.4	0.15	富	15	SL	//	暗褐色 C, 30cm以下黄色 SL
2584	服部村 大迫	大元 勇	3.3	4.7	0.17	含	12	L	//	暗灰褐色 SL, 30cm以下灰褐色 S
2585	// 永谷	森本シズ子	0.8	4.6	0.08	//	24	SL	//	暗黄褐色 L, 30cm以下母材(母岩未風化物)
2586	// 助之	深野 豊一	0.3	5.4	0.12	富	10	SL	//	暗黄褐色 SL, 15cm以下礫土
2587	// 雨木	甲斐 兼一	0.4	5.3	0.15	含	25	SL	暗 褐	暗黄褐色 SL, 35cm以下母材(母岩未風化物)
2588	// 本郷森田	佐藤 米一	0.2	5.8	0.14	//	11	SL	暗灰褐	暗灰褐色 S, 25cm以下礫土
2589	// 本郷	野平 義夫	0.2	5.3	0.29	//	15	CL	灰 褐	灰褐色 CL

本地区の地質は大正村の一部及び阿字村に花崗岩がみられるのみで、他は主として古生層よりなる。

腐植は含む程度の地点が多く耕土の土性は藤尾村に、壤土がみられ、服部村は砂壤土であるが他は何れも砂土~砂壤土が多い。下層土の土性も30~40cm以下が砂土~礫土の場合が多い。

置換酸度は0~4で、大正村・藤尾村が100%微~弱酸性土壤で、他の町村は中性~微酸性である。水浸液のPHは4.5~6でその内5~5.5が多く、大正村が特に低い。置換石灰は0.1~0.3であるが、0.2%以下が概して多い。

聴取調査によれば、堆肥は阿字村・大正村・服部村が年間反当400~600貫施用し、最も多く、常金丸村は200~300貫程度その他は施用した所は少なかった。石灰は服部村以外は余り施用していない様である。

第2地区 (N-2)

整理 番号	調査地点 町村名字番地	耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性 色		
2483	府中町	橋本 守	3.3	4.7	0.11	含	10	L	暗黄褐	暗黄褐色 CL, 20cm以下SL
2510	広谷村 カラス田	服部 保夫	0.1	6.0	0.20	富	20	SL	//	暗黄褐色 S, 30~60cm 黄褐色 S, 以下褐色 CL
2511	//	小寺勝太郎	1.5	5.0	0.10	含	15	SL	//	暗黄褐色 SL, 20~30cm 褐色 SL, 30~40cm 暗黄褐色 S, 以下L
2512	//	横山 嘉一	0.7	5.1	0.12	//	20	SL	//	暗黄褐色 SL, 暗褐色 C
2513	// 木谷	川原 武一	0.3	6.1	0.14	//	10	SL	//	暗黄褐色 S, 50cm以下青色 S
2514	//	有永 豊助	2.5	5.3	0.09	//	12	SL	//	暗黄褐色 SL, 20~40cm 青色 S, 以下青色 SL
2516	// 己口	藤本 効	0.4		0.13		15	L	//	暗黄褐色 L, 20~60cm 青色 S, 以下青色 L
2517	国府町	藤本 好一	0.7	5.3	0.10	富	15	L	//	暗黄褐色 S, 20cm以下褐色 S
2518	//	中山光太郎	0.4	5.4	0.11	//	20	L	//	褐色 S, 30cm以下礫土
2519	//	後藤 勇	1.1	4.9	0.11	含	20	L	//	暗黄褐色 SL
2520	//	小寺 朝男	0.9	5.0	0.10	//	20	SL	//	暗黄褐色 L, 25~50cm 褐色 S, 以下褐色 CL

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土					下層土の状態		
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm		土性 色	
2521	国府村		加納 列一	1.2		0.18	含	15	SL	暗黄褐	暗黄褐色 S, 30~40cm 地下水黄褐色 S, 以下褐色 S
2522	"		田辺 和市	0.2		0.12	"	20	S	"	暗黄褐色 S
2523	栗生村	冲源	木村 久義	0.6		0.10	"	15	S	暗 褐	暗黄褐色 S, 30cm 以下暗褐色 S
2524	"	人門三谷	四粗野植雄	0.1	5.3	0.11	"	15	S	暗黄褐	暗黄褐色 S, 25cm 以下褐色 S
2527	"	トロモ	持田 勇	0.4	5.6	0.22	"	15	SL	"	暗黄色 S, 25~30cm 暗黄褐色 L, 以下 S
2528	有磨村	堀町冲	河村 友一	0.8	5.4	0.12	"	15	SL	暗 褐	暗黄褐色 S, 25cm 以下黄色 SL
2529	"	東	小川 明	1.3	5.1	0.27	"	11	C	暗黄褐	暗黄褐色 C, 20cm 以下褐色 C
2530	"	下	江草房太郎	2.4	5.0	0.12	"	15	S	"	青色 SL
2531	"	行友	佐々本政男	0.4	5.7	0.13	"	15	SL	"	黄褐色 S, 20cm 以下褐色 L
2532	"	曾根田	富田登茂雄	1.5	5.2	0.10	"	18	SL	"	黒褐色 S, 25cm 以下明褐色 S
2533	"	妙正寺	戸田 実男	4.0	4.9	0.18	"	15	SL	"	暗黄褐色 L, 20~40cm 黒褐色 L, 以下黄褐色 L
2534	"	バヒ田	齊尾治太郎	0.5	5.4	0.19	"	15	CL	"	暗黄色 CL, 25cm 以下黄色 C
2535	"	中間向	村上 實治	0.4	5.4	0.10	"	15	SL	"	明褐色 SL, 20cm 以下礫土
2537	"	和田	上田 繁夫	0.6	5.9	0.17	"	20	L	"	褐色 C, 25cm 以下黄色 C
2540	福相村	西見田	広中 健一					12	CL	暗灰褐	灰褐色 CL, 20~60cm 暗黄褐色 C, 密
2541	"	広岡	藤田 元二	0.9	5.1	0.11	含	20	L	暗黄褐	暗黄褐色 L, 30cm 以下黄褐色 SL
2542	"	市原	小野 一夫	0.4	4.9	0.12	"	18	SL	"	黄褐色 SL, 25~75cm 暗褐色 CL, 以下黄褐色 CL
2543	"	田辺多	光成 高由					18	L	"	暗黄褐色 L, 25~60cm 暗黄色 S, 以下黄褐色 SL
2544	"	割石上	安田 五郎	0.8	5.4	0.14		17	L	"	暗黄褐色 L, 25cm 以下暗黄色 CL, 密
2545	"	割石中	小野 谷助	5.8	4.6	0.17	含	15	L	"	母岩 (未風化物)
2548	宜山村	東未山	高橋 深	1.4	4.9	0.11	"	14	SL	"	暗黄褐色 SL, 20~35cm 暗黄褐色 SL, 35~55cm 暗黄色 CL, 以下暗黄色 S
2549	"	末宗	中山 久吉	0.3	5.9	0.17	"	15	L	"	暗灰褐色 CL
2550	"		中川 経一	0.1	6.7	0.27	"	20	SL	"	暗黄褐色 SL, 40~80cm 暗黄色 S, 以下暗灰褐色 C
2551	"	前田	門田 繁一	1.1	5.4	0.12	"	15	L	"	暗黄褐色 L, 20~35cm 暗黄色 SL, 35cm 以下暗黄色 L
2552	"	大橋	石黒 保	3.4	5.1	0.12	"	18	SL	暗灰褐	暗灰褐色 SL, 50~70cm 褐色 S, 以下暗黄色 SL
2553	"	向永谷	宮本 勸市	0.8	5.4	0.10	"	14	SL	暗黄褐	暗黄褐色 L, 20~35cm 暗黄褐色 SL, 以下母材 (母岩未風化物)
2554	"	栗江	小林芳太郎	0.6	5.4	0.14	"	15	SL	"	灰褐色 SL, 30cm 以下灰褐色 L
2558	駅家村	新屋	栗原 勝一	0.1	6.1	0.17	"	10	SL	"	暗褐色礫に富む S
2559	"	西新屋	佐藤 美恵	0.2	5.6	0.15	"	10	SL	礫富	暗黄褐色 SL, 20~50cm 褐色 SL, 以下暗黄褐色 L
2560	"	中野町	中山 助市	0.3	5.8	0.15	"	20	SL	"	暗黄褐色 S, 25cm 以下灰褐色 S
2561	"	亀尻	山口 徳二	0.2	5.9	0.25	"	15	S	"	暗黄褐色 L, 50cm 以下灰褐色 L
2562	"	池跡	和田 政美	1.6	5.4	0.12	"	15	SL	"	暗黄褐色 S, 30cm 以下礫土
2563	"	12木	源 豊	0.8	5.6	0.15	"	15	SL	"	黄褐色 SL, 20~55cm 灰褐色 C, 以下暗灰褐色 C, 密
2564	"	万之倉	富格 一	0.3	5.6	0.16	富	20	SL	"	暗黄褐色 SL, 20cm 以下灰褐色 S
2566	"	平切	山手 綾子	1.8	5.3	0.15	含	12	SL	"	暗黄褐色 SL
2567	近田村	沼田	岡田 栄一	0.9	5.4	0.13	"	17	SL	黄 褐	暗黄褐色 SL, 25~40cm 褐色 SL, 40~50cm 暗黄褐色 SL, 50cm 以下暗黄褐色 S

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土					下層土の状態		
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm			土性
2598	近田村	下四条	高木 茂	1.9	5.2	0.06	含	16	SL	黄 褐	黄褐色SL, 25~40cm 暗黄色SL
2569	戸手村	上戸手	後迫 与市	0.1	6.6	0.23	〃	18	SL	暗黄褐	暗黄褐色L, 25~55cm 暗黄色L, 55~80cm 黄褐色CL
2570	〃	新明	平田 清一	1.0	5.3	0.08	〃	10	S	黄 褐	黄褐色SL, 20~40cm 暗灰褐色SL, 以下母岩(未風化物)
2571	〃	イノキ	瀬尾ハツイ	1.9	5.3	0.10	〃	18	SL	暗黄褐	暗黄褐色S, 20~30cm 褐色S
2573	新市町		甲斐 武一	0.3	5.7	0.18	富	15	S	〃	暗黄褐色S, 20~30cm 褐色S, 以下礫土
2574	〃		野田 礼	0.5	5.3	0.12	含	20	SL	暗 黄	褐色SL, 30cm 以下礫土
2576	綱引村	爪生	鴻 織藏	0.1	5.9	0.17		15	SL	暗黄褐	暗黄褐色SL, 20cm 以下礫土
2577	〃	門田	藤本 逸夫	0.4	5.6	0.13	富	15	SL	〃	暗黄褐色SL, 20cm 以下礫土
2578	〃	九反田	高橋 文子	0.4	5.4	0.12	〃	10	SL	〃	暗黄褐色L, 35cm 以下黄褐色L
2579	〃	青田	黒瀬清右門	1.0	5.1		〃	13	SL	〃	暗黄褐色SL, 20cm 以下黄褐色S, 礫土
2580	〃	阿原	井上円太郎	0.1	5.8	0.37	含	17	SL	暗 褐	暗黄色SL
2581	〃	中阿原	高橋 嘉吉	0.4	4.9	0.11	富	11	SL	〃	暗褐色SL, 20cm 以下明黄褐色S
3013	下川辺村	河南	上田 一郎	0.3	5.7	0.15	〃	15		灰 褐	灰褐色S, 20~30cm 黄褐色S, 以下礫土
3014	〃		佐伯 有為	0.5	5.2	0.20	〃	18		黄 褐	黄褐色L, 25~35cm 灰褐色SL, 35~50cm 黄褐色SL, 以下礫土

本地区には府中盆地より、神辺平野にかけて、芦田川沖積のかなり纏つた耕地があり、他は何れも花崗岩よりなり、栗生村と有磨村の一部に古生層がみられる。

腐植含量は、綱引村・下川辺村は富む程度であるが他は含む程度が大部分である。耕土の土性は主として砂壤土の所が多く、壤土・砂土が一部にあり下層土も30~50cm以下が砂土・礫土の所が相当多い。

置換酸度は0~4でその内70%近くが1以下でその他は微酸性である。水浸液のPHは4.8~6.0で第1地区と同様の傾向を有する。置換石灰は0.1~0.27で0.13%前後の少ないものが多い。

堆肥は年間反当300~500貫施用する所が多いが、石灰は有磨村と駅家村の一部及び宜山村に20~30貫施用した所があるが他は余り施用されて居ない。

2 畑 の 部

第1地区 (N-1)

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土					下層土の状態		
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm			土性
2486	河佐村	甲	橋本ハトー	0.6	6.6	0.25	富	20	CL	暗黄褐	礫土
2487	〃	甲	若林 利夫	0.4	6.8	0.23	含	20	L	〃	明褐色L, 30cm 以下礫土
2490	阿字村		舟田 金作	0.5	5.9	0.18	〃	20	SL	暗黄褐	黄褐色SL, 30cm 以下礫土
2496	大正村	シゲ本前	光本 直一	0.3	6.4	0.28	富	10	CL	〃	暗黄褐色CL, 20cm 以下黄褐色L
2497	〃		高山 峰安	0.4	6.1	0.18	〃	15	CL	〃	暗黄褐色CL, 20~35cm 黄色C, 以下明褐色C
2500	藤尾村	芦瀬谷峠の道の上	前原綱四郎	0.6	6.7	0.31	〃	20	L	褐	明褐色C, 35cm 以下礫土
2501	〃	寺庄甲	大戸 正一	0.8	5.6	0.17	含	15	L	黄 褐	黄褐色C
2508	常金丸村	下中	小田 佐一	0.5	5.8	0.34	〃	24	L	暗黄褐	暗黄褐色L
2509	〃	槽現	桑田 源六	0.4	6.1	0.16	〃	15	S	〃	暗黄褐色L, 20cm 以下黄褐色S

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性 色		
2590	服部村	永谷	植木 忠夫	0.3	6.1	0.15	含	40	S	暗黄褐	暗黄褐色S, 55cm以下母岩
2591	"	助元	湯谷 幸一	0.2	6.8	0.14	富	20	S	明 褐	明褐色S, 70cm以下母岩
2592	"	雨木	樋上 一二	0.2	6.1	0.10	含		礫含 S	"	明褐色礫に富むS
2593	"	本郷	佐藤 伸治	0.2	6.5	0.13	"	24	S	暗黄褐	暗黄褐色S
2594	"	新山	船橋 亨一	0.1	6.4	0.16	"	19	SL	暗 黄	暗黄色S

第2地区 (N-2)

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性 色		
2484	府中町	土生	森川 字一	3.1	4.8	0.12	含	15	L	暗 黄	黄褐色CL, 50cm以下褐色S
2515	広谷村		桑田 幸一	3.4	4.9	0.12	富	15	礫含 L	暗黄褐	暗黄褐色礫を含むL, 20~30cm黄褐色L, 以下礫土
2525	栗生村		松岡	0.8	5.5	0.09	含	30	SL	黒 褐	黒褐色SL
2526	"		藤田 悦調	赤変	5.9	0.12	"	15	S	暗黄褐	暗黄褐色S, 30cm以下褐色S
2536	有磨村	道の下	田辺 四郎	0.4	5.9	0.14	"	30	SL	黄 褐	黄褐色SL, 60cm以下暗黄色L
2538	"		富田登政雄	2.1	5.1	0.08	富	35	SL	"	暗黄色S
2539	"	矢武	貝里 安吉	2.1	4.9	0.09	含	30	S	"	黄褐色S
2546	福相村	山田	武安 薫	4.0	4.6	0.05	"	20	CL	黄 褐	黄褐色CL
2547	"	割石山	金光 義夫	0.5	5.1	0.15		20			
2555	宜山村	落舎	栗田 九一	0.2	6.6	0.26	富	15	S	暗 黄	黄色S, 75cm以下暗黄色S
2556	"	防寺	平井 賢	1.5	5.6	0.10	含	20	S	"	黄色S, 70cm以下黄褐色S
2557	"	向永谷	岡田 哲夫	1.7	5.3	0.22	"	40	S	"	黄色SL, 80cm以下母岩
2565	駅家村	赤羽	萩原 安夫	1.3	5.3	0.07	"	28	S	暗黄褐	暗黄褐色S, 60cm以下母岩
2572	戸手村		馬屋原健一	0.4	5.9	0.14	"	24	S	"	暗黄褐色S
2575	新市町		平口 次郎	1.9	5.4	0.34	富	20	S	黄 褐	黄褐色S, 40cm以下礫土
2582	綱引村	山之防	高橋火下男	0.8	4.9	0.07	含	20	S	暗黄褐	暗黄褐色S
2583	"	真光寺	平井 武男	0.2	5.4	0.09	"	20	S	"	暗黄色S, 70cm以下礫土
3015	下川辺村	字野目	栗根 健二	0.3		0.13	"	17	SL	"	礫土
3016	"	藤田	森本 武	0.5	5.8	0.25	富	17	SL	"	"

畑は腐植に富む所が30%近くみられるが、他は含む程度である。耕土の土性は、藤尾村・河佐村等に壤土の所もみられるが、他は主に砂壤土で、宜山村・新市町・綱引村・服部村等は砂土の所も多い。

置換酸度は第1地区は殆ど全部中性に近く石灰も水田に比較して多いし、水浸液のPHも概して高い。第2地区は微~弱酸性の所も多くPHも水田同様低く、置換石灰も一部0.2%以上もあるが、第1地区に比し、一般に少い様である。

堆肥は第1地区が200~400貫、第2地区は300貫近く施用しているが、石灰は服部村以外は施用されていない。

(3) 郡 総 括

置換酸度、石灰含量、PH、及腐植含量による程度別点数表

項目 地区	程度	置換酸度 Y ₁						置換石灰 %						
		0~0.99	1~2.99	3~5.99	6~14.99	15以上	平均値	0~0.09	0.1~0.14	0.15~0.19	0.2~0.24	0.25~0.29	0.3以上	平均値
		水	1	15	10	4	0	0	1.3	3	11	11	1	2
	2	40	15	4	0	0	0.9	3	32	15	4	3	1	0.15
	郡計	55	25	8	0	0	1.1	6	43	26	5	5	1	0.15
	同比率	62.5	28.4	9.1	0	0		7.0	50.0	30.2	5.8	5.8	1.2	
畑	1	14	0	0	0	0	0.4	0	3	6	1	2	2	0.20
	2	10	6	3	0	0	1.3	7	7	1	1	2	1	0.14
	郡計	24	6	3	0	0	0.9	7	10	7	2	4	3	0.16
	同比率	72.7	18.2	9.1	0	0		21.2	30.3	21.2	6.1	12.1	9.1	

項目 地区	程度	水 浸 液 PH								腐 植		
		4.5以下	4.6~5.0	5.1~5.5	5.6~6.0	6.1~6.5	6.6~7.3	7.4以上	平均値	含む	富む	頗富
		水	1	0	5	18	5	1	0	0	5.3	22
	2	0	10	26	15	2	2	0	5.4	45	11	0
	郡計	0	15	44	20	3	2	0	5.4	67	18	0
	同比率	0	17.8	52.4	23.8	3.6	2.4	0		78.6	21.4	0
畑	1	0	0	0	3	7	4	0	6.3	9	5	0
	2	0	5	7	5	0	1	0	5.1	13	5	0
	郡計	0	5	7	8	7	5	0	5.6	22	10	0
	同比率	0	15.6	21.9	25.0	21.9	15.6	0		68.7	31.3	0

本郡の耕地は腐植は含む程度が70~80%で水田は概して少い方であるが、畑は30%近く富む所がある。置換酸度は全調査点数の内水田で62%、畑では73%が中性に近く、微酸性が18~28%弱酸性が9%で酸性の程度は県全体として稍低い部類に属する。水田については第1地区は第2地区に比し酸度が高いが畑は逆に第2地区が高くなつてゐる。置換石灰は、水田では各区共大差なく中程度以下が多く、畑に於ては第1地区が含量の高い所が多いが第2地区は水田同様中程度以下が多い。水浸液のPHは水田は両区共概して低く畑は第1地区が高い。

0: 双三郡の部

本郡は早の北部より中世比羅・甲奴の二郡に界し南は世羅郡及び豊田郡の一部に隣接する。西は可愛川・江川を隔ち、高田郡及島根県に界し北は中国山脈背陵を越えて島根県に接する。県中央山地から北部山地に亘る間に在り、中央部に三次盆地を擁する。

本郡を主に三次盆地及び三次地区に区分する。

(1) 地区の概況並びに所属町村名

第1地区：君田村、布野村、作木村。

郡北部に位置し、地勢高峻で冠山・女亀山等海拔800m以上の諸山を有し、山陰・山陽の分水嶺をなす。比婆郡上高野山村に源を發し、本地区君田村を南流して、第2地区河内村において江ノ川となる神瀬川流域にやゝ纏つた平坦地を有するが、概して平坦耕地に乏しく、主として棚田を形成する。耕地の標高は300~500mの間にあり、作木村に25%程度の畑を有する外は水田を主体となし、君田村以外は約80%が一毛作田である。

第2地区：川地村、酒河村、十日市町、三次町、河内村、吉舎町、三夏坂町、和田村、神杉村、田幸村、栗屋村。

郡中部の三次盆地を中心とする地帯で、世羅郡に源を發する馬洗川、第3地区板木村に發する板木川、山県郡美和村に發し高田郡を貫流し本郡に至る可愛川、比婆郡八鈴村に發する西城川、甲奴郡吉野村に發する上下川及び比婆郡上高野山村に發する神瀬川等の諸河川が相合し、江ノ川(又は可愛川)となり、第1地区作木村を經して島根県へ北流する流域盆地帯である。流域に沖積平坦地を有し、纏つた耕地を形成する。耕地の標高は主として200~300mの間にあり一部畑を有するが水田が主体となる。水田の内約50%以上二毛作田とする所が多い。

第3地区：板木村、八幡村、川西村。

郡南部に位置し、地勢隆起して世羅郡界にいたる地帯で、小槌山、岡田山等を有し、河川流域にやゝ平坦な耕地を有するが、概してなだらかな棚田を形成する。耕地は主として標高300~400mの間にあり、八幡村に一部畑を有するが、概して水田を主体とする。水田のうち60~70%は二毛作田である。

(2) 地区別調査結果

水田の部

第1地区(0-1)

整理番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	土						下層土の状態	
			酸度 pH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm	土性	色		
2241	君田村東入復原	服部 省三	0.9	5.7	0.14	頗富	13	L	暗黄褐色	暗黄褐色S, 80cm以下礫土
2243	" 藤兼中山	米沢 議八		60		"	21	SL	黒褐	暗黄褐色L, 35~80cm 暗黄褐色礫を 含むL, 以下地下水
2245	" 404	加島 整加	8.6	5.3	0.19	"	14	CL	暗褐	暗黄褐色L, 25~80cm 暗黄褐色CL, 以下地下水
2247	" 藤入善207/2	渡辺甚良治	3.0	5.3	0.13	"	13	CL	黒褐	暗黄褐色L, 20~80cm 黄褐色L, 以下 礫土
2249	" 高水藤336	梅木 盛義	2.3	5.5	0.59	富	15	CL	"	黄褐色L, 25~40cm 黄褐色SL, 以下 黄褐色S
2251	" 蘭州原622	渡辺 泰吉	6.8	5.6	0.18	頗富	12	CL	黒	暗黄褐色L, 70cm 礫土
2253	" 下宮原1074	茶木 連	1.8	5.6	0.22	"	15	L	黒褐	赤褐色L, 70cm以下暗黄褐色SL
2255	" 橋本原	藤井 角	4.1	5.5	0.2	"	13	L	"	暗黄褐色L, 60cm以下礫土
2256	" 東入丸	藤井 勝	1.9	5.6	0.21	"	18	CL	"	鉄集積暗黄褐色L, 80~90cm 暗黄褐色 S, 以下地下水礫土
1497	布野村奥谷	伊川	1.9	5.0	0.23	"	19	CL	暗褐	黒褐色礫を含むL
1498	" 奥谷	伊川 正吉	1.0	4.4	0.19	"	25	L	"	黒褐色L

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土						下 層 土 の 状 態	
			酸度 Y ₁	P H	石灰 %	腐植 %	厚さ cm	土性 色		
1499	布野村 横谷	榎木 栄	0.6	4.7	0.29	腐植土	30	L	暗 褐	黒褐色L
1500	" 大原	小滝知三郎	0.4	4.0	0.21	頗富	24	CL	"	暗褐色CL, 40cm以下黒色CL(火山灰)
1501	" 上布野奥迫	原田 重一	3.3	4.5	0.18	"	16	L	"	鉄集積25cm, 以下黒色火山灰土
1502	" 奥迫下646	三浦 清	1.1	4.3	0.22	"	16	L	"	黒褐色L, 40~60cm暗黄褐色L, 60cm以下黒褐色L
1503	" 西ノ谷	福間 太郎	2.3	4.7	0.23	"	15	L	暗黄褐	暗黄褐色礫を含むL, 20cm以下黒褐色~褐色SL
1504	" 上布野川西	天野 俊雄	0.4	4.4	0.24	"	17	L	暗 褐	鉄集積22cm以下黒褐色SL
1505	" 遊免1178	伊原 淺一	1.0	4.8	0.21	頗富	21	L	"	鉄集積25~90cm 黒褐色SL, 以下暗褐色礫土
1507	" 二井前	広田房衛エ門	2.4	4.8	0.17	"	15	L	"	暗褐色L, 25~30cm 褐色L, 以下黒褐色礫に富むL
1508	" 柳田	日高 藤一	1.6	4.5	0.18	"	16	L	暗黄褐	暗黄褐色L, 30cm以下黒褐色SL
1509	" 下布野大伴	荒木 箕一	1.5	5.4	0.12	富	16	SL	暗 褐	灰褐色SL, 60cm以下暗褐色SL
1510	" 下布野大谷	谷川 筆市	2.4	5.0	0.16	"	18	L	暗黄褐	黒色CL, (火山灰土) 50cm 以下暗黄褐色L
1512	" 戸河内下398	藤原 秀登	6.1	5.0	0.27	"	16	L	暗 褐	黄褐色CL, 80cm以下暗灰褐色S
1513	" 戸河内上組	小林 正夫	3.9	5.5	0.21	"	12	L	"	暗灰褐色L, 30cm以下暗褐色礫に富むL
1360	作木村坂本森山中ノ2	竜川 国一	1.8	4.8	0.11	"	12	SL	暗黄褐	礫土
1361	" 岡田上沖	曾根 鶴一	4.3	4.8	0.08	"	17	L	暗 褐	褐色CL, 60cm暗褐色C
1362	" 森山中後谷	古竜 晴義	0.8	4.8	0.08	"	17	L	"	暗褐色L
1363	" 森山中宮谷	三上 静樹	3.4	4.3	0.11	頗富	17	L	"	暗黄色CL, 70cm以下黄褐色L
1364	" 丙谷	林 龜松	0.8	5.1	0.11	"	12	SL	暗黄褐	暗黄褐色SL, 30cm以下暗灰褐色S
1365	" 大山甲組	萩山 昌雄	0.6	5.2	0.07	含	16	SL	黄 褐	紫灰色SL, 25cm以下暗黄褐色L
1366	" 川尾1090	小尾 栄雄	1.9	4.9	0.12	頗富	16	SL	暗黄褐	暗黄褐色SL, 25~40cm 明黄褐色SL, 以下暗褐色SL
1368	" 門田下原	中崎 三美	1.8	4.9	0.12	"	15	SL	"	暗黄褐色SL, 22cm 以下黄褐色SL, 50cm地下水
1369	" 砂井谷610	中村 一良	2.5	4.8	0.22	"	9	L	"	黄褐色L, 60cm以下地下水
1370	" 光キ520	龜崎寛太郎	1.6	5.2	0.11	富	12	SL	"	黄褐色SL, 50cm以下礫に富むSL
1371	" 大島後谷	岩崎 隆義	0.6	4.6	0.16	"	15	L	"	暗黄褐色L
1372	" 光守	三上 藤雄	2.3	4.8	0.16	頗富	11	L	"	暗黄褐色CL, 80cm以下母岩(未風化物)
1373	" 西野下261	竹丸俊之助	1.1	4.5	0.12	"	12	L	"	
1374	"	藤野 熊市	2.3	4.8	0.16	"	10	SL	"	暗黄褐色SL, 50cm 以下暗黄褐色L

本地区の地質の地質は作木村は花崗斑岩を主とし一部に古生層・玄武岩を有し、布野村・君田村は花崗斑岩及び花崗岩を主とし一部に玄武岩・第三紀層・石英粗面岩を露出する。

腐植は頗る富む所が多く他も一般に腐植に富む。耕土の土性は壤土~砂壤土である。

置換酸度は0~8で何れの村も1以上の酸性土壌が70~80%以上あり酸性の程度も著しく高い。水浸液のP Hは4~6で概して低く4.8前後が特に多い。置換石灰は0.7~0.22%で分布範囲は広いが、作木村が特に0.15%以下が多い。

聴取調査によれば堆肥は反当300~400貫程度施用してゐるが、石灰の施用は布野村に一部10~20貫施用する他はみられない。

第2地区 (0-2)

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土					下層土の狀態	
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植 厚さ cm	土性 色		
2914	川地村	太郎丸403	小玉 栄一	0.6	5.4	0.21	含 15	CL	暗黄褐	暗黄褐色0L, 20~60cm明黄褐色C, 以下暗灰褐色C
2915	"	上川立1389	生本 正一	0.9	4.9	0.26	富 20	L	"	暗黄褐色L, 25cm以下暗灰褐色L
2916	"	" 1980	行森 甚六	0.6	4.9	0.29	含 15	L	"	暗黄褐色L, 30~60cm暗黄褐色CL, 以下礫土
2917	"	下川立384	広畑 倉人	1.0	4.7	0.11	富 20	L	"	暗黄褐色L, 30cm以下暗褐色SL
2918	"	下川立甲神	松本 義美	0.3	5.1	0.17	含 20	L	"	暗黄褐色L, 30cm以下灰褐色CL
2919	"	岡東	田中松太郎	0.3	4.9	0.19	富 16	L	"	灰褐色CL
2920	"	下志和北	山崎 義信	0.6	4.9	0.14	" 25	SL	暗 褐	黒褐色SL, 25~40cm灰褐色SL, 40~55cm黄褐色SL, 以下礫土
2921	"	川東1308	中原 一男	0.4	4.8	0.17	頗富 18	L	暗黄褐	灰褐色L, 33~38cm暗黄褐色L, 以下暗褐色L
2922	"	郷西	末国 操	0.3	4.8	0.24	" 22	SL	"	暗灰褐色SL, 40~70cm鉄集積暗褐色礫に富むSL, 以下礫土
2923	"	下志和地中 瀬谷377	永尾 徳助	0.4	5.3	0.26	富 25	L	"	暗灰褐色SL, 30~35cm暗黄褐色S, 35~60cm暗灰褐色S~SL, 以下明黄褐色S
2924	酒河村		佐々木 勝	1.0	4.8	0.28	" 12	CL	"	暗灰褐色C, 47cm以下黒褐色C
2925	"	門田1474	小林 実	0.9	4.9	0.20	" 15	C	"	暗黄褐色C, 35~85cm黒褐色C, 以下黒褐色C
2926	"	大門354	西田 唯男	0.6	5.2	0.26	頗富 15	CL	"	暗黄褐色C, 25~55cm黒褐色C, 以下暗黄褐色C
2927	"	松田1700	岡畑 房夫	0.8	4.9	0.22	富 15	L	"	明黄褐色礫土
2928	"	345の1	佐々木秀隆	0.8	4.6	0.18	" 15	L	"	暗黄褐色礫土
2929	"	下麦河	佐々木岡一	0.5	4.7	0.31	" 15	L	"	暗黄褐色SL~S
2930	"	吉河3	池田 茂	1.3	4.9	0.13	" 17	CL	暗 褐	黒褐色C, 40cm以下黒色CL (火山灰土)
1326	十日市町	後山島小305	池上 広則	1.9	4.2	0.14	" 16	L	"	黒褐色L, 25~60cm暗褐色L, 以下黒色CL (火山灰土)
1327	"	後山長迫414	中睦 勇	2.8	4.3	0.08	頗富 15	L	灰 褐	暗灰褐色L, 25~40cm黒色CL (火山灰土) 以下暗色
1328	"	島数1744の2	末丸 金一	1.9	5.0	0.10	富 14	L	暗黄褐	暗黄褐色CL, 45~75cm明褐色CL, 以下灰褐色SL
1329	"	四拾貫庄原302	田丸一二三	1.5	5.0	0.10	含 14	L	暗 褐	暗灰褐色L, 25~60cm暗黄褐色CL, 60~95cm灰褐色S, 以下黒色CL, (火山灰土)
1330	"	美重中1022	福永佐久太	2.4	5.4	0.09	" 15	L	黄 褐	暗灰褐色CL, 鉄集積50~70cm灰褐色SL
1331	"	四拾貫山家	道原 悟	2.2	5.1	0.11	" 16	SL	暗 褐	暗褐色L, 45cm以下暗黄褐色CL, 90cm地下水
1334	"	上原		1.4	6.2	0.23	" 13	L	褐	暗灰褐色L, 15~40cm黒褐色CL, 以下暗灰褐色CL~L
1335	"	黄幡	胡子 政市	1.4	5.8	0.09	富 15	L	暗黄褐	暗灰褐色L, 20~85cm暗黄褐色SL, 以下暗褐色L
1336	"	下掛原	森永 政七	2.6	4.2	0.10	含 15	L	暗 褐	灰褐色L, 20~30cm暗黄褐色L, 以下褐色S
1337	"	川所610	永谷 修一	1.2	4.2	0.08	富 14	SL	暗黄褐	暗黄褐色SL, 30cm以下黒褐色SL
1338	"	日南沖1345	松下 明	2.3	4.9	0.01	" 11	L	暗 褐	暗灰褐色L, 20~75cm紫灰色L, 以下C
1339	"	坂城971	道下 頼一	0.8	5.4	0.10	含 16	L		暗黄褐色L, 40cm以下暗黄褐色SL
1340	"		高橋 忠美	1.5	5.2	0.08	" 17	SL	暗黄褐	黄褐色S, 60~80cm暗黄褐色S, 以下黄褐色S
1342	"		新川 忠八	1.0	5.7	0.11	" 15	L	"	暗灰褐色L, 20~50cm灰褐色L, 55~80cm褐色L, 以下SL

整理 番号	調査地点 町村名字番地	耕作者 氏名	作 土							下 層 土 の 状 態
			酸度 V ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性	色	
1343	十日市町西町	松木多四郎	1.4	5.2	0.08	含	12	SL	暗黄褐	暗褐色SL, 70cm以下暗黄色S
1344	" 下原3232	新井 順一	0.9	5.1	0.01		14	L	"	暗褐色L, 75cm暗黄色S
1345	" 炭谷	滑 樹一		5.1	0.11	含				
1378	三次町 山銀29の2	東 一人	2.7	4.7	0.11	富	16	SL	暗黄褐	暗黄褐色S
1379	" 寺戸600の5	佐々木友一	3.5	4.3	0.13	"	15	L	"	赤褐色SL, 50~60cm S, 以下礫土
1380	" 願方地	山田 正雄	3.3	4.5	0.12	含	13	SL	"	暗黄褐色SL, 40cm以下礫土
1346	河内村 砂林666の2	三上 要	2.9	4.4	0.06	"	16	SL	"	暗黄褐色SL, 60cm以下礫土
1347	" 下郷577	沖岡 芳一	1.1	4.7	0.09	富	15	L	"	黄褐色L, 60cm以下礫土地下水
1348	" 本郷94	東盛 摩作	2.3	4.6	0.08	"	18	L	"	暗黄褐色L, 60cm以下黄褐色S
1349	" 小文384	中村 正	2.3	4.3	0.08	"	21	SL	"	暗黄褐色SL, 25~30cm黄褐色SL, 以下暗黄褐色S
1350	" 846	金岡 武雄	2.2	4.5	0.08	頗富	15	CL	暗 褐	黒色CL, (火山灰土)
1352	" 6613	川岡 逸次	3.5	4.5	0.09		16	SL	暗黄褐	暗黄褐色S, 40cm褐色S
1353	" 西河内320	岩見 英三	0.5	4.8	0.12	頗富	15	SL	"	暗黄褐色CL, 50cm以下礫土
1354	" 上郷	二宝 佐一	1.9	4.6	0.10	"	16	L	"	暗黄褐色S, 50cm以下暗黄褐色礫土
1355	" 山家52の2	定岡 武雄	3.5	4.1	0.04	"	17	L	黒 色	黒色L, 75cm以下暗褐色SL
1356	" 山家		3.1	4.4	0.10	"	19	L	暗 褐	黒色CL (火山灰土)
2258	吉舎町 三玉707の5	谷口 誠一	1.4	5.7	0.16	富	16	SL	暗黄褐	暗黄褐色SL, 40cm以下礫土
2259	" 948	部谷 秋夫	0.8	5.8	0.17	"	15	SL	"	暗黄褐色SL, 20~25cm黄褐色SL, 以下褐色礫に富むSL
2260	" 下矢井985の2	伝明地忠雄	1.9	5.4	0.15	"	15	L	"	暗黄褐色SL, 20~30cm明黄褐色L, 30cm暗黄褐色CL
2261	" 片野	細川 鉄郎	1.8	5.4	0.14	"	12	SL	"	灰褐色SL, 20~45cm暗黄褐色SL, 以下礫土
2262	" 土井	名賀 清一	3.2	5.2	0.12	"	13	CL	暗 褐	黒褐色CL, 15~25cm暗黄褐CL, 25 ~45cm褐色礫を含むCL, 以下礫土
2263	" 藪地1646	国定 茂一	3.5	5.0	0.13	"	12	L	"	黒褐色CL, 30cm以下黄色CL
2264	" 塩野	伊達 得三	1.4	5.5	0.16	"	14	L	"	黒褐色L, 45cm以下黄色CL
2266	" 安田1442の2	高家 英一	1.3	5.6	0.26	"	10	SL	"	暗黄褐色SL, 25cm以下黒色礫に富 むSL
2267	" 角利765	自附 慶三	1.3	5.5	0.17	"	14	SL	"	灰褐色S, 30~45cm暗黄褐色SL, 以 下礫土
2268	"			5.6		"	14	SL	暗黄褐	暗黄褐色SL, 25cm以下暗黄褐色礫 を含むSL
2269	三良坂町	渡辺 俊夫	1.3	5.1	0.17	"	15	L	暗 褐	暗黄褐色SL, 60~80cm黄褐色SL, 以下暗黄色SL
2270	" 大 噺	友広 日己	0.6	5.7	0.2	頗富	15	L	暗黄褐	暗黄褐色L, 40cm以下黄褐色SL
2271	"	小谷 薫	1.3	5.7	0.19	"	14	L	暗 褐	暗黄褐色L, 30cm以下黒色SL
2272	" 1223	岡本 正夫	1.1	5.7	0.21	"	15	L	"	暗黄褐色L, 55cm以下黒褐色CL
2274	" 灰塚	中山 義夫	0.8		0.19		18	L	"	暗黄褐色CL
2275	" 原麦	中吉 久幸	2.3	5.8	0.23	富	15	SL	暗黄褐	褐色SL
2276	" 天田	谷本 定期	0.6	5.9	0.2	"	18	L	暗 褐	
2277	" 貞致1518	清水 翠				"	16	SL	暗黄褐	暗黄褐色SL, 30~35cm暗黄褐色L, 以下灰褐色SL, 黄色漸移
2278	" 長田	佐々木海二	2.3	5.6	0.13	"	16	SL	"	暗黄褐色SL, 25cm以下暗黄色S

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土						下 層 土 の 状 態	
			酸度 Y1	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm	土性 色		
2279	三良坂町岡田	中田 和市	1.4	5.6	0.21		16	SL	暗黄褐	暗黄褐色SL, 25cm以下黄褐色SL
2280	"	伊藤 義人	0.8	5.7	0.14	富	18	SL	"	暗黄褐色SL
2281	" 2228の2	渡辺 敏夫					14	SL	明 褐	暗黄色SL, 45cm以下暗褐色礫に富むS
2282	" 沖江	平末 彰一	1.1	5.7	0.19		15	CL	褐	褐色CL, 20~45cm 暗灰褐色CL, 以下暗褐色CL
2283	和田村 四反田1349	山崎 卓一	0.8	4.9	0.10	含	16	SL	暗黄褐	鉄集積赤褐色礫に富むS
2285	"	坂井 富一	0.4	5.1	0.09	"	16	CL	"	鉄集積CL, 20cm以下暗黄褐色L
2286	" 倉田耕3121	和田 忠夫	0.6	4.7	0.22	"	19	L	"	赤褐色L, 30~60cm 暗黄褐色CL, 以下灰褐色礫土
2287	" 寺町	竹田 智	2.8	5.8	0.11	富	19	L	"	暗黄褐色L, 22~27cm 黄褐色L, 以下黄褐色礫土
2288	"	森宗 実	0.3	5.3	0.12	"	17	SL	暗 褐	暗黄褐色SL, 22~30cm 黄褐色SL, 以下S
2289	" 芋田	松井 寛一	0.5	5.0	0.06	含	12	L	"	黄褐色SL, 23cm以下暗黄褐色SL
2290	" 松永	竹田 森一	1.0	5.0	0.11	富	14	L	"	黒褐色SL, 40~70cm 地下水, 以下礫
2292	"	山下 正純	0.5	5.2	0.38		12	C	"	土暗褐色C, 80cm以下黒色C, (火山灰土)
2293	" 入石	若鳥 礼一	0.7	5.0	0.20	含	20	L	暗黄褐	暗黄褐色L 鉄集積, 25~50cm 暗褐色CL, 以下褐色CL
2294	" 下八表	中本 兼一	2.2		0.13	富	15	L	暗 褐	暗黄褐色L, 30~60cm 鉄集積礫土, 以下礫土
2295	" 大城ヶ原2595	清水 至	0.3		0.14		10	CL	暗黄褐	黄褐色CL
2296	神杉村 江田川の内	山本 虎雄	0.9	5.5	0.18	含	13	CL	"	暗黄褐色CL, 25~30cm 灰褐色CL, 以下暗黄褐色CL
2297	" 江田川の内	住田 忠	0.9	5.5	0.17	"	12	CL	暗 褐	黒褐色CL, 30~60cm 黄褐色CL, 以下密
2298	" 高杉434	三原 立美					11	CL	"	暗灰褐色C 50cm以下暗黄褐色C,
2299	" 廻神	田中 政男					12	L	暗黄褐	黄褐色SL, 35cm以下黒色礫に富むL
2300	" 辰の口1627	黒郷 正一	0.4	5.3	0.18	富	14	L	"	暗黄褐色CL, 30~80cm 黒色CL (火山灰土) 地下水以下暗褐色CL
2301	" 廻神	札幌 正美					13	L	黄 褐	暗褐色L, 45cm以下黒褐色C, (火山灰土)
2302	" 767	前田 反夫	2.3	5.1	0.17	富	15	CL	暗黄褐	黄褐色CL, 25cm以下鉄集積礫を含むCL
2303	" 江田川の内	倉沢 春彌	6.9	5.3	0.14	含	16	CL	"	鉄集積暗灰褐色礫に富むL
2304	" 廻神	田畑 義人	5.3	5.3	0.13	"	12	L	"	黄褐色礫を含むSL, 25~50cm 黒褐色CL, 以下SL
2736	田幸村 大田幸1594	梶谷 徳一	1.0	5.3	0.09	富	19	SL	"	暗灰褐色SL, 24~35cm 鉄集積黄褐色SL
2737	" 大田幸1168	割下 秋一	0.8	4.9	0.11	"	14	L	"	暗黄褐色SL, 30~60cm 黄褐色S, 以下礫層
2738	" 大田幸674	山本 清三	0.7	5.0	0.16	"	13	L	暗 褐	灰褐色L, 18~80cm 褐色SL, 以下地下水
2739	" 糸井211	佐々木孝行	0.8	4.8	0.09	含	13	CL	"	暗褐色CL, 60cm以下暗褐色CL
2740	" 糸井1795	片岡 角男	0.7	4.5	0.05	"	13	SL	暗黄褐	暗黄褐色SL
2741	" 大田幸3226	古上 良一	0.6	5.1	0.25	富	14	L	暗 褐	暗褐色L, 25cm以下礫に富むL
2742	" " 4423	児玉三右衛門	0.4	5.7	0.21	"	20	SL	褐暗褐	鉄集積25cm以下黄褐色S
2743	" " 2690	西田 佐一	1.4	4.9	0.14	含	12	SL	褐	黄褐色SL, 25~30cm 鉄集積以下灰褐色S
2744	" " 2855	平田 鹿市	3.8	4.8	0.13	富	14	CL	暗 褐	褐色CL, 30~70cm 褐色CL, 以下地下水
2745	" " 2208	植尻 武夫	0.6	4.8	0.18	"	16	SL	暗黄褐	鉄集積18cm以下黄褐色SL

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態		
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm	土性		色	
2746	田幸村			0.4	5.7	0.22	富					
1648	栗屋村	長伝	岡岡源四郎					15	SL	暗黄褐	暗黄褐色SL, 20~30cm 暗黄褐色L, 30~75cm 暗黄色SL, 以下礫土	
1649	"	上林	伊藤四四六					15	SL	"	暗褐色S, 30~60cm 暗黄褐色SL, 以下灰褐色S	
1650	"	若屋	友井 都一	5.4	4.2	0.15	富	15	L	"	暗黄褐色L, 25~35cm 灰褐色S, 35~80cm 灰褐色SL, 以下暗黄色SL	
1651	"	旭	中村 郁郎	0.3	4.3	0.11	含	15	S	"	暗黄褐色S	
1652	"	大平	成 甚一	8.1	5.0	0.21	富	13	L	"	赤褐色CL, 25cm 礫に富むCL	
1654	"	中村	建田 虎一	2.5	4.4	0.15	含	16	L	"	暗灰褐色CL, 25cm以下礫土	
1655	"	岩脇	三町 寛	4.9	5.3	0.16	"	15	L	"	暗黄褐色L, 20~60cm 暗黄褐色CL, 以下暗黄褐色L	
1656	"	荒瀬	前岡 信夫	5.1	5.3	0.11	富	16	L	"	暗黄褐色L, 50cm以下暗黄褐色CL	

本地区は主として河川沖積地で三次盆地を形成する。河内村・吉舎町・三良坂町は珒岩よりなり他は主として花崗斑岩で栗屋村には一部閃緑岩が分布する。

一般に腐植に富み河内村が頗る富む所が多い。耕土の土性は神杉村・和田村・栗屋村等は壤土~埴壤土であるが他は壤土~砂壤土が多い。

置換酸度は1以上が80%近くあり、十日市町・三次町・河内村・吉舎町・栗屋村が特に酸性土壌が多い。水浸液のPHは4.1~6.4で一般に5.5以下の低い所が多い。置換石灰は0.06~0.31%で範囲が広いが、酒河村・川地村・その他に一部0.2%以上がみられる程度で概して0.12%前後で石灰含量は低い。

堆肥は三良坂町・栗屋村で400~600貫その他は300~400貫程度施用されてゐる。石灰は三良坂町・吉舎町及び川地村の一部に10~20貫施用された所があるが他は用いて居らない所が多い。

第3地区 (0-3)

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm	土性		色
2868	板木村	土井535	森田 静	0.8	5.1	0.11	含	13	CL	暗黄褐	黄褐色C, 85cm以下礫土
2869	"	677	佐々木禎一	0.9	5.0	0.11	富	7	L	"	灰褐色CL, 75cm以下暗黄褐色SL
2870	"	621の1	国定 宜一	1.4	5.0	0.10	含	12		黄 褐	鉄集積, 黄褐色
2871	"	草木2616	時川 三一	0.9	5.1	0.11	"	16	L	暗灰褐	暗灰褐色L, 20~25cm 黄褐色L, 25cm以下灰褐色CL, 礫
2872	"	羽出庭1113	佐々木阿教	0.6				14	CL	暗黄褐	黄褐色CL, 20~30cm 暗褐色C, 30~60cm 暗褐色SL, 60~80cm 暗褐色CL, 以下青色
2873	"	羽出庭	小坂 信久	0.6	5.2	0.13	富	13	L	"	暗灰褐色CL, 20~25cm 黄褐色CL, 25~60cm 暗灰褐色C, 以下暗黄色C
2874	"	脇1888	青木 節美	1.3	4.9	0.07	含	21	SL	"	暗灰褐色SL, 30~35cm 黄色S, 35~60cm 暗灰褐色SL, 以下青色L
2875	"	下草木	北受 軍一	1.0	5.2	0.07	富	12	L	"	暗灰褐色L, 鉄集積30~40cm 黄褐色CL, 以下礫土
2876	"	備尺1406	安川 智	1.7	4.9	0.08	含	14	CL	"	暗黄褐色CL, 鉄集積30~45cm 青色CL, 45~75cm 暗黄色C, 以下青色SL, 地下水
2877	"	信原甲158	寄重 条一	1.3	5.2	0.10	富	32	L	"	黄褐色CL, 45~75cm 鉄集積暗灰褐色CL, 以下青色C
3205	八幡村	中辻508	奥田藤三郎	0.6	5.9	0.18	"	15	S	暗灰褐	黄褐色SL, 40cm以下黄褐色礫に富むSL

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm	土性 色		
3206	八幡村	川之内199	河野 幸三	1.1	5.7	0.17	富	16	S	暗灰褐	暗灰褐色SL, 20~60cm 灰褐色SL, 以下黄褐色SL
3202	"	丸田舟山	堀田 九一	0.2	5.5	0.17	"	15	SL	"	灰褐色SL, 32cm以下明褐色S
3203	"	檜	佐伯 培三	1.3	5.6	0.16	"	12	SL	"	暗灰褐色SL, 31cm以下灰褐色SL, 暗黄褐色SL, 28~32cm 灰褐色S, 以 下黄色S
3204	"	唐樋279	福場 鉄夫	1.3	5.7	0.16	"	14	SL	"	暗黄褐色SL, 30~50cm 黄褐色SL, 50~60cm 暗褐色L, 以下褐色L
1727	川西村	石原1056	新野 完六	0.4	5.1	0.11	"	20	L	暗黄褐	暗灰褐色SL, 30cm以下礫土
1728	"	石原1072	松井 篤一	0.8	4.9	0.10	"	14	L	"	暗黄褐色L, 15~30cm 黄褐色L, 30 ~45cm 暗黄褐色L, 以下礫土
1729	"	大原454の1	谷岡 勇男	0.9	4.9	0.09	"	12	L	"	黑色CL (火山灰土)
1730	"	有原426	原田 保	1.3	4.9	0.11	"	"	"	"	暗灰褐 暗灰褐色CL, 20cm以下鉄集積礫土
1731	"	下森田1016	黒瀬 玉助	1.4	4.8	0.19	"	13	L	暗 褐	暗褐色SL, 60cm以下S
1732	"	"	平田良三郎	0.9	5.2	0.11	"	12	L	暗 褐	暗褐色CL, 30~70cm 暗褐色CL以下 礫層
1734	"	十郎349	山本 義樹	2.8	5.0	0.10	"	15	CL	"	暗黄褐 暗黄褐色L, 以下鉄集積褐色S
1736	"	青木176の3	三原 忠	0.6	5.0	0.08	含	12	L	暗黄褐	灰褐色SL, 20cm以下褐色S
1737	"	沖田	重上 幸三	0.9	5.1	0.10	富	14	SL	"	

本地区の内、八幡村が玢岩で他は花崗斑岩である。
川西村は腐植に富み他は含む~富む程度である。耕土の土性は川西村が壤土他は壤土~砂壤土である。置換
酸度は0~3で八幡村に微酸性土壌が多いが他は微酸性~中性に近い。水浸液のPHは4.8~5.9で八幡村が
や、高いが他は5.0前後である。置換石灰は0.07~0.19%で八幡村が中程度で他は0.15%以下で少い。
堆肥は一般に反当300~500貫施用されるが、石灰の施用はみられない。

2 畑 の 部

第1地区 (0-1)

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm	土性 色		
1506	布野村	1603	原田二一郎	6.0	4.9	0.13	頗富	23	L	暗 褐	暗黄色L, 85cm以下暗黄色CL
1359	作木村	上江谷	倉田 盛一	0.8	5.2	0.13	富	20	L	暗黄褐	暗黄褐色L
1367	"	門田上615	河内 多市	2.5	6.8	0.25	頗富	15	SL	"	暗黄褐色L, 50cm以下暗黄褐色L
2257	君田村	東入口606	村竹 金助	2.8	5.4	0.17	"	20	CL	"	黄褐色CL, 40cm以下黄褐色L

第2地区 (0-2)

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm	土性 色		
2931	酒河村	1039	黒瀬 幸三	0.6	5.0	0.20	富	16	CL 礫含	暗黄褐	暗黄褐色C, 60cm以下黄褐色C
1325	十日市町	後山中189	池上 広則	1.4	5.7	0.10	含	19	L	暗 褐	黒褐色CL
1332	"	四谷買山家602	藤山 十郎	0.6	6.2	0.16	富	14	L	"	黄褐色CL
1333	"	71330	町里 島市	0.9	6.6	0.12	"	12	L	"	黒褐色CL, 55cm以下黄褐色CL

P : 比婆郡の部

本郡は県の最北部に位し、中国山脈背陵の山地にあり、東は鳥取・岡山両県に、北は島根県の県境となり、西は双三郡、南は神石郡・甲奴郡に隣接する。本郡を主として地形並に位置により、3地区に区分する。

(1) 地区の概況並に所属町村名

第1地区：小奴可村、八幡村、田森村、東城町、久代村、帝釈村。

郡東部に位置し、岡山県に接し同県を経て瀬戸内海に注ぐ高梁川の上流東城川及び帝釈川の流域地帯である。地区北部に岡山県及び鳥取県にまたがる海拔1000m以上の道後山・三国山をひかえ高冷で、主要耕地は東城盆地を中心として上記河川流域の平坦沖積地で、標高400~600mの間に多い。久代村及び帝釈村に20~30%の畑を有するが、殆ど水田で、その約80%以上は一毛作田である。

第2地区：八銚村、口北村、下高野山村、上高野山村、比和町。

郡北部・鳥取県・島根県との県境地帯で、猿政山・鳥帽子山・大万木山・毛無山・三国山等海拔1000m以上の連山を有し、第1地区道後山・三国山と共に中国山脈を形成する。合して江の川となる比和川・神野瀬川上流及び高野山川流域の高冷地帯である。耕地は高野山盆地・八銚盆地を中心とし、他は北より南に走る幾多溪谷に沿う棚田及び狭隘な河川沖積地で、主として標高500~600mの間に所在する。水田を主体とし殆ど一毛作田である。

第3地区：庄原町、高村、西城町、本田村、數信村、山内東村、山内西村、口南村、山内北村。

双三郡三次盆地より本郡西城盆地をむすぶ西城川（江の川支流）流域ならびに比和川（江の川支流）下流地帯で、比較的まとまつた耕地を有し、東より西に到るにつれ標高が漸次低くなり、西城町・山内北村・高村の主要耕地は標高300~500mの間にあり、その他の町村は200~300mの間に所在する。本地区は僅かに畑を有するが、主として水田でその60~80%は一毛作田である。

(2) 地区別調査結果

1 水田の部

第1地区 (P-1)

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土							下層土の状態
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性	色	
939	小奴可村内堀	高橋 建二	1.9	4.5	0.15	富	6	C	暗 褐	暗黄褐色C
940	" 千鳥	福永 勝三	2.6	4.5	0.20	"	6	L	暗黄褐	黄褐色C
941	" 小串	梅田 静夫	2.1	4.7	0.17	頗富	6	CL	"	"
942	" 中村東	稲垣金太郎	3.7	4.3	0.16	富	17	C	"	暗灰褐色CL, 25cm以下暗黄褐色C
943	" 潮原	稲垣 登	0.5	5.1	0.14	頗富	17	C	暗 褐	黒褐色CL, 22~30cm 褐色CL, 30~65cm 黒褐色C, 95~70cm 暗褐色CL, 以下黒褐色C
944	" 花ノ木	瀬尾 元己	4.2	4.7	0.11	"	15	C	"	礫土
945	" 加谷	齊藤 繁美	4.2	4.3	0.15	富	17	L	暗黄褐	暗黄褐色L, 30cm以下黄褐色C
946	" 妙見	堀井 勇一	4.8	4.5	0.18	"	15	L	"	暗黄褐色L, 25cm以下暗黄褐色CL
947	" 下田圃	高橋 源一	2.3	4.3	0.13	"	17	L	黄 褐	黄褐色L
948	八幡村 森	内藤 常雄	7.5	5.2	0.13	"				
949	" 川子	石田石太郎	3.9	4.3	0.12	"	12	L	暗黄褐	暗黄褐色L
950	" 森	森末 茂	5.1	4.3		"	12	L	暗 褐	黒褐色L, 20cm以下暗黄褐色L

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
	町村名	字番地		酸度 Y _I	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性		色
951	入幡村	森	内藤 巖夫	1.5	5.2	0.21	//	9	C	暗黄褐	明黄褐色CL
952	"	池の本	佐藤 盛勇	0.7	5.2	0.24	含	11	C	//	明黄褐色C
953	"	三草	金本 正明	6.2	4.5	0.15	頗富	9	L	//	暗黄褐色L, 25cm以下暗黄色S
954	"	受原	妹尾喜万夫	2.3	4.7	0.12	富	12	L	//	黄褐色L
934	田森村	西中田	小林 定夫	0.5	5.0	0.18	頗富	11	CL	暗黄褐	暗黄褐色CL
935	"	伊勢	水田 松尾	4.6	4.3	0.12	富	6	L	暗 褐	暗黄褐色L, 25cm以下黒褐色L
936	"		天戸 光夫	2.4	4.5	0.15	頗富	7	SL	暗黄褐	暗黄褐色SL
937	"		採岡 明	0.9	4.7	0.16	//	7	SL	暗 褐	黒褐色SL
938	"	栗田	清水 清	0.5	4.9	0.17	//	7	C	暗黄褐	暗黄褐色C
928	東城町	戸字	市岡フサノ	0.3	6.5	0.36	//	15	CL	暗 褐	黒褐色C
929	"	戸字宮の前	池田 重郎	0.5	4.8	0.21	//	20	CL	//	暗灰褐色CL, 25cm以下暗黄色C
930	"		小田 喜一	3.9	4.3	0.18	富	14	CL	暗黄褐	暗黄色CL
931	"	川西下	石倉 儀吉	1.6	4.7	0.18	頗富	15	CL	明 褐	明褐色C
932	"	川東五反	山本 良雄	1.7	4.8	0.18	富	11	CL	暗黄褐	黄褐色C, 65cm以下盤層
933	"	川西	妹尾 久志	0.6	5.0	0.24	頗富	14	CL	暗 褐	暗褐色L
1138	久代村	平田	横山 花市	3.5	4.8	0.94	//	8	SL	//	黒褐色SL, 20cm以下暗灰褐色SL
1139	"	宮原	内藤 禎	1.4	4.4	0.15	//	15	CL	暗 黄	暗黄色C
1140	"			1.9	4.4	0.23	富				
843	帝釈村	前谷	川口 吾一	1.2	4.4	0.17	頗富	18		暗 褐	暗褐色L, 50cm以下黒褐色CL
844	"	宇山下谷	栗栖 貞夫	0.7	4.9		//	16		//	黒色礫を含むL, 50cm以下礫土
845	"	未渡	加谷 正男	1.4	4.4	0.22	富	14		//	鉄集積明褐色L, 35~65cm 黒褐色L, 65~85cm 黒色CL, (火山灰土)以下礫土
846	"	未渡	山米 武集	2.1	4.2	0.14	頗富	17		//	鉄集積礫を含むCL, 25cm以下黒褐色礫に富むL

本地区の地質は小奴可村の中北部は石英斑岩、帝釈村・久代村・東城町は古生層よりなり、その他は花崗岩である。

耕土は腐植が多く、富む〜頗る富むの所が多く、土性は壤土〜粘壤土を主とする。

置換酸度は0〜6で1以上の所が74%で、田森村・東城町に0〜1の比率が高いが、他は一般に酸性土壤である。水浸液のPHも4〜5.2で県内でも最も低い方である。置換石灰は0.1〜0.24%で調査点数のうち0.2以上が28%あり、中程度がやゝ多い方である。

聴取調査によれば堆肥は反当300〜500貫施用しており、石灰の施用は余りみられない。

第2地区 (P-2)

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
	町村名	字番地		酸度 Y _I	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性		色
1141	入幡村		上田 英一	2.0	5.0	0.09	頗富	12	CL	暗黄褐	暗黄褐色CL, 40cm以下暗黄褐色礫を含むCL
1142	"		広田 春雄	4.4	3.8	0.14	腐植土	17	CL	//	暗黄褐色CL
1143	"			4.1	5.2	0.11	//	18			

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	pH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm	土性 色	
1144	入鉢村	油木		4.4	5.7	0.12	頗富	17		
912	口北村	上向住	沢田 朝人	5.1	4.8	0.22	〃	3	L	暗黄褐色L
913	〃	向住	井上 休一	8.5	4.5	0.25	富	6	CL	〃 暗黄褐色C
915	〃	日南		2.9	4.7	0.17	〃			
916	〃	皆原	山田繁太郎	2.7	4.8	0.09	頗富	9	L	〃 暗黄褐色L, 25cm以下暗黄褐色SL
917	〃	大月		2.6	4.3	0.08	〃	9	L	明黄褐色 暗黄褐色L~SL
918	〃	大月		6.1	4.2	0.15	〃	7	CL	L
919	〃	大月上岡	原田 ハル	5.7	4.7	0.12	〃	9	L	暗黄褐色 暗黄褐色L
920	〃	中組	榎原 貞雪	3.1	4.3	0.05	〃	11	SL	〃 〃
921	〃	宮内	河野 幸弘	2.0	4.7	0.11	〃	11	SL	〃 黄褐色S
922	〃	黒谷	三上 齊	2.4	4.5	0.17	〃	18	L	〃 暗黄褐色L
923	〃	宮内		2.4	4.5	0.06	〃			
924	〃	後庵	中村 虎市	1.2	4.8	0.22	〃	8	SL	暗黄褐色 暗黄褐色L, 60cm以下盤層
925	〃	日南		6.4	4.3	0.15	富			
926	〃	本谷		1.4	4.7	0.20	頗富			
927	〃	芦原		1.1		0.21				
793	下高野山村	岡大内南下		2.4	4.6	0.13	頗富			
794	〃	岡大内半戸	東 善太郎	2.4	4.6	0.09	〃	12	L	暗黄褐色 暗黄褐色L
795	〃	奥門田	小山 勝久	7.9	4.2	0.10	〃	9	L	〃 〃
796	〃	〃		3.0	4.9	0.30	〃	9	SL	明黄褐色 明黄褐色SL
797	〃	中門田	升原 兵市	0.5	4.7	0.13	〃	9	SL	暗黄褐色 赤褐色S
798	〃	岡大内高上里原	長迫 哲夫	1.4	4.9	0.12	〃	12	SL	〃 暗黄褐色SL
799	〃	下門田	田根 義武	1.5	4.2	0.10	〃	15	SL	〃 暗黄褐色SL
800	〃	上里原	牧原 盛熊	0.8	4.7	0.15	〃	9	SL	〃 暗色S
801	〃	上高暮	坂根 紫熊	3.9	4.9	0.09	〃	12	SL	〃 〃
802	〃	〃	沢井広太郎	7.3	4.7	0.16	〃	15	SL	〃 暗黄褐色SL
804	〃	〃	松原 調禅	1.9	4.6	0.22	〃	9		
805	〃	〃	長曾甚太郎	2.9	4.6	0.09	腐植土	9	L	〃 暗黄褐色L
781	上高野山村	上市	藤本 司郎	0.4	5.4	0.19	頗富	15	SL	〃 暗黄褐色SL
782	〃	別所		4.3	4.4	0.14	〃			
783	〃	下湯川船原	瀬野 正夫	2.4	4.4	0.12	〃	11	S	〃 〃
784	〃	下湯川船沖	加島 渠	3.1	4.2		〃	11	SL	〃 暗黄褐色S
785	〃	上湯川笹谷	吉山兼四郎	2.8	4.6	0.12	〃	15	L	〃 暗黄褐色L, 30cm以下暗黄褐色SL
786	〃	草原	坂根 寿	2.1	4.4	0.08	〃	11	SL	〃 暗黄褐色SL, 25cm黄褐色S
787	〃	南	西村 勝義	2.3	4.2	0.09	〃			
788	〃	和南原深渡	松島 悦造	1.6	4.4	0.11	腐植土	8	L	〃 暗黄褐色L, 15cm以下明黄褐色S
789	〃	和南原三沢	前田 勝人	1.3	4.7	0.14	頗富	12	L	〃 暗黄褐色L, 20cm以下暗黄褐色SL

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土					下層土の状態		
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm		土性 色	
790	上高野山村	和南原西見崎	野谷喜太郎		4.6			12	L	暗黄褐	暗黄褐色L, 25cm以下暗黄褐色SL
791	"	和南原		0.5	4.7	0.27	頗富				
792	"	新市殿ガ内	滝態菊次郎	1.0	4.6	0.23	"	13	L	"	暗黄褐色L, 25cm以下暗黄褐色SL
809	比和町	三河内	野畑伝太郎	2.4	4.2	0.23	富	8	L	"	黒褐色L
810	"	三河内	荒木 利夫	2.1	5.2	0.17	"		L	"	暗黄褐色L, 20~85cm黄褐色SL, 以下盤層
813	"	布見	西原 豊	1.4	4.6	0.24	頗富	5	L	"	暗黄褐色SL
814	"	布見		3.1	4.4	0.09	"		L	"	暗黄褐色SL
815	"	上古頃		2.1	4.7	0.22	"		L	"	黄褐色S
816	"	上古頃	藤田 武実	4.4	4.4	0.22	"	8	L	"	暗黄褐色L, 15cm以下暗黄褐色SL
817	"	中光渡		2.1	5.1	0.16	"	8	SL	赤 褐	
818	"	中古頃	熊原 朝夫	2.3	4.6	0.11	"	6	L	暗黄褐	暗黄褐色L
819	"	上古頃		3.7	5.4	0.20	"		L	"	暗黄褐色SL
820	"	木屋原	村田 裕	1.6	5.2	0.19	"		SL	"	暗黄褐色L
822	"	木屋原		2.5	4.6	0.12	"		SL	黄 褐	黄褐色SL, 20cm以下暗黄褐色S
823	"	木屋原		1.3	4.6	0.18	"		L	暗黄褐	暗黄褐色L, 20cm以下暗黄褐色SL
824	"	木屋原		1.5	4.7	0.16	"				
825	"	木屋原		1.9	5.2		"				
826	"	森脇	菅田 一好	2.9	4.6	0.15	"	6	L	暗黄褐	暗黄褐色SL, 20~50cm 礫土以下盤層
827	"	森脇		4.4	4.1	0.16	富		L	黄 褐	緑灰色S
828	"	山王上	加藤 忠藏	2.5	4.4	0.15	頗富	14		暗黄褐	
829	"	山王		2.0	4.9	0.19	"		L	"	暗黄褐色L, 20cm以下暗黄褐色SL
830	"	森脇	名越 達藏	1.9	4.6	0.20	"	11	L	"	暗黄褐色L, 20~50cm 緑灰色L, 以下盤層
831	"	永原		3.0	4.8	0.16	"		L	"	暗黄褐色L, 20cm以下暗黄褐色L
832	"			2.9	5.0	0.17	"		L	"	暗黄褐色L

本地区の地質は八鉾村・比和村は石英斑岩、その他は花崗斑岩・花崗岩で、八鉾村の一部に蛇紋岩・閃緑岩を見る。

耕土は腐植に頗る富む黒土が多く、土性は下高野山村は砂壤土を主とし八鉾村は埴壤土で埴質にかたむき他は壤土～砂壤土である。

置換酸度は0～8.5で1以上の所が94%で殆ど酸性土壤であるが、微酸性が最も多く弱酸性が之に次ぐ。水浸液のPHは4～5.5で著しく低い所が多い。置換石灰は0.08～0.3%で非常に広い幅を有し、0.2%以上の所も可成りあるが逆に0.1%前後の少い所も多く変異が大きい。

堆肥の施用量は比和町は少い様であつたが他は300～600貫中にはそれ以上施用してゐる所もあり、石灰はいづれも施用していない様である。

第3地区 (P-3)

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土					下 層 土 の 状 態		
	町村名	字番地		酸度 YI	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm			土性
847	庄原町	梶田	清水彌太郎	1.2	5.8	0.13	頗富	15	L	暗 褐	暗褐色L, 20~45cm 黒色CL, 以下暗褐色礫に富むCL
849	"	大久保	袖田 熊市	1.5	4.2	0.21	富	7	C	"	青緑色C
850	"	永未唐立	三河 幹	0.8	4.4	0.24	頗富	17	CL	"	黒褐色CL, 70cm以下黒色CL (火山灰土)
851	"	榎木田	村上 静写	11.4	5.2	0.32	"	9	C	褐	青緑色C, 15~45cm 明褐色C, 以下礫土
852	"	柳原	門世 龜藏	2.1	4.6		富	12	L	暗 褐	暗褐色L, 25~35cm 鉄集積褐色L, 以下黒褐色L~SL
853	"	山根	伊達 義夫	2.0	5.3	0.18	頗富	14	L	"	鉄集積褐色SL, 30~60cm 暗褐色S, 以下褐色S
854	高 村	段	田辺 善博	1.8	5.4	0.18	"	16	SL	"	黒褐色SL, 30cm以下鉄集積黒褐色礫土
855	"	川西	天野 政雄	1.7	5.6	0.18	"	13	L	"	褐色SL, 30~60cm 暗褐色SL, 以下褐色S
857	"	郷	土井甚三郎	1.8	5.3	0.17	"				
858	"	後谷	新山 実	1.8	4.9	0.30	"	13	CL	暗 褐	青緑色CL, 30~50cm 黒褐色CL, 50~60cm 褐色SL, 以下礫土
859	"	柳谷	林 訓三	3.3	4.4		"	11	C	褐	褐色C, 20cm以下青緑色C
860	西城町	粟	守長 寛	7.5	4.2	0.12	"	20	L	暗 褐	褐色礫に富むL, 25cm以下黒色CL (火山灰土)
861	"	竹原下	木村 泉	6.3	5.3	0.18	"	14	SL	"	褐色礫土20cm以下黒褐色礫に富むSL
863	"	上の場	稲田 政一	1.5	4.2	0.20	"	14	L	褐	黄褐色礫を含むL, 50cm以下黒色CL (火山灰土)
864	"	大佐沖側	前田 一雄	1.4	4.2	0.22	"				
865	"	入鳥	林 二郎	2.2	4.4	0.23	富	18	CL	暗 褐	暗褐色CL, 25cm以下黒色CL (火山灰土)
867	"	長者原	田守 弘		4.2	0.20	頗富	19	L	"	黒褐色C, 25cm以下黒色礫土
868	"	大屋今西	近藤 彌市	1.6	4.4	0.17	"	12	C	"	明褐色礫に富むL
869	"	中野	田村コトキ	1.3	4.2	0.20	"	12	L	"	鉄集積暗褐色L
870	"	大屋三田	山脇 年男	1.0	4.6	0.23	"	21	L	"	暗黄褐色L, 25cm以下黒褐色SL
871	"	沖免	石川 寅男	6.9	4.2	0.14	"	13	CL	"	褐色CL
872	"	大屋大渡	藤川 安利	1.6		0.16	"	14	CL	"	暗褐色礫を含むCL, 40cm以下黒褐色CL
883	本田村	吉備谷	池田 義之	1.3	4.4	0.13	"	18	SL	"	褐色礫に富むSL
884	"	明善	新門 善郎	1.9	4.2	0.18	富	14	L	暗黄褐	暗黄褐色礫に富むS, 20cm以下黒褐色L
885	"	青竜田元沖	原田 定一	1.5	4.4	0.15	"	12	SL	"	暗黄褐色SL, 20cm 礫層
886	"	石原	藤原 礼助	0.6	4.6	0.20	"	15	CL	暗 褐	暗黄褐色CL, 20cm以下黒褐色礫に富むL
887	"	峯立石	永山 寿	3.8	4.9	0.14	"	14	L	"	褐色L, 30~50cm 明褐色CL, 以下明褐色L
888	"	春田	中谷 林一				"	14	L	"	明褐色L
889	"	池ノ内	森重 秋登	1.6	5.0	0.22	"	13	L	"	暗黄褐色礫を含むL, 20~60cm 暗黄褐色L, 以下暗黄褐色SL
890	敷信村		藤原 好郎	1.0	4.6	0.12	頗富	9	CL	暗黄褐	暗黄褐色CL, 25cm以下緑灰色L
891	"	当実	横各 章一	1.9	4.1	0.09	"	11	C	"	暗黄色C, 25cm以下緑灰色C
892	"	一木	前谷 茂助	2.4	4.2	0.12	"	9	C	暗 褐	黒褐色C, 20cm以下暗黄褐色C
893	"	堂谷	寺迫 定雄	5.7	4.4	0.17	"	6	C	暗黄褐	暗黄褐色C
894	"	原	桑原 孟夫	2.6	4.4	0.24	"	6	C	"	暗黄褐色C, 55cm以下緑灰色C

整理 番号	調査地点 町村名字番地	耕作者 氏名	作 土							下層土の状態
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm	土性	色	
888	敷信村 大出	田中 寛一	3.1	4.4	0.22	頗富	8	C	暗黄褐	暗黄褐色C
889	" 輪の内	有附 金助	2.8	4.9	0.26	"	6	L	"	暗黄褐色C, 30cm以下黄褐色C
873	山内東村上原	原田単太郎	4.4	5.8	0.26	"	9	C	"	暗黄褐色C
874	" 掛田	片岡 徳平	1.8	4.8	0.19	富	9	CL	"	暗黄褐色CL
876	" 上原	奥田元三郎	3.6	4.4	0.32	"	6	CL	暗黄	暗黄褐色CL, 15cm以下灰褐色C
877	" 上原	森正 保座	3.8	5.2	0.11	頗富	9	C	暗褐	黒褐色C
878	" 上原	青木錬太郎	6.9	4.2	0.22	富	9	C	暗黄褐	緑灰色C
879	"	福永栄九郎	22.3	4.4	0.20	含	6	C	灰褐	黄色C, 30cm以下灰褐色C
880	" 田原	白池善四郎	3.3	4.9	0.20	富	9	CL	黒褐	暗黄褐色C
881	" 下原	森元 馨	1.1	4.4	0.28	頗富	9	CL	暗黄褐	暗黄褐色L
882	" 田原	田戸 保永	1.6	4.6	0.16		9	C	黒褐	黒褐色C
897	山内西村上	宗清新太郎	3.7	4.4	0.17	頗富	8	C	暗黄褐	暗灰褐色C, 30cm以下暗黄褐色C
898	" 上	松村 万一	2.8	4.4	0.22	富	6	C	"	暗黄褐色C, 30cm以下黒褐色C
899	" 上段	笠原 修蔵	7.2	4.4	0.27	"	5	C	"	暗褐色L, 20cm以下暗黄褐色C
900	" 上	長軍 誠之	4.6	4.3	0.14	"	8	C	暗褐	暗黄褐色C, 30cm以下暗黄褐色C
901	" 尾引	近藤 吉蔵	1.3	4.8	0.15	"	8	C	暗黄褐	暗黄褐色C, 30~60cm明黄褐色C, 60cm以下礫に富むS
902	" 上	石原 群一	2.1	4.5	0.14	"	11	OL	"	暗褐色CL, 20cm以下緑灰色L
903	" 本郷	佐々木正人	6.4	4.3	0.14	"	8	L	"	緑灰色L, 30cm以下暗黄褐色CL
904	" 戸垣内	新道 正明	1.3	5.2	0.13	頗富	8	L	暗褐	黒褐色L, 30cm以下黄褐色L
905	口南村 湯木	浅尾 正人	5.1	4.5	0.17		15	CL	暗黄褐	暗黄褐色CL, 25cm以下黒色L
908	" 常定	福田 繁喜	17.1	4.9	0.25	頗富	15	CL	"	暗黄褐色CL, 30cm以下暗黄褐色C
909	" 元常	藤原 正人	5.9	4.7	0.07	"	7	C	"	暗灰褐色C, 60cm以下暗黄褐色C
910	"	幸原 進	5.1	4.5	0.08	富	9	CL	暗褐	黒褐色CL, 30~40cm黄褐色SL, 以下礫に富むS
911	"	川上 一義	5.4	4.7	0.09	頗富	6	CL	"	暗黄褐色L, 20cm以下礫土
890	山内北村下重行	上原千代一	3.3	5.6	0.11	"	14	C	暗黄褐	明黄褐色CL, 30~45cm暗黄褐色C, 以下黒色C, (火山灰土)
891	" 川口	横山 貞夫	2.8	4.4	0.13	"	12	C	"	暗黄褐色C, 20cm以下黒褐色C
892	" 川上	世良 孝哉	2.0	5.1	0.15	"	10	CL	明黄褐	暗黄褐色礫に富むCL, 20cm暗黄褐色C
893	"		3.9	4.3	0.20	"	11	C	暗褐	黒褐色C
894	"	福原 季郎	1.8	4.3	0.17	富	8	C	"	"
896	" 濁川	後藤 豊	1.7	4.9	0.11	頗富	8	C	暗黄褐	暗黄褐色C

本地区の地質は東部は主として花崗岩・花崗斑岩・石英斑岩で一部古生層・蛇紋岩を有し、西部は玢岩及び第三紀層を主とする。

一般に礫に頗る富む黒土が多く、耕土の土性は本田村は砂壤土であるが他の町村は埴質の所が多い。

置換酸度 4.5~7.5が大部分で全部が酸性土壤でありそのうち42%迄が弱酸性以上に属する。水浸液のPHは4~5.5のうちに4~5の範囲が最も多く酸性の程度は高いが、置換石灰の含量では0.1~0.3%で0.2%以上の所は少ない。

堆肥の施用は400~600貫程度が多いが、石灰は一部反当10貫程度施用する所があるが余り施用しない様で

2 畑 の 部

第 1 地 区 (P-1)

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕 作 者 氏 名	作 土							下 層 土 の 状 態
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性	色	
1267	久代村		0.1	4.7	0.09	頗富	23	L	暗 褐	

第 2 地 区 (P-2)

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕 作 者 氏 名	作 土							下 層 土 の 状 態
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性	色	
914	口北村	井上 休一	3.9	4.5	0.16		12		暗黄褐	黄褐色
803	下高野山村下門田	松永 鉄一	0.3	6.2	0.17	腐植土	9	L	〃	黄褐色SL
807	比和町	小林 耕三	0.7	5.3	0.24	富	15	SL	〃	暗黄褐色S
812	〃		2.1	4.1	0.14	頗富	5	SL	〃	赤褐色S
821	〃	田中 寿	0.8		0.13	富	9	S	〃	暗黄褐色S

第 3 地 区 (P-3)

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕 作 者 氏 名	作 土							下 層 土 の 状 態
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性	色	
848	庄原町 大久保	吹寄楊右エ門					16	L	暗黄褐	暗黄褐色CL
856	高 村 敬正	水浜 一義	0.4	6.2	0.30		14	CL	暗 褐	黄褐色SL, 60cm 以下黄褐色礫を含 L, SL
862	西城町 手子奥名	加藤 幸義	0.4	4.7	0.32	頗富	13	礫含 L	〃	黒褐色礫に富む L, 70cm 以下暗褐色 SL
866	〃 入島	山川 勘二	1.3	4.9	0.29	〃	28	L	暗黄褐	黄褐色SL
838	本田村 峯岡	田辺 重光	1.1	4.2	0.21	〃		L	褐	
840	〃	新田幸太郎	1.1	4.4	0.20	〃	12			
895	山内北村	清水 寛雄	1.3		0.20	〃	11	CL	暗黄褐	暗黄褐色CL, 25cm 以下暗黄褐色C

畑については調査点数が少ないので詳細は不明であるが、比和町に砂土～砂壤土を見他は多く壤土～埴壤土である。腐植含量は一般に富む～頗る富むで著しく高い。

置換酸度は0～4で、中性に近い所が多く余り高くない。水浸液のPHは水田同様5以下の所が多く、置換石灰も変異の幅が広い。

堆肥の施用量は反当200～300貫程度で、石灰は大部分反当20貫程度施用している。

置換酸度、石灰含量、PH、腐植含量による程度別点数表

地 区	地 目	置 換 酸 度 V_1					平均値	置 換 石 灰 %						平均値
		0.99	1~2.99	3~5.99	6~14.99	15以上		0~0.09	0.1~0.14	0.15~0.19	0.2~0.24	0.25~0.29	0.3以上	
水 田	1	9	14	9	2	0	2.4	0	8	15	7	0	2	0.20
	2	4	39	15	5	0	2.8	11	17	18	12	2	1	0.15
	3	2	35	16	7	2	3.6	4	15	17	17	5	3	0.18
	郡計	15	88	40	14	2	3.0	15	40	50	36	7	6	0.17
	同比率	9.4	55.4	25.1	8.8	1.3		9.7	26.0	32.5	23.4	4.5	3.9	
畑	1	1	0	0	0	0	0.1	1	0	0	0	0	0	0.09
	2	3	1	1	0	0	1.6	0	2	2	1	0	0	0.17
	3	2	4	0	0	0	0.9	0	0	0	3	1	2	0.25
	郡計	6	5	1	0	0	1.1	1	2	2	4	1	2	0.20
	率比同	50.3	41.4	8.3	0	0		8.3	16.7	16.7	33.3	8.3	16.7	

地 区	地 目	項 目	水 浸 液 PH							平均値	腐 植		
			4.5以下	4.6~5.0	5.1~5.5	5.6~6.0	6.1~6.5	6.6~7.3	7.4以上		含む	富む	頗富
水 田	1	17	12	4	0	1	0	0	4.7	1	17	16	
	2	21	34	7	1	0	0	0	4.7	0	6	49	
	3	34	16	8	4	0	0	0	4.7	1	20	40	
	郡計	72	62	19	5	1	0	0	4.7	2	43	105	
	同比率	45.1	39.0	12.1	3.2	0.6	0	0		1.4	28.6	70.0	
畑	1	0	1	0	0	0	0	0	4.7	0	0	1	
	2	2	0	1	0	1	0	0	5.0	0	2	2	
	3	2	2	0	0	1	0	0	4.9	0	0	5	
	郡計	4	3	1	0	2	0	0	4.9	0	2	8	
	同比率	44.3	33.4	11.1	0	22.2	0	0		0	20.0	80.0	

本郡の耕地は著しく腐植に富み、水田の70%畑の80%までが腐植に頗る富むで他も何れも富む程度である。水田の置換酸度は県内で最も高く強酸性10%、弱酸性25%、微酸性55.4%で90%以上が酸性土壌である。地区を比較すれば第3地区が3以上(弱~強酸性)の比率が最も高く、第2・第1地区が若干その程度は少い様である。置換石灰は第1地区では0.1~0.24%(平均値0.2%)の範囲内で中程度前後であるが第2・第3地区では0.08~0.14%の範囲に分散して居り変異が大きく石灰含量の低い所も著しく多い。水浸液のPHは各区共著しく低く、第3地区は4.5%近くもある。畑の置換酸度は平均値も1.1となつて居り、50%が酸性土壌であるが水田に比較しては著しく低い。置換石灰は第1・第2地区は少いが、第3地区では何れも0.2%以上であり県内では多い。水浸液のPHは水田同様5.0以下が多く、置換石灰含有量に比し低すぎる様であるがその理由

Q:市 の 部

(1) 市 の 概 況

廣 島 市

太田川下流広島湾に発達した三角洲にあり、三方は山脈に囲まれている。耕地の標高は主として0~20mの間にあり、耕地の60%は畑で主に市周辺の傾斜地が利用され階段工が発達している。甘藷・麦及び蔬菜、一部に果樹(柑橘・桃・枇杷)が栽培される。水田は低湿地が多く一毛作田の割合は55%であるが、高畦栽培等により二毛作化を計っている。

呉 市

野呂山及び灰ヶ峰に連る急峻な山地の南面に位置し、灰ヶ峰より呉市警固屋に走る山脈で市を旧市及び広町に分け南は瀬戸内海に臨む。広大川下流の三角洲、大新開の平坦地を除いては起伏に富む急傾斜地が多い。耕地の標高は主として0~50mの間にあり、耕地の56%は急峻な傾斜地を等高線階段畑として利用して居り、主として蔬菜・麦・甘藷・一部に柑橘が栽培される。水田中一毛作田の割合は42%である。

三 原 市

本市は豊田郡東部、御調郡南部に接し、南は瀬戸内海に臨み北は大峰山・龍王山をひかへ急傾斜地が多い。耕地の標高は0~50mの間にある。平坦耕地は沼田川下流三角洲の沖積地で低湿地が多く高畦栽培が行はれる。他は峡谷の間に散在する緩傾斜の棚田であり水田の約66%が二毛作田として利用される。耕地の約50%は畑で主として蔬菜・柑橘・麦・甘藷が栽培される。

尾 道 市

三方は小波状丘陵に囲まれ水量に乏しく、南は瀬戸内海に面して向島と相対す。平坦な耕地に乏しく水田は山間地の棚田をなし、40%が一毛作田である。耕地の60%は傾斜の畑で畑地帯に属し主として蔬菜・麦・甘藷・柑橘を栽培する。

福 山 市

県東部に位し北に深安郡蔵手山山脈を負ひ南は芦田川下流三角洲の平坦地に展開する。耕地の88%が平坦な水田地帯で一毛作田の割合は僅かに17%である。米麦・蔬菜・藺草その他特用作物の栽培が行はれ、耕地は高度に利用されている。

(2) 市 別 調 査 結 果

1 水 田 の 部

廣 島 市 (Q-1)

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土							下 層 土 の 状 態
			酸度 YI	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性	色	
3207	矢賀町 中	飯田 森一	0.3	7.0	0.16	含	23	S	暗灰褐	暗青色SL,地下水
3208	" 下尾永	宮川	0.2	6.4		富	30	L	"	暗灰褐色L,50cm以下暗青色CL,地下水
3211	霞 町	煙石 稔	0.2	6.5	0.08	含	30	SL	"	暗灰褐色L,地下水
3212	牛田町 281	森田 勇	0.4	7.0		"	30	SL 礫含	黒 褐	明黄色S,45cm以下青灰色S,地下水
3213	"		1.0		0.25	"	20	L	暗灰褐	鉄集積L,20cm以下暗黄褐色L
3214	新庄町 一本木2078	原田 又吉	0.4	7.0	0.16	"	30	CL	"	鉄集積CL,35cm以下暗黄色L
3215	三条町 上山手	田島 虎雄	0.4	6.0	0.25	富	20	L	"	鉄集積L,30cm以下青灰色L,地下水

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性 色		
3218	南観音町一丁目	田中 敬太	0.5		0.19	含	20	SL	暗灰褐	暗灰褐色SL, 湿
3223	已斐町 2090	森 忠雄	0.3		0.25	〃	23	SL	暗黄褐	暗黄褐色SL, 30cm以下暗灰褐SL
3224	〃	佐久田 実	1.4		0.22	富	23	SL	〃	〃
3225	古田町 古江490	金沢伊三郎	0.4		0.24	〃	23	SL	〃	〃

主として花崗岩よりなり、腐植は含む～富む程度で、耕土の土性は砂壤土～壤土である。置換酸度は一般に中性に近い。水浸液のPHは6.0～7.0で高い方であり、置換石灰も中程度以上が多い。

堆肥の施用は一部に反当300～500貫程度施用されているが、一般に施用する所は少い様である。石灰は半数が反当30～50貫程度施用しているが他は施用して居らない。

呉 市 (Q-2)

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性 色		
503	畝原町 東惣付	若宮神三郎	0.5	4.7	0.10	含	16.5	SL	暗 褐	鉄集積暗褐色SL, 40cm以下青緑色CL
507	日出町 77	中本 伊作	5.0	6.0	0.14	〃	16.5	SL	暗黄褐	明黄褐色SL
509	阿賀町 阿賀		5.6	4.9	0.12	〃	15.0	SL	〃	暗黄褐色SL, 20～40cm明褐色CL, 以下母岩
511	〃 大入	中本 邦夫	3.4	5.7		〃	12.0	SL	褐	褐色SL
513	広 町 南古新開	小柳 齊	0.5	6.5	0.12	〃	18.0	CL	〃	暗褐色CL, 25～40cm暗黄褐色CL, 40～45cm鉄集積以下暗黄褐色S
516	〃 三坂地	山岡 春	0.6	5.2	0.12	〃	13.5	SL	暗 褐	暗褐色SL, 20～30cm暗黄褐色L, 30～90cm黄褐色L, 以下礫土
517	〃 徳丸吉地	柿本 松代	3.0	5.9	0.26	富	15.0	CL	暗黄褐	暗黄褐色C, 60cm以下暗黄褐色礫土
518	〃		1.3	5.2	0.18	含	12.0	CL	〃	黄褐色CL, 15cm以下岩盤
519	〃		9.4	4.9	0.19	富	15.0	L	〃	黄褐色L, 20cm以下礫土
520	〃 大新開	太刀掛玉三郎	0.5	6.4	0.03	〃	13.5	SL	暗 褐	青灰色SL, 25cm以下礫層
521	〃	沖原 唯夫	0.5	6.4	0.15	〃	15.0	S	黒 褐	紫灰色S
528	仁 方 小林	門田長四郎	0.8	5.7	0.16	含	18.0	SL	暗黄褐	暗黄褐色SL, 25～55cm暗褐色S, 以下暗褐色礫に富むS

本地区は北部が石英斑岩他は花崗岩よりなる。腐植は新開に富む所がみられ他は含む程度で、耕土の土性は砂壤土が多い。置換酸度は50%が酸性土壤であり、その内4点が弱酸性(3～5)1点が強酸性(9.4)で酸性土壤は多い方である。水浸液のPHは4.7～6.5で変異が大きい。置換石灰は0.26%が1点だけみられるが他は何れも中程度以下である。

堆肥の施用は少く一部に反当100～200貫程度施用してゐる。石灰は施用しない所が一部みられるが反当20～40貫程度施用している所が多い。

三 原 市 (Q-3)

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性 色		
763	宮浦町 東231	中迫藤四郎	0.5	5.7	0.23	富	13.5	SL	黒 褐	黒褐色SL, 20cm以下暗灰褐色S
764	〃 小浦649	上野 〃	0.8	4.9	0.15	〃	9	SL	〃	礫土

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性 色		
766	宮浦町 大西	入田谷和吉	1.1	4.2	0.14	10.5	L	黒 褐	褐色SL	
768	中之町 才原1635	沖 正一	0.4	5.2	0.19	富	10.5	SL	灰 褐	灰褐色SL, 18cm以下褐色S
769	" 釜田2925	岡田 秋登	1.1	4.4	0.12	"	9	SL	"	灰褐色SL, 15cm以下黄色C
770	" 福地	中本 林一	0.6	4.6	0.15	含	12	CL	"	灰褐色L, 15cm以下明黄褐色L
777	宗郷町月の溝5508	山根 誠爾	1.1	4.9	0.15	富	9	SL	暗 褐	暗褐色SL, 15cm以下礫土
779	田ノ浦町千本結866	大名竜之助	0.5	5.4	0.15	含	15	S	褐	黒褐色S
780	" 明神505	谷本 逸次	0.9	4.6	0.09	富	18	L	黄 褐	青緑色CL

三原市北部は花崗岩及び石英斑岩よりなり南部は古生層よりなる。腐植は富む程度で、耕土の土性は砂壤土が多い。置換酸度は1.1以下で何れも中性に近い。置換石灰は中程度又はそれ以下であり、水浸液のPHは4.4~5.7であるが5.4以下の低い所が多い。

堆肥は反当200~300貫程度施用している所が多く、石灰は半数位が反当20~40貫程度施用している。

尾道市 (Q-4)

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性 色		
1739	栗原町 西原田	土堂兼五郎	0.4	5.8	0.18	富	20	SL	暗黄褐	青色SL
1741	" 伺山	黒飛 梅造	0.6	5.3	0.13	含	25	L	"	黄褐色SL, 30cm以下地下水
1743	"	神森好五郎	0.3	4.7	0.14	"	18	L	黄 褐	明黄褐色L
1745	" 川上	熊谷菊一郎	0.6	4.6	0.13	"	20	L	"	黄褐色L, 30cm以下暗黄褐色L
1748	吉和町 舞田	竹本 秀夫	0.4	5.7	0.12	"	18	SL	暗黄褐	暗黄色S, 25cm以下暗黄褐色S
1749	" 丸山	岡田 一夫	0.3	5.1	0.12	"	20	SL	"	暗黄色S, 25cm以下暗黄褐色S
1752	" 久保田	前原 優	0.9	4.9	0.12	"	18	SL	"	暗黄褐色SL
1754	山波町	浜原 辰吉	赤変	5.8	0.16	"	25	S	"	青色S

花崗岩よりなり、耕土の土性は砂壤土~壤土で、腐植は含む程度である。置換酸度は何れも中性に近い。置換石灰は中程度以下で少く、水浸液のPHは4.6~5.8で一般に低い。

堆肥は年間反当300貫程度施用した所が多く、石灰は余り施用して居ない様である。

福山市 (Q-5)

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性 色		
955	光南町 野上町長通	弓場常一郎	0.3	4.8	0.11	富	8	S	暗黄褐	暗黄褐色S, 15cm以下緑灰色S
956	多治米町		0.4	4.8	0.17			L		
957	沖野上町686	作田 辰二	0.5	5.7	0.12	含	8	S	暗黄褐	暗黄褐色S, 15cm以下緑灰色4
958	多治米町中組農区		0.4	4.9	0.09	"		S		
959	"	信野 寛一	0.4	5.3	0.12	"	11	S	暗黄褐	暗黄褐色S
960	川口町 西組農区		0.4	5.2	0.10	富				

整理 番号	地名	者 名	作 土					土性	色	下 層 土 の 状 態
			酸度 Y1	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm			
961	川口町	近藤源四郎	1.1	4.8	0.08	含	8	S	暗黄褐	黄褐色 S, 25cm 以下暗黄褐色 S
962	新漕	松本 辰一	1.5	4.7	0.12	〃	8	S	〃	暗黄褐色 S, 15cm 以下緑灰色 S
963	多治米町西組農区		0.2	5.3	0.08	〃		S		
964	川口町 一番農区		0.6	4.7	0.09	〃		S		
965	〃 新漕		0.4	5.8	0.13	〃		S		
966	〃 〃		0.4	5.3	0.05	〃		S		
967	〃 新漕農区		0.3	5.0	0.08	〃		SL		
968	〃 新漕		0.6	5.3	0.08	〃		SL		
969	新漕	藤井 次郎	1.6	5.9	0.12	〃	6	S	暗黄褐	暗黄褐色 S, 15cm 以下緑灰色 S
970	川口町 新漕		2.3	4.7	0.14	〃		SL		
971	〃 〃		0.3	5.3	0.08	〃		S		
972	新漕 沖農区	西平オカメ	2.8	4.4	0.10	〃	9	SL	暗黄褐	暗黄褐色 S, 15cm 以下緑灰色 S
973	川口町 新漕		1.3	4.7	0.09	〃		S		
974	〃 〃		1.6	5.3	0.10	〃		S		
975	入船町 入船農区		0.3	5.1	0.11	〃		S		
976	手城町 西組農区	浦部 貞夫	0.4	5.2	0.08	含	17	S	暗黄褐	暗黄色 S
977	〃 〃	広中	0.6	4.9	0.08	〃		S		
978	〃 中の一農区	平田助三郎	0.8	5.0	0.09	〃	9	SL	〃	暗黄褐色 S, 20cm 以下暗黄色 S
979	〃 丸実農区	松本 政	0.8	4.6	0.07	〃		S		
980	〃 常農区	池田角太郎	0.8	4.4	0.08	〃	8	S	〃	暗黄褐色 S, 15cm 以下暗黄色 S
981	〃 堂区	中西 繁夫	0.4	5.0	0.16	〃		SL		
982	深津町 下丁分農区	鎌田 徳雄	0.7	4.5	0.09	〃	9	S	〃	暗黄褐色 S, 15cm 以下暗黄色 S
983	〃 〃		0.3	4.6	0.13	〃		SL		
984	〃 〃		0.4	5.1	0.13	〃		SL		
985	上深津町沖農区	藤井 利一	0.3	5.4	0.08	〃	9	SL	暗黄褐	暗黄褐色 SL, 15cm 以下暗黄色 S
986	東深津町		0.3	4.8	0.13	富		SL		
988	〃 部山区	岡崎 栄	0.2	5.5	0.24	含	9	L	暗黄褐	暗黄褐色 L, 15cm 以下緑灰色 L
989	深津町 西組	岩原 政夫	1.5	4.6	0.10	〃	9	L	〃	〃
990	相生町		0.7	4.6		〃		L		
993	北青津町丸山農区	神原 功	0.3	5.8	0.20	富				
994	木之庄町上組農区	中島 貞一	0.8	4.9	0.11	含	9	L	暗黄褐	暗黄褐色 L, 15cm 以下暗黄色 L
995	〃 〃	中島奎右衛門	0.3	5.0	0.20	富		SL		
996	〃 宮の前農区	小迫 清次	0.4	4.9	0.22	〃		SL		
997	草戸町		0.3	5.3		含	9	S	暗黄褐	暗黄褐色 S
998	〃 中組		0.4	5.1	0.12	〃		S		
999	佐波町		0.3	5.9	0.17	富		SL		
1000	神島町		1.8	5.1	0.06	含		S		

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性	
1001	本庄町			0.1	4.7	0.10	含		SL	
1002	津ノ郷町			1.3	5.1	0.11	含		SL	
1003	山手町			1.0	5.2	0.16	//	9	L	暗黄褐 暗黄褐色L, 15cm以下黄褐色SL
1004	//			0.1	6.5	0.18	//		SL	
1005	//			2.5	4.5	0.08	//		S	
1006	//			0.4	5.7	0.12	//	10	S	黄 褐 黄褐色S, 20cm以下暗黄褐色S
1007	//			0.3	6.4	0.13	富		S	
1008	//			0.7	4.7	0.07	含		S	
1009	木庄町			0.4	5.8	0.09	//		S	
1010	古野上町			0.3		0.19	//			

北部の丘陵部は古生層よりなる。耕土の土性は砂土～砂壤土が多く下層土も砂土である。腐植は概して含む程度である。置換酸度は川口・矢田に一部微酸性土壤がみられるが他は何れも中性に近い。水浸液のPHは4.4～6.5で分散範囲は広いが5.5以下の低い所が多い。置換石灰は大部分0.15%以下であり含量は少ない。

今回の調査では堆肥反当300貫程度又はそれ以上施用した所が三分の一程みられたが本地区は一般に糞工品の生産が盛んであり堆肥は施用され難い環境にあるが塵芥及び泥土の客入が一部にみられる。石灰の施用は少ない様である。

2 畑 の 部

廣 島 市

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性	
3209	東雲町		中野 徳三	1.5	6.6	0.17	含	50	SL	暗黄褐 暗黄褐色SL, 地下水
3210	霞 町		新谷	0.4	6.6	0.34	//	20	SL	暗 黄 暗黄色SL
3216	打越町		渡辺 信	3.4	4.4	0.08	//	20	SL	暗灰褐
3217	中広町 828		中村 唯次	0.5	4.1	0.11	//	25	L	黒 褐 暗黄褐色L
3219	南観音町一丁目		住村 秀雄	0.3	5.0	0.14	富	25	SL	暗黄褐 暗黄色SL, 45cm以下地下水SL
3220	南観音町二丁目		川村 祖吉	0.9		0.10	含	40	SL	暗灰褐 灰褐色SL, 地下水
3221	庚午町 275		真田 久雄	0	5.9	0.18	//	16	S	暗黄褐 黄褐色S
3222	古田町		湯尻 伊得	1.4		0.14	//	30	CL	黄 褐 褐色L

呉 市

整理 番号	調査地点		耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
	町村名	字番地		酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性		色
501	山手町		村尾 秀明	赤変	8.4	0.09	含	10.5	磔含 S	褐	黄褐色磔を含むS, 70cm以下磔土
502	上山田町		金沢 輝夫	1.8	4.6	0.09	//	15.0	L	暗 褐	明褐色O
504	和庄町		正法寺千力	0.5	4.9	0.09	//	15.0	SL	//	明黄褐色CL

整理 番号	調査地点	耕作者 氏名	作 土							下層土の状態
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性	色	
505	油	上川内甚太郎	2.1	5.5	0.15	含	13.5	SL	暗 褐	褐色SL
506	50	堀本石太郎	6.3	4.5	0.07	//	18.0	S	明 褐	明黄褐色礫を含むS
508	折出	岡本 正雄	1.9	4.5	0.10	//	15.0	SL	暗黄褐	明黄褐色SL
510	郷	山本 系一	5.0	4.7	0.07	//	40.0	SL 礫含	褐	暗黄褐色SL, 70cm以下暗黄色SL
512	フケダ	中本 光藏	0.5			//	13.5	S	//	褐色SL
514	西横路	大下 海一	1.0	5.4		//	16.5	CL	//	褐色C
515	大広	保田 実造	0.6	5.0	0.06	//	15.0	SL	暗 褐	
522	胡	山根 己助	0.5	5.5	0.14	//		S	暗黄褐	
523	名田	室山 貞次	0.3	4.7	0.11	//	12.0	SL	//	黄褐色C
524		谷 一登	赤変	8.1	0.18	//	9.0	S	暗 褐	暗黄褐色礫に富むS

三 原 市

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土							下層土の状態
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性	色	
762	皆見	小白彌太郎	0.5	5.4	0.1	富	12	S	暗黄褐	黄褐色S
765	西野町	三原詰佐一	0.5	5.4	0.08	含	12	SL	褐	褐色L
767	中之町 3318の2	大森 匠	2.6	4.4	0.1	//	12	SL	//	褐色L, 20cm以下明褐色礫に富むS
771	向谷	川口 豊	0.4	6.5	0.25	//	9	S	暗 黄	明黄褐色SL
772	田畑	岡本 儀行	1.5	4.7	0.2	//	12	CL	黄 褐	黄褐色CL
773	須波西町吉信	丸山 順一	1.4	4.4	0.12	//	13.5	S	暗黄褐	暗黄褐色S
774	須波町	西原兼三郎	0.3	7.1	0.33	富	12	CL	黄 褐	黄褐色CL, 25cm以下黄褐色礫土
775	林	西原 英	0.4	5.2	0.16	含	9	CL	//	黄褐色CL
776	野平1480	中村宮太郎	0.4	5.7	0.2	富	9	SL	//	黄褐色SL
778	田之浦町加茂上之奥	榑 安夫	1.4	4.2	0.3	//	13.5	SL	黒 褐	黒褐色S

尾 道 市

整理 番号	調査地点 町村名 字番地	耕作者 氏名	作 土							下層土の状態
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植	厚さ cm	土性	色	
1740	栗原町 池の上	細谷 春吉	0.4	6.3	0.13	含	27	S	黄 褐	黄褐色S
1742	// 向山	崎本伊三次	0.3		0.07	//	20	SL	//	黄褐色SL, 50cm以下明黄褐色SL
1744	// 向方	榎原 礼三	0.6	4.6	0.10	//	30	SL	//	黄褐色SL
1746	// 則末	住元秀太郎	赤変	6.8	0.17	//	40	SL	暗黄褐	//
1747	吉和町 祇園原	国近太三郎	0.4	6.3	0.14	//	30	S	//	暗黄褐色S
1750	// 背山	手内田岩次郎	0.6	4.8	0.11	//	40	SL	黄 褐	明黄褐色SL
1751	// 大夫坂	岡村 虎一	赤変	6.2	0.15	富	30	SL	暗黄褐	暗黄色SL
1753	// 中山	岡本 悦三	0.4	5.6	0.25	含	15	SL	黄 褐	暗黄色S, 40cm以下暗黄褐色S

整理 番号	調査地点 町村名字番地	耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm	土性 土色		
1755	山波町 石田	浜原 哲夫	赤変	6.1	0.18	含	20	SL	暗黄褐	黄褐色S
1756	"	山田正次郎	赤変	6.9	0.26	"	30	SL	"	褐色SL

福 山 市

整理 番号	調査地点 町村名字番地	耕作者 氏名	作 土						下層土の状態	
			酸度 Y ₁	PH	石灰 %	腐植 %	厚さ cm	土性 土色		
987	東深津町米座区	藤井 貞一	0.3	4.8	0.09	含	11	S	暗黄褐	暗黄褐色S, 20cm以下明黄褐色S
991	奈良津町東農区	鱗市 太郎	0.4	5.2	0.18	"				
992	" 本農区	桑田 清助	0.4	5.3	0.15	"	21	SL		

耕土の土性は砂壤土～砂土であり、腐植も含む程度である。置換酸度は呉市が46%酸性土壌であり稍高く広島市・三原市が之に次ぎ福山市・尾道市は中性に近い。水浸液のPHは各市共分散範囲が広く尾道市は比較的PHは高い。置換石灰は三原市に0.2%以上の所が50%みられるが他は概して中程度以下である。広島市・呉市は堆肥の施用は少く石灰も施用されて居ない。三原市は堆肥反当200～300貫施用し石灰も多くは反当20～40貫施用して居る。福山市・尾道市では堆肥又は塵芥を300貫程度施用しているが石灰は施用していない様である。

(3) 市部総括

置換酸度、石灰含量、PH、腐植含量による程度別点数表

項目 地区	程度	置換酸度 Y ₁						置換石灰 %						
		0~	1~	3~	6~	15以上	平均値	0~	0.1~	0.15~	0.20~	0.25~	0.3以上	平均値
		0.99	2.99	5.99	14.99			0.09	0.14	0.19	0.24	0.29		
水田	広島市	9	2	0	0	0	0.5	10	0	3	2	3	0	0.20
	呉市	6	1	4	1	0	2.6	1	5	4	0	1	0	0.14
	三原市	6	3	0	0	0	0.8	1	2	5	1	0	0	0.15
	尾道市	8	0	0	0	0	0.4	0	6	2	0	0	0	0.14
	福山市	41	12	0	0	0	0.7	19	22	6	4	0	0	0.12
畑	広島市	5	2	1	0	0	1.1	1	4	2	0	0	1	0.16
	呉市	7	4	1	1	0	1.6	6	3	2	0	0	0	0.10
	三原市	6	4	0	0	0	0.9	1	3	1	2	1	2	0.18
	尾道市	10	0	0	0	0	0.3	1	4	3	0	2	0	0.16
	福山市	3	0	0	0	0	0.4	1	0	2	0	0	0	0.14

項目	地区	水浸液 PH							腐植			
		4.5以下	4.6~5.0	5.1~5.5	5.6~6.0	6.1~6.5	6.6~7.3	7.4以上	平均値	含む	富む	頗富
水田	広島市	0	0	0	1	2	3	0	6.6	7	4	0
	呉市	0	3	2	4	3	0	0	5.6	8	4	0
	三原市	2	4	2	1	0	0	0	4.9	2	6	0
	尾道市	0	3	2	3	0	0	0	5.2	7	10	0
	福山市	4	22	17	7	2	0	0	5.1	44	8	0
畑	広島市	2	0	0	2	0	2	0	5.5	7	1	0
	呉市	2	5	3	0	0	0	2	5.5	13	0	0
	三原市	3	1	3	1	1	1	0	5.3	6	4	0
	尾道市	0	2	0	1	4	2	0	6.0	9	1	0
	福山市	0	1	2	0	0	0	0	5.1	3	0	0

置換酸度は呉市が畑畑共に一部高い所がみられ他は概して低い(微酸性~中性)・石灰含量は広島市の水田、三原市の畑等一部に0.2%以上の所も見られるが他は一般に少ない様である。水浸液のPHは広島市が高いが他は分布範囲も広く変異は大きい。

〔3〕 総 括

(1) 自然環境の概況

本成績を取纏めるに当り、既に述べた如く、主として地形的な条件を基礎として各郡を数地区に区分し説明したのであるが、各地区の概況については各成績記載の都度簡単に説明してあるので、県全般の成績を検討するに当り、広島県の主として自然環境の大要を説明する。

本県の地勢は巻頭図版の如く、県北境には山陰山陽両道を区分する中国山脈があり、その走位は東北より西南に互り、江の川の溪谷が中央において之を遮断している。一方中国山脈の道後山より南に、比婆郡東部神石郡西部・世羅郡中部・高田郡南部を経て山県郡東部に至る山系があり中央山地帯をなし、之等の山脈に源を發する河川は東部に東城川・帝釈川があり中央部には江の川があり、比婆郡・甲奴郡・世羅郡より高田郡・山県郡の一部と広大な流域を抱えて集水し島根県を経て日本海に至る。西部には太田川があり主として山県郡・佐伯郡より集水して瀬戸内海に至り何れも水量は比較的多い。その他の主として中央山地帯に源を發し瀬戸内海に注入する河川は何れも流路短く広轄な沖積地を形成し得ず、本県の平野としては芦田川下流の神辺平野・太田川下流の安芸平野があるのみで広大な平野に乏しい。山系と水系により次の如き地帯に区分する事が出来る。

- 1) 三次盆地を中心とする江の川流域地帯
- 2) 安芸平野を中心とする太田川流域地帯
- 3) 西条盆地を中心とする沼田川・廣大川流域地帯
- 4) 神辺平野を中心とする芦田川流域地帯
- 5) 神石高原を中心とする高梁川流域地帯
- 6) 瀬戸内海に散在する島嶼地帯

耕地は総面積の11%にすぎず83%までが山林によつて占められて居り、集団耕地は極めて少く1,000町歩以上の集団耕地の見られるのは神辺平野・西条盆地・三次盆地・安芸平野のみで、その他の耕地は主として小盆地又は河川に沿う狭隘な沖積地並びに溪谷に沿う傾斜地の所謂棚田及び階段畑で、耕地の標高も0~800mの間に分散している。中北部は水田を主体とし沿岸部にいたるにつれ畑が増加し、特に島嶼部に於ては殆んどが畑である。

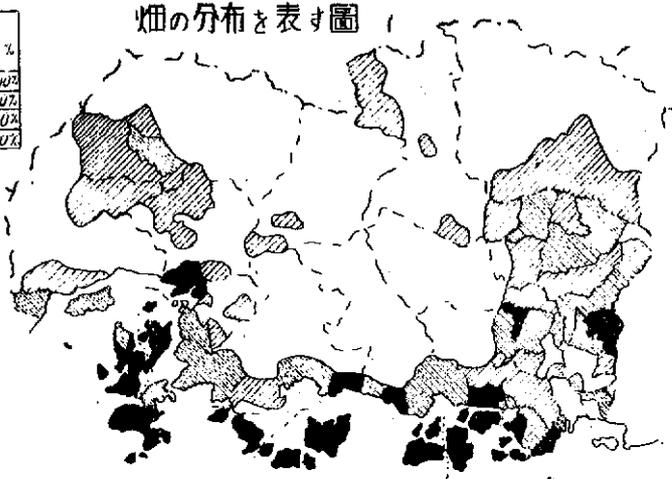
水田は主として排水不良並に用水不足にもとずく一毛作田が多く、全水田面積の53.7% (22年農業センサス) までが一毛作田で特に県東北部、西北部及び島嶼部に多い。

本県の地質の表層分布の概略を岩石の種類や年代により類別すると図の如くで、その概略を説明すると、

- 1) 古生層：玢岩・輝緑凝灰岩・粘板岩・千枚岩・石灰岩等で構成されて居り本県の分布は大竹町・佐伯郡北部・可部町附近一帯のもの、蒲刈島・大崎島・生口島等の島に沿つて沼隈郡に至る一帯のもの、御調郡・芦品郡・深安郡に亘る一帯及び帝釈を中心とした一帯

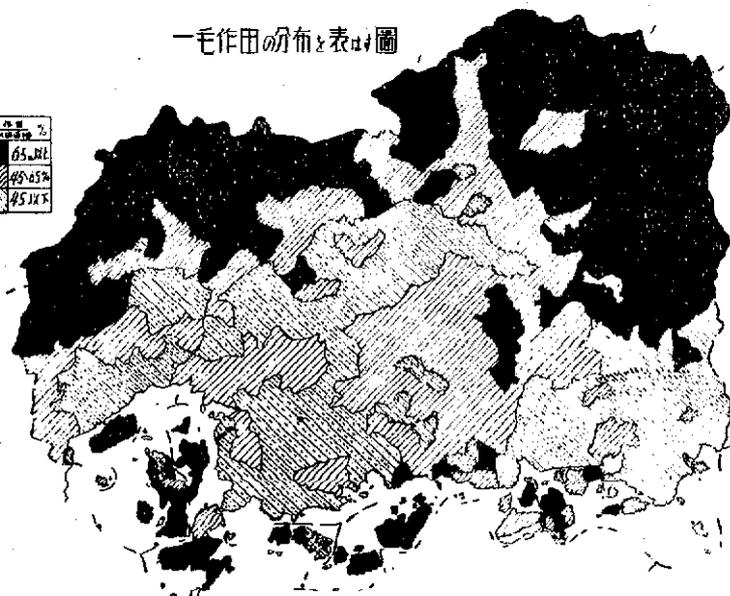
畑の分布を表す圖

凡	161
畑面積の割合	
00-100%	
10-20%	
40-20%	
0-20%	



一毛作田の分布を表す圖

凡	161
一毛作田面積の割合	
65.0%	
45.0%	
45.0%	



でかなり

2) 中生代：本県の地域に分布するが、主として僅かに深安郡や神石郡に分布する三疊紀層や硯石統にす

3) 火成岩：三疊紀末期よりの火山活動で先づ花崗岩が噴出した。これについて半深成岩の玢岩、更に石英花崗岩がこれ等の上に噴出し新生代に入ってから石英粗面岩・安山岩・玄武岩が噴出した。本県の火成岩類は主に中生代に噴出貫入が行はれたものとされて居り、本県の主要な地質をなしている。

4) 第三紀層：三次・庄原等に分布している。福山・尾道に砂礫層の互層が見られるが之が第三紀層か洪積層かは不明である。

5) 第四紀古層：洪積世の湖底堆積物として礫層・砂層・粘土層からなり亜炭・草炭・珪藻土を含む事もある。西条盆地・黒瀬盆地には著しい洪積層の発達をみるがその他安芸郡熊野町・沼隈郡熊野村等にもみられる。

6) 第四紀新層（沖積層）：福山・神辺・広島等の平坦地及び諸河川の流域の沖積地をなし現在耕地として利用されているものゝ大部分で礫・砂・粘土層よりなる。

以上概略県下の地質について説明を加えたが、母岩の性質が風化生成物としての土壌の理化学性に大きな影響を及ぼすことは言うまでもなく、組成鉱物の種類によりその風化に難易があると同時に風化生成物としての土壌の粘土含量・透水性或は地力に大きな影響を及ぼす。又酸性岩或は塩基性岩により土壌の風化過程の塩基の流亡度に著しい差異があり土壌の酸性化の難易に關聯性を有する。

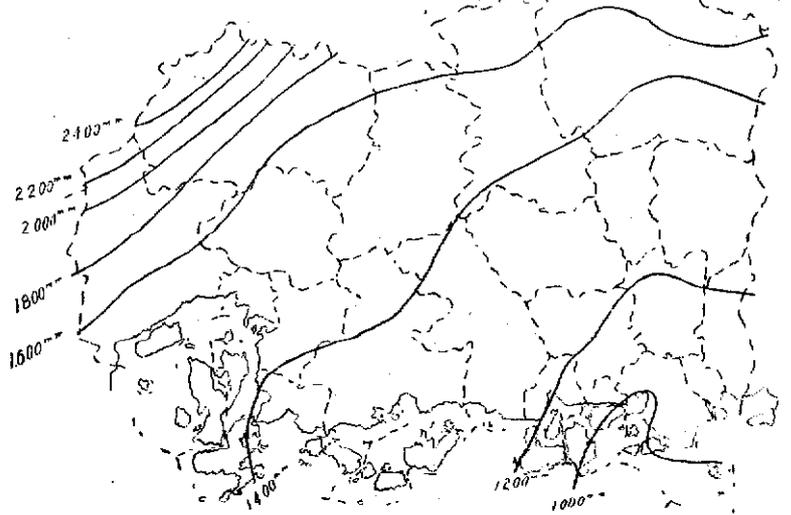
本県の気象状態の内気温については年平均気温は $10^{\circ}\text{C} \sim 16^{\circ}\text{C}$ の間にあり、北部は低温で南部にいたるにつれ漸次高温となり島嶼部が最も高い。降雨量については年平均降水量 $2,400\text{mm} \sim 1,000\text{mm}$ の間にあり県西北部が最も多く東南部に至るに従い漸次低下し東部沿岸島嶼部が最も少い。以上の通り気温と降水量のみから見れば概して県北部地帯は低温多雨地帯となり、南部沿岸島嶼部は高温寡雨地帯に属するものと云えよう。

凡例	
Pn	新三疊紀層
Ms	中生代
L	第三紀層
G	花崗岩
GP	花崗斑岩
P	花崗岩
L	玢岩
B	玄武岩
D	石英粗面岩
Aa	安山岩

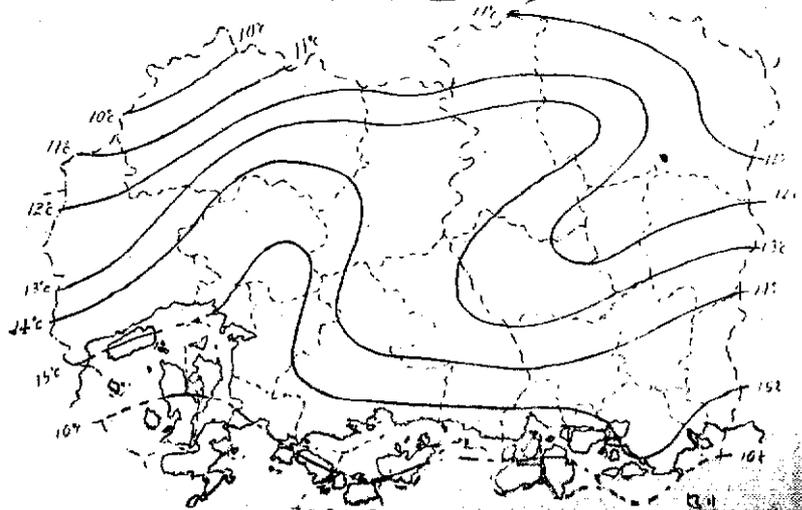
地質略圖



年平均降水量等値線圖



年平均気温等値線圖



(2) 郡市別土壌酸性の概況

地域の特性に関しては更に詳細な特殊調査を続けてゐるが、本報告の一般調査の結果からすれば、水田については県北部に酸性土壌の分布が多く中南部がこれに次ぎ、可部盆地より広島市に至る太田川流域地帯・芦品郡府中町より福山市に至る昔田川流域地帯及び沿岸島嶼部が概して酸性土壌が少い傾向にある。各市町村別に見ると変異の大きい所と小さい所とがあり平均値がその性格を的確に示すものとは思われないが、一応全県の傾向を知る目的で各町村毎に分析値の平均を求め各項目別に検討を加える。

1) 置換酸度：最も酸性に弱い作物に障害を与える限界を置換酸度 (Y_1) 1とし、それ以上を酸性土壌として取扱ふ場合、水田に於ては調査点数2576点中、46.4%、畑では673点中36.1%が酸性土壌となつている。尙田畑共酸性土壌の内72~74%までが微酸性(1~3)で28~26%が弱酸性~強酸性土壌である。之を郡市別に比較すると次表の通りである。

置換酸度による程度別点数表

※()内は程度別比率(%)を示す。

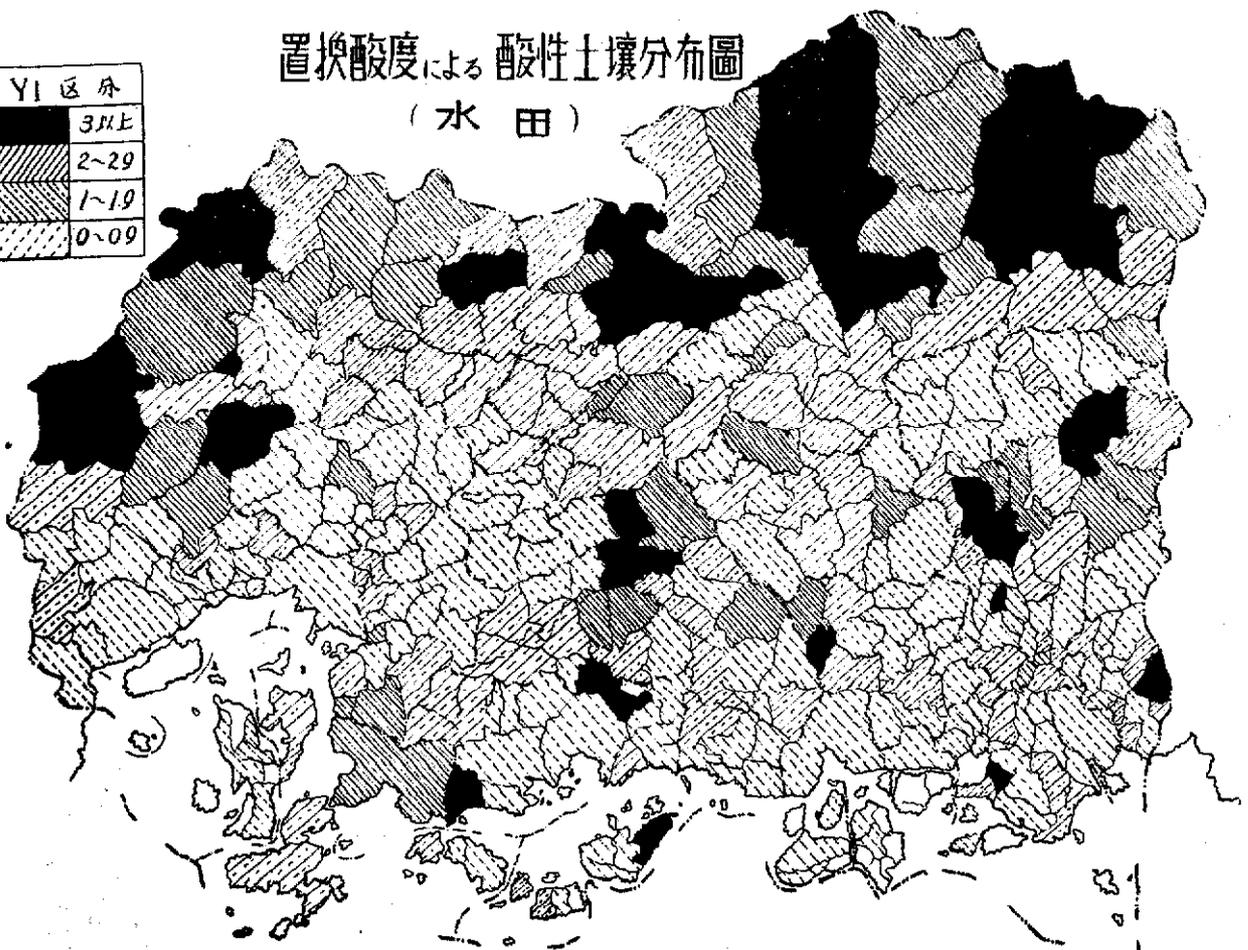
郡市別	水 田					畑					合 計	平均値		
	0~0.99	1~2.99	3~5.99	6~14.99	15以上	0~0.99	1~2.99	3~5.99	6~14.99	15以上				
広島市	9	2	0	0	0	11	0.5	5	2	1	0	0	8	1.1
呉市	6	1	4	1	0	12	2.6	7	4	1	1	0	13	1.6
三原市	6	3	0	0	0	9	0.8	6	4	0	0	0	10	0.9
尾道市	8	0	0	0	0	8	0.4	10	0	0	0	0	10	0.3
福山市	41	12	0	0	0	53	0.7	3	0	0	0	0	0	0.4
市 計	70	18	4	1	0	93		31	10	2	1	0	44	
	(75.3)	(19.3)	(4.3)	(1.1)	(0)	(100)		(70.4)	(22.8)	(4.5)	(2.3)	(0)	(100)	
安芸郡	57	48	9	1	0	115	1.2	26	52	7	2	0	87	1.6
	(49.6)	(41.7)	(7.8)	(0.9)	(0)	(100)		(29.9)	(59.7)	(8.1)	(2.3)	(0)	(100)	
佐伯郡	69	22	4	3	0	98	1.1	27	11	3	0	0	41	1.0
	(70.3)	(22.4)	(4.1)	(3.1)	(0)	(100)		(65.9)	(26.8)	(7.3)	(0)	(0)	(100)	
安佐郡	117	23	2	0	0	142	0.7	19	1	1	3	0	24	1.7
	(82.4)	(16.2)	(1.4)	(0)	(0)	(100)		(79.1)	(4.2)	(4.2)	(12.5)	(0)	(100)	
山県郡	47	90	19	6	0	162	1.9	6	7	2	1	0	16	1.6
	(29.0)	(55.6)	(11.7)	(3.7)	(0)	(100)		(37.4)	(43.8)	(12.5)	(6.3)	(0)	(100)	
高田郡	57	64	24	2	0	147	1.8	8	4	1	0	0	13	1.2
	(38.8)	(43.5)	(16.3)	(1.4)	(0)	(100)		(61.5)	(30.8)	(7.7)	(0)	(0)	(100)	
賀茂郡	189	86	14	5	4	298	1.4	24	15	1	3	1	44	2.0
	(63.5)	(28.8)	(4.7)	(1.7)	(1.3)	(100)		(54.5)	(34.1)	(2.3)	(6.8)	(2.3)	(100)	
豊田郡	106	73	72	4	0	205	1.4	71	33	7	7	0	118	1.4
	(51.8)	(35.6)	(10.7)	(1.9)	(0)	(100)		(60.2)	(28.0)	(5.9)	(5.9)	(0)	(100)	
御調郡	57	15	9	2	0	83	1.3	66	5	2	0	0	73	0.6
	(68.7)	(18.1)	(10.8)	(2.4)	(0)	(100)		(90.4)	(6.9)	(2.7)	(0)	(0)	(100)	
世羅郡	54	36	12	1	0	103	1.4	5	4	1	1	0	11	1.7
	(52.3)	(35.0)	(11.7)	(1.0)	(0)	(100)		(45.4)	(36.4)	(9.1)	(9.1)	(0)	(100)	
沼隈郡	46	23	2	1	0	72	0.8	46	5	3	2	0	56	0.9
	(63.8)	(32.0)	(2.8)	(1.4)	(0)	(100)		(82.1)	(8.9)	(5.4)	(3.6)	(0)	(100)	
深安郡	50	13	4	0	0	67	0.9	33	4	2	2	0	41	1.0
	(74.5)	(19.5)	(6)	(0)	(0)	(100)		(80.4)	(9.8)	(4.9)	(4.9)	(0)	(100)	
芦品郡	55	25	8	0	0	88	1.1	24	6	3	0	0	33	0.9
	(62.5)	(28.4)	(9.1)	(0)	(0)	(100)		(72.7)	(18.2)	(9.1)	(0)	(0)	(100)	
神石郡	30	9	6	2	0	47	1.7	22	7	3	2	0	34	1.6
	(63.7)	(19.2)	(12.8)	(4.3)	(0)	(100)		(66.7)	(20.6)	(6.8)	(5.9)	(0)	(100)	

郡市別	水田							畑						
	程度別					合計	平均値	程度別					合計	平均値
	0~	1~	3~	6~	15以上			0~	1~	3~	6~	15以上		
0.99	2.99	5.99	14.99			0.99	2.99	5.99	14.99					
甲奴郡	35 (81.4)	5 (11.6)	3 (7.0)	0 (0)	0 (0)	43 (100)	0.8	8 (80.0)	1 (10.0)	0 (0)	1 (10.0)	0 (0)	10 (100)	1.2
双三郡	59 (38.3)	74 (48.1)	17 (11.0)	4 (2.6)	0 (0)	154 (100)	1.7	8 (49.9)	5 (31.3)	2 (12.5)	1 (6.3)	0 (0)	16 (100)	1.8
比婆郡	15 (9.4)	88 (55.4)	40 (25.1)	14 (8.8)	2 (1.3)	159 (100)	3.0	6 (50.3)	5 (41.4)	1 (8.3)	0 (0)	0 (0)	12 (100)	1.1
縣計	1113 (53.6)	712 (34.3)	199 (9.6)	46 (2.2)	6 (0.3)	2076 (100)		430 (63.9)	175 (26.0)	41 (6.1)	26 (3.9)	1 (0.1)	673 (100)	

水田に於ては比婆郡は酸性土壌が91%で最も多く山県郡(71%)・双三郡(62%)・高田郡(61%)が之に次ぎ安佐郡(18%)・甲奴郡(19%)が最も少く他は30~50の範囲内にある。弱酸性以上の酸性土壌も比婆郡が調査点数の35%を占め最も多く、高田郡・(18%)神石郡(17%)・山県郡(15%)・双三郡(14%)・世羅郡(13%)・豊田郡(13%)・御調郡(13%)が之に次ぎ他は9%前後で少い。神石郡のみは弱酸性以上の比率が比較的高いが他は主として中性の所が多い。市部に於ては呉市が酸性土壌の比率が高いが他は概ね中性の所が多い様である。尙調査点数の分散の程度と共に酸性の程度を示す一応の指標として郡市別の平均値を参考迄に上記表の欄末に掲げたが、これは低い。によつても比婆郡が著しく高く、山県郡・高田郡・神石郡・双三郡等が高い部類に属し、安佐郡・沼隈郡・甲奴郡等畑については内陸部の神石郡及び沿岸島嶼部以外は耕地も小面積に分散して居り調査点数も少いので明確な事は云へないが全調査点数の36%が酸性土壌であり水田に比較して若干少く、県全般としては特別な傾向は認められない様であるが主要畑地帯のみについて云えば東部沿岸島嶼部は酸度が低い所が多く、西部沿岸島嶼部がやゝ高い傾向を示してゐる。

置換酸度による酸性土壌分布圖
(水田)

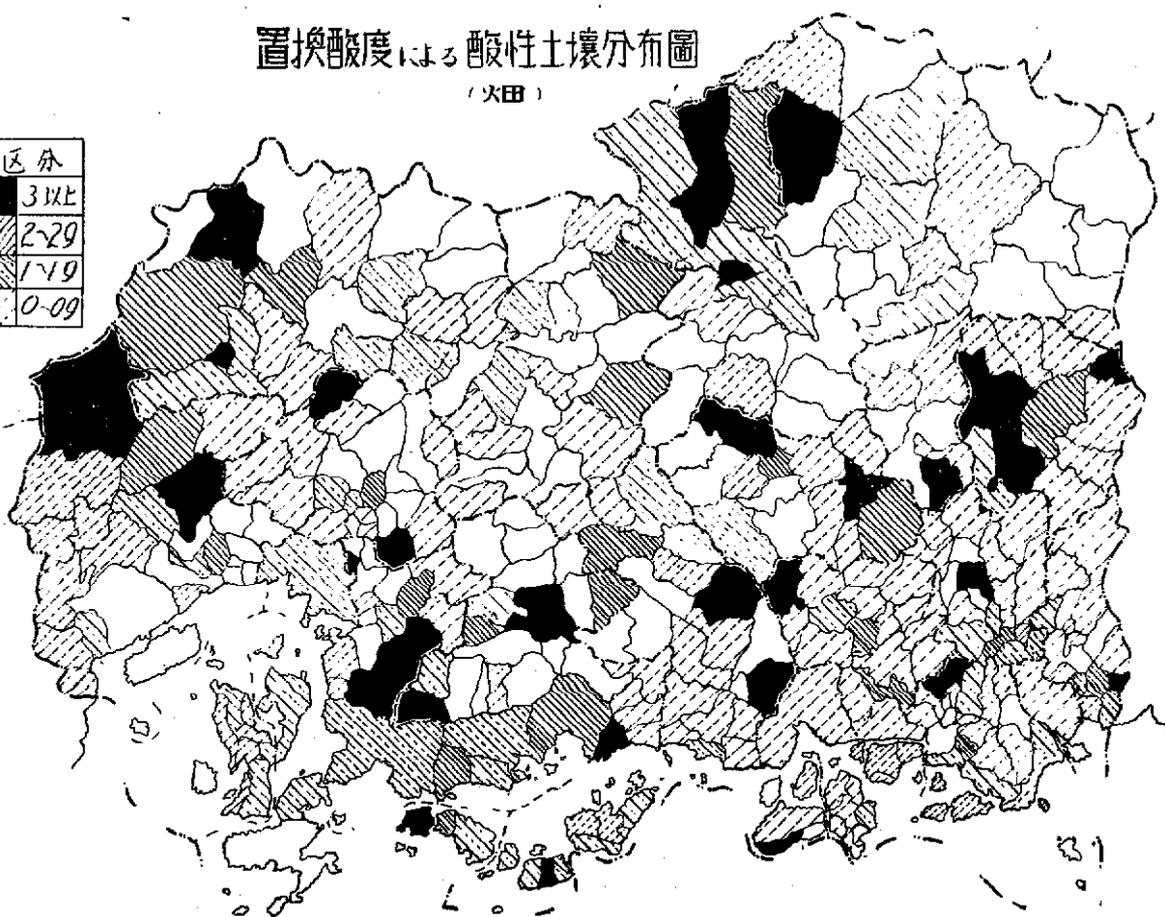
YI 区分
3以上
2~29
1~19
0~09



置換酸度による酸性土壌分布圖

(大田)

■	3以上
▨	2.29
▧	1.19
▩	0.09



2) 置換石灰の含量：置換石灰含量については通常0.2~0.4%を含有。石灰に豊富な所では0.5~0.6%の所もみられる様である。塩基の溶脱により土壌の酸性化することは云ふまでもないが0.1%前後の石灰含量では乏しい部類に属する。

置換石灰含量による程度別点数表

郡市別	水					田		計	平均値
	0~0.09	0.1~0.14	0.15~0.19	0.2~0.24	0.25~0.29	3.0以上			
広島市	1	0	3	2	3	0	9	0.20	
呉市	1	5	4	0	1	0	11	0.14	
三原市	1	2	5	1	0	0	9	0.15	
尾道市	0	6	2	0	0	0	8	0.14	
福山市	19	22	6	4	0	0	51	0.12	
市計	22 (25.0)	35 (39.8)	20 (22.7)	7 (8.0)	4 (4.5)	0 (0)	88 (100.0)		
安芸郡	3 (2.6)	21 (18.3)	39 (33.8)	27 (23.5)	15 (13.1)	10 (8.7)	115 (100.0)	0.19	
佐伯郡	8 (7.8)	25 (24.2)	34 (33.0)	24 (23.3)	7 (6.8)	5 (4.9)	103 (100.0)	0.17	
安佐郡	20 (14.0)	38 (26.6)	45 (31.4)	20 (14.0)	17 (11.9)	3 (2.1)	143 (100.0)	0.16	
山県郡	29 (17.7)	65 (39.6)	51 (31.1)	16 (9.8)	3 (1.8)	0 (0)	164 (100.0)	0.14	

	水						田	
	0~0.09	0.1~0.14	0.15~0.19	0.2~0.24	0.25~0.29	0.3以上	計	平均値
郡	15 (10.2)	86 (58.5)	35 (23.8)	11 (7.5)	0 (0)	0 (0)	147 (100.0)	0.13
郡	21 (7.1)	53 (18.0)	97 (33.2)	65 (22.1)	32 (10.8)	26 (8.8)	294 (100.9)	0.19
郡	14 (6.6)	87 (41.3)	57 (27.0)	26 (12.3)	19 (9.0)	8 (3.8)	211 (100.0)	0.16
御 調 郡	8 (9.3)	15 (17.4)	37 (43.1)	15 (17.4)	7 (8.1)	4 (4.7)	86 (100.0)	0.18
世 羅 郡	6 (5.9)	50 (49.1)	36 (35.2)	4 (3.9)	6 (5.9)	0 (0)	102 (100.0)	0.15
沼 隈 郡	25 (33.7)	13 (17.6)	18 (24.3)	11 (14.9)	5 (6.8)	2 (2.7)	74 (100.0)	0.15
深 安 郡	5 (7.4)	32 (47.0)	15 (22.0)	7 (10.3)	5 (7.4)	4 (5.9)	68 (100.0)	0.17
芦 品 郡	6 (7.0)	43 (50.0)	26 (30.2)	5 (5.8)	5 (5.8)	1 (1.2)	86 (100.0)	0.15
神 石 郡	3 (6.4)	11 (23.4)	16 (34.0)	12 (25.6)	3 (6.4)	2 (4.2)	47 (100.0)	0.17
甲 奴 郡	0 (0)	8 (19.1)	11 (26.2)	9 (21.4)	10 (23.8)	4 (9.5)	42 (100.0)	0.21
双 三 郡	28 (18.4)	55 (35.3)	36 (23.4)	24 (15.6)	9 (5.8)	2 (1.3)	154 (100.0)	0.15
比 婆 郡	15 (9.7)	40 (26.0)	50 (32.5)	36 (23.4)	7 (4.5)	6 (3.9)	154 (100.0)	0.17
縣 計	228 (11.0)	677 (32.6)	623 (30.0)	319 (15.3)	154 (7.4)	77 (3.7)	2078 (100.0)	

郡 市 別	畑							計	平均値
	0~0.09	0.1~0.14	0.15~0.19	0.2~0.24	0.25~0.29	0.3以上			
広 島 市	1	4	2	0	0	1	8	0.16	
呉 市	6	3	2	0	0	0	11	0.10	
三 原 市	1	3	1	2	1	2	10	0.18	
尾 道 市	1	4	3	0	2	0	10	0.16	
福 山 市	1	0	2	0	0	0	3	0.14	
市 計	10 (23.8)	14 (33.4)	10 (23.8)	2 (4.8)	3 (7.1)	3 (7.1)	42 (100.0)		
安 芸 郡	4 (4.6)	25 (28.4)	27 (30.7)	16 (18.2)	15 (17.0)	1 (1.1)	88 (100.0)	0.18	
佐 伯 郡	8 (19.5)	15 (36.6)	13 (31.7)	4 (9.8)	1 (2.4)	0 (0)	41 (100.0)	0.14	
安 佐 郡	8 (3.2)	6 (24)	5 (20)	5 (20)	1 (4)	0 (0)	25 (100.0)	0.14	
山 県 郡	0 (0)	4 (23.5)	7 (41.2)	5 (29.4)	0 (0)	1 (5.9)	17 (100.0)	0.19	

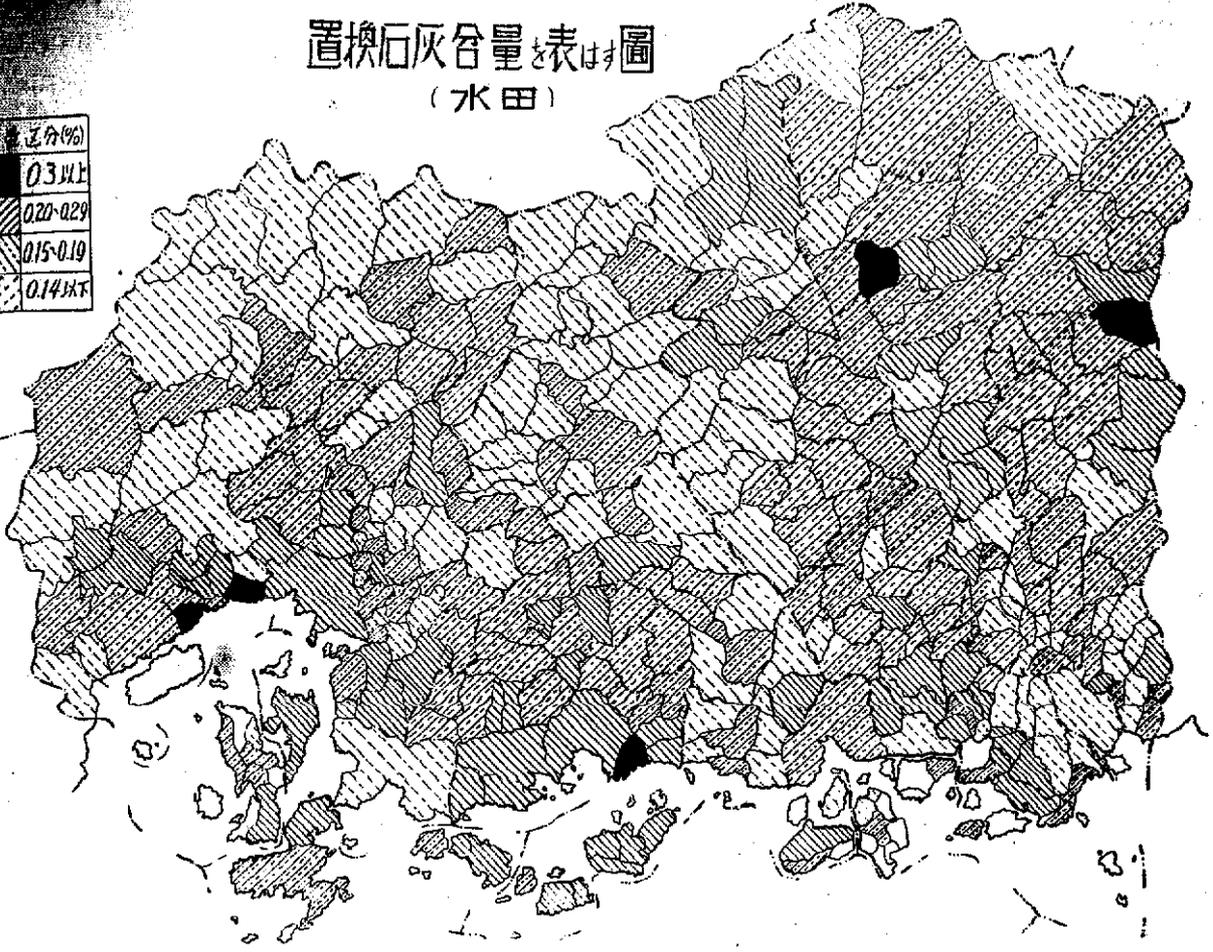
郡市別	畑						計	平均値
	0~0.09	0.1~0.14	0.15~0.19	0.2~0.24	0.25~0.29	0.3以上		
高田郡	0 (0)	5 (38.4)	3 (23.1)	4 (30.8)	1 (7.7)	0 (0)	13 (100.0)	0.17
賀茂郡	10 (23.8)	14 (33.4)	8 (19.1)	4 (9.5)	3 (7.1)	3 (7.1)	42 (100.0)	0.14
豊田郡	2 (1.7)	26 (22.6)	30 (26.1)	32 (27.8)	12 (10.4)	13 (11.4)	115 (100.0)	0.19
御調郡	21 (18.4)	26 (35.1)	13 (17.6)	8 (10.8)	4 (5.4)	2 (2.7)	74 (100.0)	0.14
世羅郡	1 (9.2)	3 (27.2)	3 (27.2)	3 (27.2)	1 (9.2)	0 (0)	11 (100.0)	0.17
沼隈郡	12 (21.4)	15 (26.8)	18 (32.1)	8 (14.3)	2 (3.6)	1 (1.8)	56 (100.0)	0.15
深安郡	4 (9.8)	11 (26.8)	5 (12.2)	7 (17.1)	4 (9.7)	10 (24.4)	41 (100.0)	0.22
芦品郡	7 (21.2)	10 (30.3)	7 (21.2)	2 (6.1)	4 (12.1)	3 (9.1)	33 (100.0)	0.16
神石郡	1 (3.0)	8 (24.2)	9 (27.3)	8 (24.2)	3 (9.1)	4 (12.2)	33 (100.0)	0.20
甲奴郡	1 (9.1)	2 (18.3)	1 (9.1)	3 (27.2)	3 (27.2)	1 (9.1)	11 (100.0)	0.20
双三郡	0 (0)	11 (68.6)	2 (12.5)	1 (6.3)	1 (5.3)	1 (6.3)	16 (100.0)	0.15
比婆郡	1 (8.3)	2 (16.7)	2 (16.7)	4 (33.3)	1 (8.3)	2 (16.7)	12 (100.0)	0.20
縣計	90 (13.4)	197 (29.4)	163 (24.4)	116 (17.3)	59 (8.8)	45 (6.7)	670 (100.0)	

本県の石灰量は水田では(0.15%以下)の所が全調査点数の44%及び(0.15~0.2%)が30%を占め(0.2%以上)は僅かに26.4%に過ぎず概して含量は少い方である。

畑では(0.2%以上)が32.8%で若干多い程度であり(0.15%以下)も42.8%で石灰含量は全県的には水田と同様の傾向がみられる。郡別成績の水田では甲奴郡(平均値0.21%)・賀茂郡(0.19%)・安芸郡(0.19%)・御調郡(0.19%)等が概して石灰含量(0.2%以上)の比率が高く高田郡(平均値0.13%)山県郡(0.14%)・世羅郡(0.15%)・沼隈郡(0.15%)・芦品郡(0.15%)・双三郡(0.15%)等は(0.15%以下)・が50%以上あり、体石灰含量は乏しい。広島市以外の市は何れも石灰含量は少い様である。郡別成績の畑では佐伯郡・安佐郡・賀茂郡・御調郡・沼隈郡・双三郡等の平均値は0.14~0.15%で(0.15%以下)が多い。甲奴郡・賀茂郡・安芸郡・御調郡等は(0.2%以上)の所が40~50%あり概して多い方でありこの内賀茂郡・御調郡は水田より著しく高くなつて居る。調査点数の内酸度も低く(Y₁、0.5以下)PHも高い(6.0以上)土壤には概して石灰含量も0.2~0.4%のものが多く、PH5.0以下で低いものには石灰含量の少い傾向は認められるが、町村又は郡によつてその程度を異にする。又PH5.0~6.0、石灰含量0.2%以下の土壤の示す傾向には著しい変異が認められた。

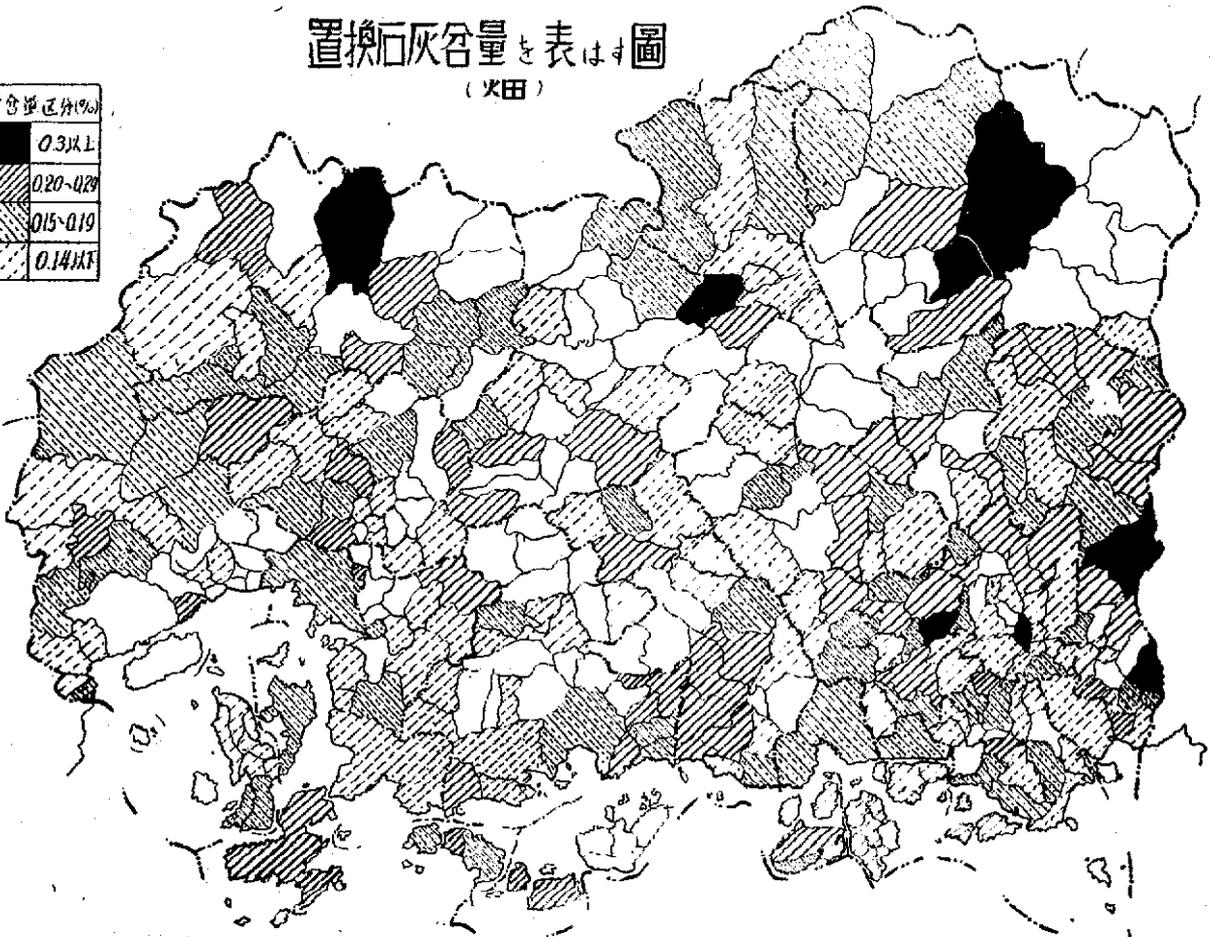
置換石灰含量を以て示す圖
(水田)

置換石灰含量(%)	0.3以上
	0.20-0.29
	0.15-0.19
	0.14以下



置換石灰含量を以て示す圖
(畑田)

石灰含量(%)	0.3以上
	0.20-0.29
	0.15-0.19
	0.14以下



8) 水浸液のPH: PHによる酸性の程度区分は6.6~7.3が中性で以下前掲の凡例の通りの区分であるが今回の水浸液PHの調査結果についてみるに本県の土壌は殆ど酸性土壌と云う事が出来る。その内PH 4.5以下の強酸性に類するものは水田では全点中38.6%、畑では22.3%を占め畑が若干少い様であるが何れにしても置換酸度の低いのに比較してPHの低い所が著しく多い。

水浸液PHによる程度別点数表

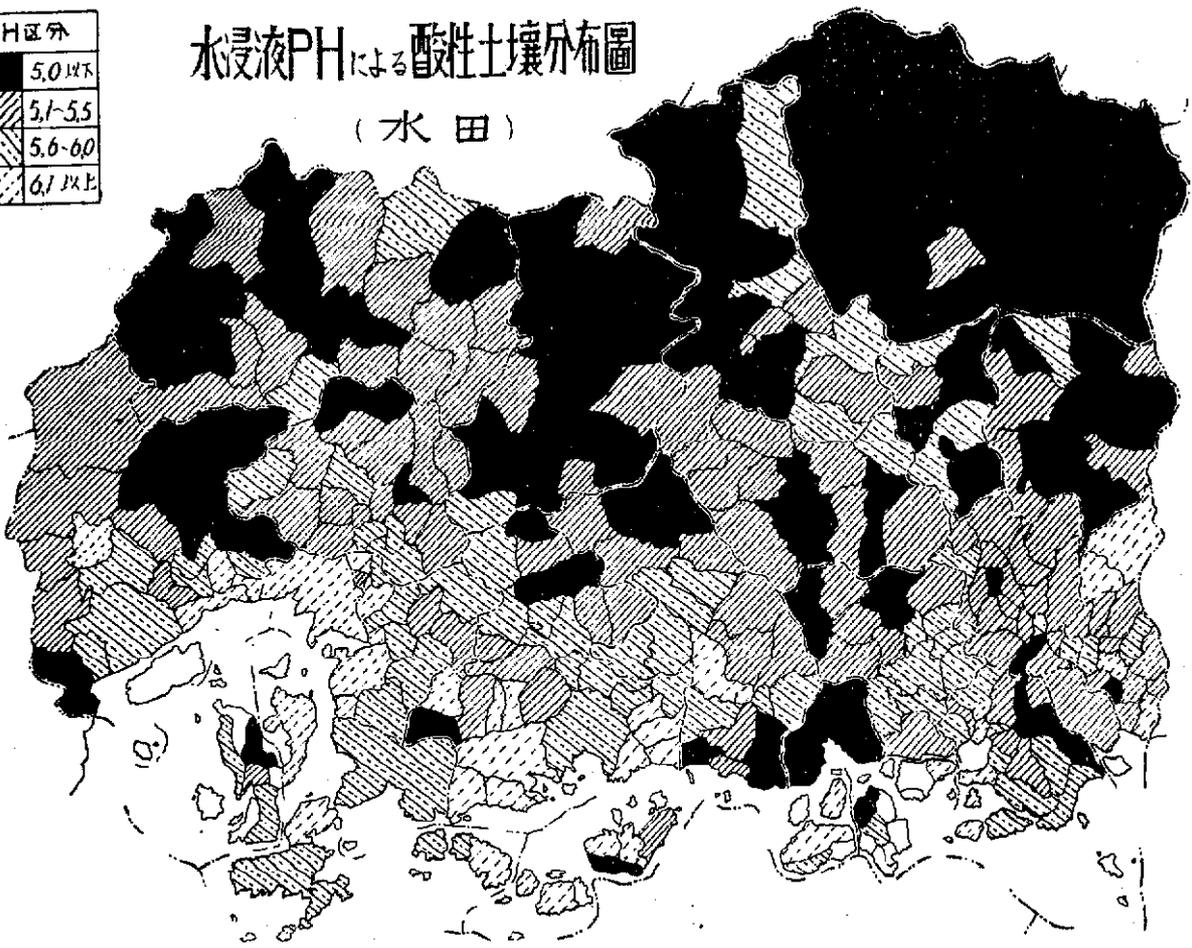
程 度 別 郡 市 別	水					田		合 計	平 均 値
	4.5以下	4.6~5.0	5.1~5.5	5.6~6.0	6.1~6.5	6.6以上			
広 島 市	0	0	0	1	2	3	6	6.6	
呉 市	0	3	2	4	3	0	12	5.6	
三 原 市	2	4	2	1	0	0	9	4.9	
尾 道 市	0	3	2	3	0	0	8	5.2	
福 山 市	4	22	17	7	2	0	52	5.1	
市 計	6 (6.9)	32 (36.9)	23 (26.4)	16 (18.4)	7 (8.0)	3 (3.4)	87 (100)		
安 芸 郡	1 (0.9)	1 (0.9)	37 (32.4)	39 (34.2)	14 (12.3)	22 (19.3)	114 (100)	5.9	
佐 伯 郡	16 (15.1)	17 (16.0)	26 (24.5)	27 (25.5)	14 (13.2)	6 (5.7)	106 (100)	5.4	
安 佐 郡	15 (10.7)	29 (20.7)	59 (42.1)	33 (23.6)	4 (2.9)	0 (0)	140 (100)	5.3	
山 県 郡	15 (9.1)	55 (33.6)	73 (44.5)	19 (11.6)	2 (1.2)	0 (0)	164 (100)	5.1	
高 田 郡	36 (25.5)	47 (33.4)	45 (31.9)	8 (5.7)	5 (3.5)	0 (0)	141 (100)	4.9	
賀 茂 郡	18 (6.1)	51 (17.6)	72 (24.1)	68 (23.0)	27 (9.2)	59 (20.0)	295 (100)	5.8	
豊 田 郡	19 (9.0)	62 (29.5)	59 (28.1)	42 (20.0)	14 (6.7)	14 (6.7)	210 (100)	5.4	
御 調 郡	3 (3.5)	28 (32.6)	27 (31.4)	21 (24.4)	5 (5.8)	2 (2.3)	86 (100)	5.4	
世 羅 郡	4 (3.8)	31 (29.8)	58 (55.8)	10 (9.6)	1 (1.0)	0 (0)	104 (100)	5.2	
沼 隈 郡	5 (6.7)	14 (18.7)	22 (29.4)	25 (33.2)	6 (8.0)	3 (4.0)	75 (100)	5.5	
深 安 郡	1 (1.6)	17 (27.0)	18 (28.6)	14 (22.2)	6 (9.5)	7 (11.1)	63 (100)	5.5	
芦 品 郡	0 (0)	15 (17.8)	44 (52.4)	20 (23.8)	3 (3.6)	2 (2.4)	84 (100)	5.4	
神 石 郡	10 (20.7)	16 (33.4)	16 (33.4)	6 (12.5)	0 (0)	0 (0)	48 (100)	4.9	
甲 奴 郡	5 (10.6)	16 (34.1)	13 (27.6)	9 (19.2)	4 (8.5)	0 (0)	47 (100)	5.2	
双 三 郡	24 (15.6)	60 (38.9)	51 (33.1)	18 (11.7)	1 (0.7)	0 (0)	154 (100)	5.0	
比 婆 郡	72 (45.1)	62 (39.0)	19 (12.1)	5 (3.2)	1 (0.6)	0 (0)	159 (100)	4.7	
縣 計	250 (12.0)	553 (26.6)	662 (31.9)	380 (18.3)	114 (5.5)	118 (5.7)	2077 (100)		

郡市	pH						合計	平均値
	5.0以下	4.6~5.0	5.1~5.5	5.6~6.0	6.1~6.5	6.6以上		
広島市	2	0	0	2	0	2	6	5.5
呉市	2	5	3	0	0	2	12	5.5
三尾市	3	1	3	1	1	1	10	5.3
尾道市	0	2	0	1	4	2	9	6.0
福山市	0	1	2	0	0	0	3	5.1
広島市計	7 (17.5)	9 (22.5)	8 (20.0)	4 (10.0)	5 (12.5)	7 (17.5)	40 (100)	
安芸郡	0 (0)	3 (3.4)	10 (11.4)	18 (20.5)	24 (27.2)	32 (37.5)	88 (100)	6.2
佐伯郡	3 (7.3)	9 (21.9)	7 (17.1)	6 (14.7)	10 (24.4)	6 (14.6)	41 (100)	5.7
安佐郡	2 (8)	4 (16)	3 (12)	9 (36)	5 (20)	2 (8)	25 (100)	5.5
山県郡	0 (0)	5 (31.2)	8 (50)	2 (12.5)	0 (0)	1 (6.3)	16 (100)	5.4
高田郡	3 (21.4)	2 (14.3)	5 (35.8)	1 (7.1)	2 (14.3)	1 (7.1)	14 (100)	5.3
賀茂郡	2 (4.8)	11 (26.2)	5 (11.9)	9 (21.4)	9 (21.4)	6 (14.3)	42 (100)	5.7
豊田郡	5 (4.3)	18 (15.5)	20 (17.2)	23 (19.8)	18 (15.5)	32 (27.7)	116 (100)	6.0
御調郡	5 (6.9)	9 (12.3)	12 (16.4)	16 (21.9)	13 (17.8)	19 (24.7)	73 (100)	5.9
世羅郡	0 (0)	5 (45.4)	2 (18.2)	2 (18.2)	0 (0)	2 (18.2)	11 (100)	5.2
沼隈郡	0 (0)	5 (8.8)	6 (10.5)	14 (24.6)	15 (26.3)	17 (29.8)	57 (100)	6.3
深安郡	1 (2.6)	9 (23.6)	10 (26.3)	7 (18.4)	6 (15.8)	5 (13.3)	38 (100)	5.5
芦品郡	0 (0)	5 (15.6)	7 (21.9)	8 (25.0)	7 (21.9)	5 (15.6)	32 (100)	5.4
神石郡	2 (5.9)	8 (23.6)	14 (41.2)	9 (26.4)	1 (2.9)	0 (0)	34 (100)	5.3
甲奴郡	1 (9.1)	3 (27.2)	1 (9.1)	3 (27.2)	2 (18.3)	1 (9.1)	11 (100)	5.5
双三郡	1 (6.7)	4 (26.6)	4 (26.6)	2 (13.4)	1 (6.7)	3 (20.0)	15 (100)	5.6
比婆郡	4 (44.3)	3 (33.4)	1 (11.1)	0 (0)	2 (22.2)	0 (0)	10 (100)	4.9
広島県計	36 (5.4)	112 (16.9)	123 (18.6)	133 (20.1)	120 (18.1)	139 (20.9)	663 (100)	

水田のPHについては比婆郡(平均値4.7)のPHが著しく低く5.0以下が84.1%を占め従つて酸性の程度は異なるが置換酸度による酸性土壌の比率が同郡が最も高いのと同じ傾向がみられる。高田郡・神石郡・双三郡が之に次ぎ何れも調査点数の50%以上PH5.0以下である。PHの高い所の多いのは安芸郡及び賀茂郡で(5.1~6.0)を主とし調査点数の67%及び47%を占めるが特に島嶼部には高い所が多い。先にも説明した如くPHと置換酸度との間の酸性の程度に著しい差異が見られるが、PHの高い所と5.0以下の低い所での石灰含量との間の関聯

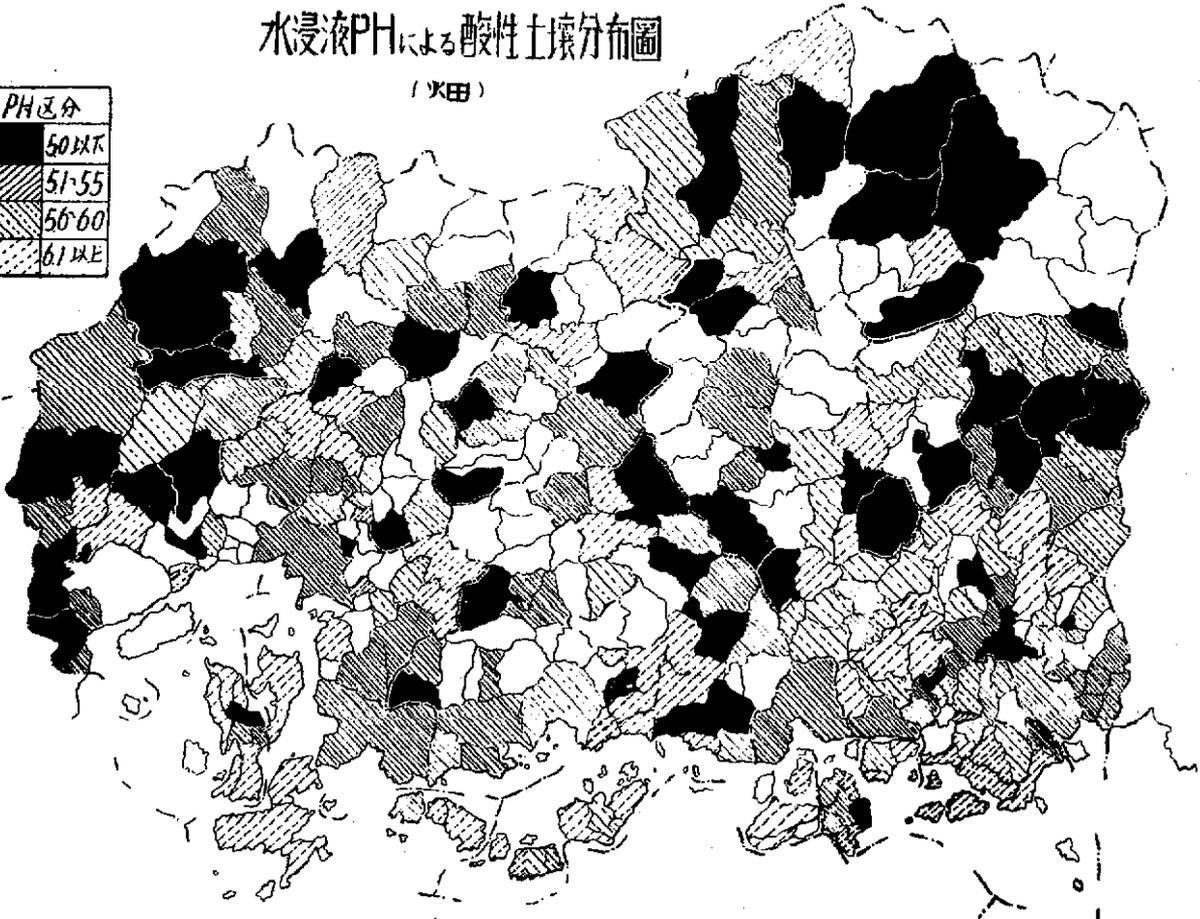
PH区分	
■	5.0以下
▨	5.1-5.5
▧	5.6-6.0
▩	6.1以上

水浸液PHによる酸性土壌分布圖
(水田)



水浸液PHによる酸性土壌分布圖
(水田)

PH区分	
■	5.0以下
▨	5.1-5.5
▧	5.6-6.0
▩	6.1以上



性は概して酸性である。pH 5.0の土壤の石灰含量は0.08~0.25%の広い範囲に分散し郡又は町村に於ける調査地点による変異が大きい。

如に調査地点を主として島嶼部・賀茂郡・安芸郡の島嶼部・御調郡等がPHの比較的高い所が多く他は調査地点の傾向を察知するに過ぎないが概して水田に比して酸性の程度は低い様である。

4) 調査

調査地点数表

郡市別	水田				畑				
	含む	富む	頗る	計	含む	富む	頗る	計	
広島市	7	4	0	11	7	1	0	8	
呉市	8	4	0	12	13	0	0	13	
三原市	2	6	0	8	6	4	0	10	
尾道市	7	1	0	8	9	1	0	10	
福山市	44	8	0	52	3	0	0	3	
市計	68 (74.7)	23 (25.3)	0 (0)	91 (100)	38 (86.4)	6 (13.6)	0 (0)	44 (100)	
安芸郡	25 (21.8)	82 (71.2)	8 (7.0)	115 (100)	47 (65.3)	23 (31.9)	2 (2.8)	72 (100)	
佐伯郡	48 (47.1)	43 (42.1)	11 (10.8)	102 (100)	34 (79.1)	7 (16.3)	2 (4.6)	43 (100)	
安佐郡	42 (30.2)	89 (64.0)	8 (5.8)	139 (100)	16 (66.6)	7 (29.2)	1 (4.2)	24 (100)	
山県郡	13 (8.2)	74 (46.6)	72 (45.2)	159 (100)	1 (5.9)	10 (68.8)	6 (35.3)	17 (100)	
高田郡	32 (21.8)	98 (66.8)	17 (11.6)	147 (100)	4 (30.8)	7 (53.8)	2 (15.4)	13 (100)	
賀茂郡	143 (48.4)	152 (51.3)	1 (0.3)	296 (100)	29 (78.4)	7 (18.9)	1 (2.7)	37 (100)	
豊田郡	113 (55.2)	87 (42.4)	5 (2.4)	205 (100)	68 (62.3)	37 (34.0)	4 (3.7)	109 (100)	
御調郡	74 (84.1)	14 (15.9)	0 (0)	88 (100)	55 (77.5)	16 (22.5)	0 (0)	71 (100)	
世羅郡	19 (19.6)	72 (74.2)	6 (6.2)	97 (100)	3 (33.4)	4 (44.4)	2 (22.2)	9 (100)	
沼隈郡	64 (85.2)	11 (14.8)	0 (0)	75 (100)	50 (92.6)	4 (7.4)	0 (0)	54 (100)	
深安郡	53 (80.3)	13 (19.7)	0 (0)	66 (100)	26 (74.3)	9 (25.7)	0 (0)	35 (100)	
芦品郡	67 (78.6)	18 (21.4)	0 (0)	85 (100)	22 (68.7)	10 (31.3)	0 (0)	32 (100)	
神石郡	14 (29.2)	30 (62.5)	4 (8.3)	48 (100)	17 (51.5)	11 (33.4)	5 (15.1)	33 (100)	
甲奴郡	4 (8.5)	29 (74.5)	8 (17.0)	41 (100)	3 (27.3)	6 (54.5)	2 (18.2)	11 (100)	
双三郡	33 (22.0)	79 (52.7)	38 (25.3)	150 (100)	4 (26.6)	7 (46.8)	4 (26.6)	15 (100)	
比婆郡	2 (1.4)	43 (28.6)	105 (70)	150 (100)	0 (0)	2 (20)	8 (80)	10 (100)	
縣計	814 (39.6)	957 (46.7)	283 (13.7)	2054 (100)	417 (66.3)	173 (27.5)	39 (6.2)	629 (100)	

腐植は全調査点数中水田では富む所が60.4%畑では33.7%であり畑の方が腐植に富む所は少い。郡市別成績についてみるに、比婆郡が田畑共に腐植に頗る富み、山県郡がこれに次ぎ腐植に富む所が多い。要するに田畑共に程度の差はあるが県北部が腐植に富む所の比率が高く、中部南部及び沿岸・島嶼部とそ程度が漸減する傾向がみられる。北部に於ける腐植の異常な集積については大山若しくは三瓶山等の火山灰によるものと云はれているが原因については不明な点が多い。北部比婆郡より山県郡に至る県北部のみならず、神石郡・甲奴郡・世羅郡より賀茂郡・豊田郡等の北部にかけても同様の腐植に頗る富む所が散見されその酸性の程度も概して強い。又燐酸の吸収固定力も大きく燐酸の肥効は一般に顕著な所が多い様である。尙県北部町村に於ては自給肥料として山柴その他の有機質が一般に多く施用されて居り之等の分解過程の集積等も或程度は考へられよう。

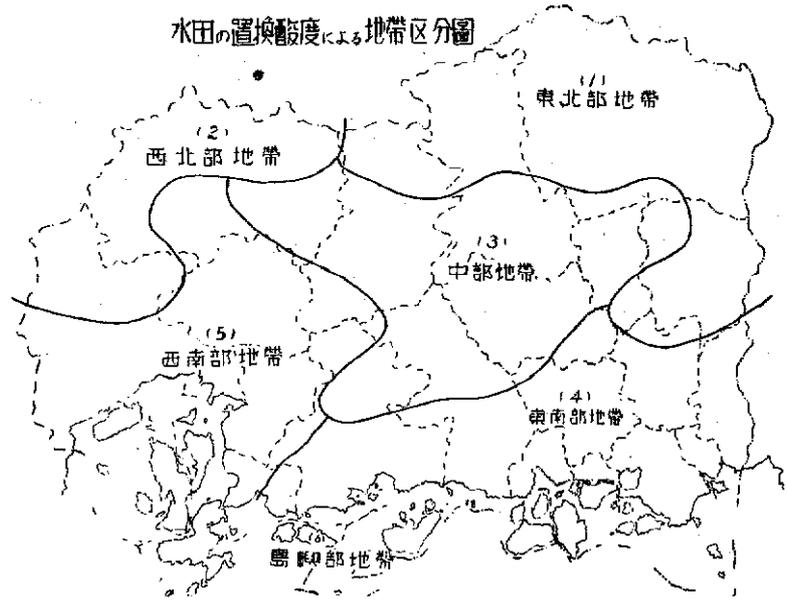
(3) 地域別土壤酸性の概況

以上郡市別成績より酸性の傾向を比較したが、置換酸度では中性～微酸性が多いのに比し水浸液のPHが、異常に低く置換石灰が概して少い事は今後検討されるべき事項である。酸性の程度は項目間に差はあるが、水田では地域的に県北部の諸郡に比し南部の沿岸島嶼地帯が酸性土壤が比較的少度傾向が認められる。県内の水田を置換酸度により図の如く6地帯に区分し酸性の程度を比較すると次の如くである。

即ち東北部と西北部の地帯が最も酸性土壤の比率が高く水浸液PHも低い所が多い。

中部地帯は酸性土壤が60%近くで之に次ぎ水浸液PHもやや高い所(5.1~5.5)が多い。島嶼部・東南部及び西南部の地帯は30~40%が酸性土壤でありPHも5.6以上が50%以上ある。特に島嶼部地帯はPH6.1以上の所が44%で石灰含量も(0.2%以上)含有した所が半数以上あり概して高い所が多い。西北地帯は(0.2%以下)が大部分で石灰含量は少く、中部地帯が之に次ぎ、東北部・西南部及び東南部地帯では(0.2%以上)が3割以上みられ比較的含量は高く中程度の所が多い。

水田の置換酸度による地帯区分圖



置換酸度・石灰含量・PH及び腐植含量による程度別点数表 (地域別水田の部)

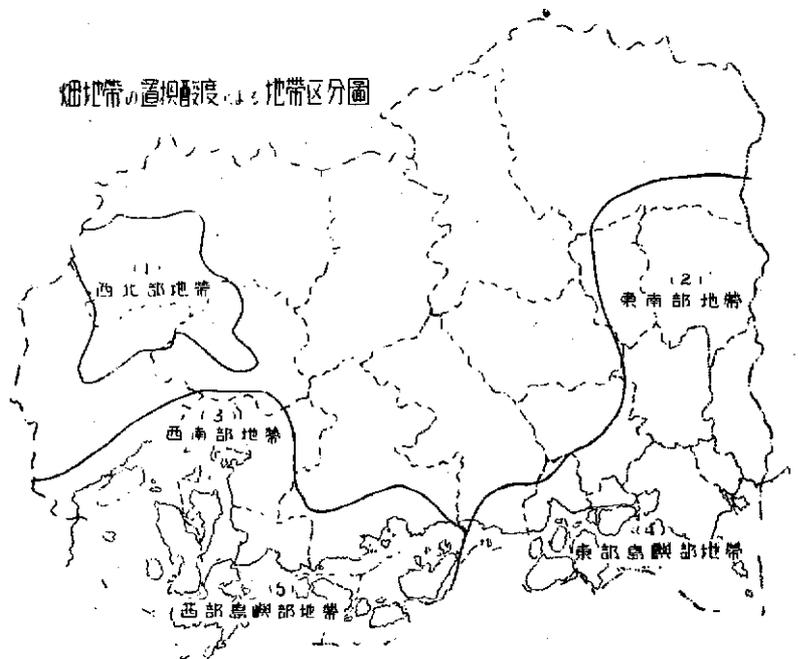
項目 地区	置換酸度(YI)							置換石灰(%)							
	0~0.99	1~2.99	3~5.99	6~14.99	15以上	合計	平均値	0~0.09	0.1~0.14	0.15~0.19	0.2~0.24	0.25~0.29	0.3以上	合計	平均値
東北部地帯	23 (11.8)	107 (54.9)	46 (23.6)	17 (8.7)	2 (1.0)	195 (100)	2.90	18 (9.5)	50 (26.3)	60 (31.6)	47 (24.7)	9 (4.7)	6 (3.2)	190 (100)	0.175
西北部地帯	6 (12.2)	28 (57.2)	11 (22.4)	4 (8.2)	0 (0)	49 (100)	2.79	11 (22.9)	19 (39.6)	17 (35.4)	1 (2.1)	0 (0)	0 (0)	48 (100)	0.123
中部地帯	200 (39.6)	236 (46.7)	54 (10.7)	11 (2.2)	4 (0.8)	505 (100)	1.80	36 (7.1)	208 (41.2)	175 (34.6)	52 (10.3)	24 (4.8)	10 (2.0)	505 (100)	0.156
東南部地帯	291 (74.2)	81 (20.7)	18 (4.6)	2 (0.5)	0 (0)	392 (100)	0.85	41 (10.5)	127 (32.3)	105 (26.8)	60 (15.3)	30 (7.7)	29 (7.4)	392 (100)	0.172
西南部地帯	85 (63.5)	39 (29.1)	7 (5.2)	3 (2.2)	0 (0)	134 (100)	0.78	8 (5.8)	38 (27.6)	50 (36.2)	26 (18.8)	9 (6.5)	7 (5.1)	138 (100)	0.169
島嶼部地帯	40 (62.4)	22 (34.4)	1 (1.6)	1 (1.6)	0 (0)	64 (100)	0.93	5 (7.5)	9 (13.4)	16 (23.8)	13 (19.4)	18 (26.9)	6 (9.0)	67 (100)	0.209

地	液 P H								腐 植				
	5.1~5.5	5.6~6.0	6.1~6.5	6.6~7.0	7.1~7.3	7.4以上	合計	平均値	含む	富む	頗富	合計	
東 北 地 帯	30 (30.8)	77 (39.1)	29 (14.7)	10 (5.1)	1 (0.5)	0 (0)	0 (0)	197 (100)	4.72	3 (1.6)	52 (28.0)	131 (70.4)	186 (100)
西 北 部 地 帯	16 (32.7)	16 (32.7)	14 (28.5)	3 (6.1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	49 (100)	4.88	1 (2.1)	21 (44.8)	25 (53.1)	47 (100)
中 部 地 帯	35 (6.9)	142 (28.0)	213 (41.9)	80 (15.8)	16 (3.2)	15 (3.0)	6 (1.2)	507 (100)	5.27	161 (32.6)	285 (57.6)	48 (4.8)	494 (100)
東 南 部 地 帯	16 (4.1)	74 (19.2)	108 (27.9)	114 (29.5)	41 (10.6)	23 (5.9)	11 (2.8)	387 (100)	5.57	284 (72.2)	106 (27.0)	3 (0.8)	393 (100)
西 南 部 地 帯	16 (11.3)	16 (11.3)	42 (29.8)	35 (24.9)	17 (12.1)	10 (7.1)	5 (3.5)	141 (100)	5.45	49 (35.0)	80 (57.1)	11 (7.9)	140 (100)
島 嶼 部 地 帯	2 (2.9)	6 (8.8)	11 (16.2)	19 (28.0)	13 (19.1)	11 (16.2)	6 (8.8)	68 (100)	5.97	44 (63.0)	20 (37.0)	0 (0)	54 (100)

次に畑では北部の町村は調査点数が著しく少いので全県的には郡別に比較する程度に止め、図の如く沿岸島嶼部・加計盆地及び東南部の神石郡・苜品郡・深安郡を中心とする畑地帯別に区分して比較すると次の如くである。

置換酸度については内陸部及び沿岸島嶼部は全般的に水田に比較して稍高い傾向を示し東部島嶼部のみ特に低い様である。PHは水田に比し何れも高い所が多いが、石灰含量は水田同様の傾向を示し県西部内陸部が概して少く島嶼部では東部が低い。がその他は概して中程度以上の所も多い。

畑地帯の置換酸度による地帯区分圖



置換酸度、石灰含量による程度別点数表 (地域別畑の部)

項目 地区	置 換 酸 度 (Y ₁)							置 換 石 灰 (%)							
	0~0.99	1~2.9	3~5.99	6~14.99	15以上	合計	平均値	0~0.09	0.1~0.14	0.15~0.19	0.2~0.24	0.25~0.29	0.3以上	合計	平均値
西北部地帯	23 (23.2)	8 (21.6)	3 (8.1)	3 (8.1)	0 (0)	37 (100)	1.48	8 (20.6)	10 (25.6)	10 (25.6)	10 (25.6)	1 (2.6)	0 (0)	39 (100)	0.15
東南部地帯	159 (77.2)	28 (13.6)	12 (5.8)	7 (3.4)	0 (0)	206 (100)	1.04	29 (14.1)	55 (26.8)	48 (23.3)	32 (15.4)	21 (10.2)	21 (10.2)	206 (100)	0.18
西南部地帯	41 (57.7)	19 (26.8)	7 (9.9)	3 (4.2)	1 (1.4)	71 (100)	1.24	17 (25.4)	24 (35.7)	13 (19.4)	6 (9.0)	3 (4.5)	4 (6.0)	67 (100)	0.14
東部島嶼部地帯	49 (98)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	50 (100)	0.38	19 (38)	21 (42)	5 (10)	5 (10)	0 (0)	0 (0)	50 (100)	0.12
西部島嶼部地帯	91 (47.4)	85 (44.3)	9 (4.7)	7 (3.6)	0 (0)	192 (100)	1.34	7 (3.9)	44 (24.4)	57 (31.8)	32 (17.7)	27 (15.0)	13 (7.2)	180 (100)	0.19
(参考) 開拓地	3 (2.2)	11 (8.2)	23 (17.2)	43 (32.1)	54 (40.3)	134 (100)	12.51	102 (76.7)	29 (21.8)	2 (1.5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	133 (100)	0.06

PH・腐植含量による程度別点数表（地域別畑の部）

項目 地区	水 浸 液 PH							腐 植					
	4.5 以下	4.6~ 5.0	5.1~ 5.5	5.6~ 6.0	6.1~ 6.5	6.6~ 7.3	7.4 以上	合 計	平均値	含 む	富 む	頗 富	合 計
西北部地帯	2 (5.3)	8 (21.0)	9 (23.6)	12 (31.6)	5 (13.2)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)	5.5	17 (46.0)	14 (37.8)	6 (16.2)	37 (100)
東南部地帯	7 (3.4)	34 (16.7)	43 (21.3)	46 (22.6)	39 (19.3)	24 (11.8)	10 (4.9)	203 (100)	5.8	144 (73.5)	45 (22.9)	7 (3.6)	196 (100)
西南部地帯	6 (9.0)	13 (19.4)	13 (19.4)	13 (19.4)	11 (16.4)	8 (11.9)	3 (4.5)	67 (100)	5.7	53 (85.5)	7 (11.3)	2 (3.2)	62 (100)
東部島嶼部地帯	5 (10.2)	7 (14.3)	9 (18.4)	6 (12.2)	8 (16.3)	13 (26.5)	1 (2.0)	49 (100)	5.8	39 (81.3)	9 (18.7)	0 (0)	48 (100)
西部島嶼部地帯	3 (1.6)	18 (9.5)	23 (12.1)	39 (20.5)	43 (22.6)	52 (27.4)	12 (6.3)	190 (100)	6.16	120 (67.9)	55 (31.0)	2 (1.1)	177 (100)
(参考) 開拓地	12 (8.6)	43 (30.6)	68 (49.6)	13 (9.3)	4 (1.9)	0 (0)	0 (0)	140 (100)	5.11				

参考欄・県内開拓地9地区の調査結果

[附](1) 土壤

農林省農業改良局 横井時次 技官

土壤を水或は塩類溶液に浸すと抽出液又は懸濁液の反応が酸性を呈する土壤を酸性土壤と云ふ。茲で便宜上膠質粒子の中心部をなす固体部分の表面は水中でイオン解離をなし、その表面に介在して居り之に対し反対符号を持つ当量のイオンは其周囲

に雲状に索引されて茲に電氣的拮抗二重層が形成される。前者は質量も荷電も自由イオンを遙かに凌駕する巨大な一種のイオンであり(デューローは之をグラニューールと呼んでゐる)之に対しイオン雲をなすイオンはクローンの静電引力によつて索引されてゐる他は普通のイオンと同じ作用をなすものであつて(デューローは自由イオンと呼んでゐる)クローンの力は距離の自乗に逆比例するからイオン雲の中心に近いもの程グラニューールに強く索引されてゐるが最外層のものは通常の遊離イオンと殆ど異なることなく両者は互に遷移せるものと考へられる。

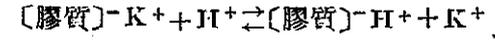
土壤コロイドのグラニューールは高分子の有機化合物(腐植)珪酸及び二三酸化物の複雑な化合物(粘土)及び両者の結合物で通常は陰に荷電しており従つて自由イオンとして陽イオンを持つてゐる。此の陽イオンは土壤学で云ふ吸着塩基に相当するものであり、又他の陽イオンとの間にイオン置換が行はれ得るから置換性塩基とも云はれるものである。土壤コロイドの帯電量はグラニューールの表面にイオン化してゐるイオンの帯電量の総量に相当し、其電位即ち電氣的二重層間の電位差のポテンシャルはグラニューールの帯電量によつて決定されるもので、実験的にはグラニューールの電場に於ける移動速度(電気泳動速度)から計算される。

土壤に付与される有機残滓即ち落葉枯梢其他の植物遗体其物の抽出液は多くは酸性で、分解するに従つてその酸性は強まつて行く、特に低温多湿の下で不完全に分解される場合には種々の有機酸が生成される。若し土壤中に之を中和する塩基が無い場合には所謂酸性腐植となつて堆積される事になる。水蘇泥炭が特に強酸性なのはこの為である。所謂酸性腐植といふものは塩基で中和されていない腐植の事で其の主体をなす腐植酸は複雑な高分子化合で3~4個のカルボキシル基(-COOH)を持ち懸濁液のPHは3.9とされてゐる。然し腐植酸からも腐植其物の中からも多数の有機酸が抽出されてゐるし腐植と粘土とは種々の割合で結合してゐるのであるが其結合の様子もよく解つて居ないが故に茲では腐植が酸性を呈する原因を唯有機酸のもつHイオンとコロイドとしての腐植の持つ吸着Hイオンによるものと考へて置く。

土壤が遊離のアルカリ又はアルカリ土類を含有してゐる場合にはこれ等は炭酸塩或は重炭酸塩の形をなして存し其の加水分解によつて水浸液の反応はアルカリ性を呈する筈である(アルカリ土壤)。然し溶脱によつて遊離のアルカリが無くなると土壤溶液の反応は遊離の炭酸によつて左右される。StebuttはCO₂の土壤溶液中の濃度は15°Cで0.045mol(0.197%)と計算して居る。炭酸の解離恒数を

$$\frac{[H^+][HCO_3^-]}{[H_2CO_3]} = 3.5 \times 10^{-7} \text{ とすると } [H^+] = \sqrt{0.045 \times 3.5 \times 10^{-7}} = 1.25 \times 10^{-4} \text{ mol/lit} \quad \text{PH} = 3.90$$

となる。然し実際には土壤の緩衝作用の為に土壤溶液のPHはもつと高い筈である。wiegnerは土壤溶液中CO₂量は0.3~0.4%でそれによる反応はPH5.22~4.95であるとして居る。塩基で飽和した土壤コロイドは天然水が炭酸を溶有してゐる場合には炭酸の解離によつて生じたHイオン、純水の場合には水の解離によつて生じたHイオンによつてその吸着塩基をイオン置換の形で溶脱されて行く。此の反応は模型的には次の式で表されてゐる。



土壤が塩基を失ふにつれて其反応が酸性になる事に関する実験的例証は無数にあるが其内次の二つを挙げて参考に資する。

Trenelの実験	Ca(OH) ₂ / Al ₂ O ₃ 分子比	PH	置換酸度
	0.31	6.8	0.0~0.1
	0.21	5.3	1.4~2.8
	0.10	4.7	9.0~11.2

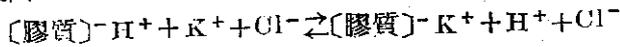
Hilkowitzの實驗

	0	$\frac{N}{100}$	$\frac{N}{50}$	$\frac{N}{25}$	$\frac{N}{10}$
土壤を洗滌したHClの濃度	0	$\frac{N}{100}$	$\frac{N}{50}$	$\frac{N}{25}$	$\frac{N}{10}$
洗滌された土壤のPH	6.6	6.6	6.0	5.3	4.3
置換酸度	0	0	0.5	5.5	9.1
加水酸度	3.5	6.8	7.5	17.5	20.1
溶出された塩基の相当量	0	1.8	2.6	3.7	10.2

土壤の水浸液の反応が酸性を呈する場合は土壤が水溶性の有機及無機の酸を含有する場合と上記の如く土壤コロイドがHイオンを吸着した場合である。但し後に記する如く純水中に於て測られる吸着Hイオンはイオン雲の最外層をなし従つてグラニューールに最も弱く索引されて居るHイオンのみである。此事は土壤の純水の懸濁液のHイオン濃度が常に上澄液のそれより大である事からも類推される。

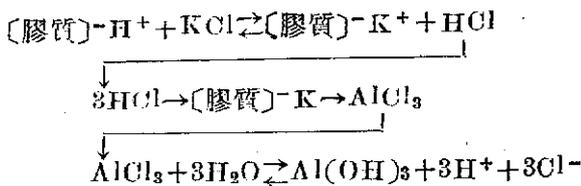
上記の如き水浸液に現れる酸性を土壤の真酸性又は活酸性と云ふ。

純水で浸出されないHイオンは強酸の塩の溶液で処理すると塩の陽イオンとの間にイオン置換が行はれ其結果として溶液中に浸出される。此の反応は模型的に次の式で表される。



従つて土壤の水浸液の反応より中性塩溶液の浸出液の反応の方が常に酸性が強く極端な場合には水溶液は中性で中性塩溶液の浸出液のみが酸性反応を呈する場合がある。一般に土壤を塩類溶液で処理した場合に現れる酸性を潜酸性と云ひ特に強酸塩の溶液で処理した場合に現れる酸液を置換酸性と云つて次の如く酸性を区別する

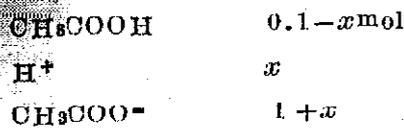
置換酸度に就ては大工原博士の研究が有名である。特殊な湿地又は湛水下の土壤以外の通常の土壤を中性塩の溶液で浸出すると其の中には常にアルカリ溶液で滴定したHイオンの量と当量のAlイオンが浸出されてゐる所から置換酸性は浸出液中のアルミニウム化合物の加水分解の結果生ずるHイオンに依るものと説明されてゐる。Alイオンの溶出される機構に就て初め大工原博士はAlイオンは直接浸出液の陽イオンと置換されて浸出されるものと考へたが最近では初めに陽イオンで置換浸出されたHイオンが更にグラニューールに働きAlを溶出すると云ふ意見に傾いてゐる。即ち模型的に表すと



然しコロイドに吸着されているHイオンと中性塩溶液との間の置換は平衡反応であり加ふるにHイオンは他の陽イオンに比し置換侵入力が強いから完全解離をする強酸の塩の溶液を用いたのでは正反応が進行して液中のHイオンの濃度が増加すると逆反応が進行してHイオンの一部は再びイオン雲中に浸入してグラニューールに捕獲される。従つて強酸の塩を用いたのでは吸着Hイオンを完全に塩基で置換浸出する事は不可能である。此の場合弱酸の塩例へば醋酸ソーダを用いると $[\text{膠質}]^-\text{H}^+ + \text{CH}_3\text{COONa} \rightarrow [\text{膠質}]^-\text{Na}^+ + \text{CH}_3\text{COOH}$ となり置換によつて生じたHイオンは直ちに多量に存する CH_3COO^- と結合して不解離の醋酸となりイオン反応系から除去されるから上の反応は連続的に右方に進行し吸着Hイオンを殆ど完全に塩基で置換浸出する事が出来る訳である。従つて弱酸塩溶液の浸出液の反応は常に強酸塩溶液のそれより酸性が強く極端な場合には強酸塩の溶液で処理した場合には其浸出液の反応が中性で弱酸塩溶液のそれのみが酸性を現す土壤があり得る。此の種の潜酸性を特に加水酸性と云つて前の置換酸性と区別する。

Hイオンは他の陽イオンに比し、置換侵入力が強いから溶脱の初期に置換侵入したHイオン程イオン雲の内層に侵入し従つて固くグラニューールに索引保持されるが溶脱が進むにつれて侵入するHイオンは次第にイオン雲の外層に向つて分布してゆき終末期のものはその最外層に位置するものと考へられる。而して上記三種の酸性の原因をなすHイオンの中真酸性即ち純水中に遊離するHイオンはイオン雲の最外層に拡散的に保持されているものであり加水酸性即ち弱酸塩の溶液中に置換浸出されるHイオンは最内層のものから最外層のものまで総てに亘つて居り強酸塩の溶液中に置換浸出されるHイオンは中間のものから最外層のものまでを含むものと

考
 脱
 真
 の
 酸
 用
 一
 事
 され
 なる。
 が生成
 土壤の酸性化の初期に現れる酸性であり次の時期には置換酸性が現れ真酸性は溶
 脱の
 真酸性
 の
 酸
 用
 一
 事
 され
 なる。
 が生成
 土壤の酸性化の初期に現れる酸性であり次の時期には置換酸性が現れ真酸性は溶
 脱の
 真酸性
 の
 酸
 用
 一
 事
 され
 なる。
 が生成



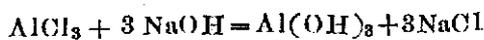
$$\therefore \frac{[\text{H}^+][\text{CH}_3\text{COO}^-]}{[\text{CH}_3\text{COOH}]} = \frac{x(1+x)}{0.1-x} = 1.85 \times 10^{-5}$$

xは1及0.1に比し極めて小さいから(1+x)及(0.1-x)のxを無視すると上式は

$$\begin{aligned} x/0.1 &= 1.85 \times 10^{-5} & x &= 1.85 \times 10^{-6} \\ \log x &= \log 1.85 + \log 10^{-6} = 0.12 - 6 = -5.88, & -\log x &= \log \frac{1}{x} = \log \frac{1}{[\text{H}^+]} = \text{PH}, & -\log x &= 5.88 \end{aligned}$$

故にPH=5.88即ち上の浸出液の反応をPHで表すと5.9となり酸性は非常に弱い事になるが之をN/10 NaOH
 溶液中で中和点まで滴定すると100ccを要するから滴定酸度 $Y_1=100$ と云ふ事になる。

置換酸性の場合KCl溶液で浸出したとすると浸出液は AlCl_3 の稀薄溶液に他ならない。 Al イオンは稀薄溶液中
 に於てはPH4.1で $\text{Al}(\text{OH})_3$ とし沈澱し始めるから Al イオンと $\text{Al}(\text{OH})_3$ が共存し得るPHは4.1である。而し
 てPH4.1以上に存する H イオンはコロイドより Al を溶出する為に消費されるから易溶性の礬土化合物が過剰
 に存する限り溶液のPHは4.1を下る事はない。従つてPHで表される置換酸性は4.1を甚しく下る事はあり得
 ない。然しPHが4.1より高い溶液中では Al はイオンとして存在しえないから浸出液の反応がPH4.1以上の
 場合には Al は浸出されない。従つて浸出液のPHが4.1より高い場合に測られる H イオンは浸出液の陽イオン
 によつてコロイドから直接置換浸出された H イオンである。但しPH4.1と云うとHClの0.00008規定に相等す
 る酸であるからN/10NaOHで滴定する場合には殆ど中性として測られる。従つて浸出液の反応がPH4.1以上
 の場合には置換酸性は滴定酸度としては殆ど現れ得ない。反応がPH4.1の浸出液をアルカリ液で滴定する場
 合には次式に示す様にそこに存在する総ての Al イオンを $\text{Al}(\text{OH})_3$ として沈澱するに必要な量が消費され Al
 が総て $\text{Al}(\text{OH})_3$ として沈澱し終ると殆ど同時に滴定は完成される事になる。



故に畑地土壤に於てはその置換性水素イオンの濃度はPH4.1を甚しく下る事はないが其滴定酸度は浸出され
 た Al イオンの量と当量のアルカリ液の耗数で表されるから腐植や粘土の性状に従つて種々の値を取り得る事
 になるのである。

次に或種の水田土壤或は泥炭土の如く二価の鉄イオンを含有する場合に就て考へると Fe はPH5.5で沈澱し
 始めるものであつて過剰に存する H イオンは第二鉄化合物に作用して Fe^{++} を生ずるのに消費されるから第二
 鉄化合物の存する限り此種の土壤の中性塩浸出液のPHは5.5を甚しく下る事はあり得ない。然し之をアルカ
 リ液で滴定する場合には Fe が総て $\text{Fe}(\text{OH})_2$ として沈澱するに必要な量が消費されるからアルカリの量は Fe の
 量と当量でなくてはならない。従つて滴定酸度は粘土と腐植の性状によつて種々の値を取り得る事になる。

此現象は土壤が還元状態にあつて第二鉄化合物が安定な条件下に於てのみあづかり得るものであるから一般
 に水田土壤と特殊な畑地土壤に於て見られる現象である。大杉博士は畑地土壤に現れる此種の現象を特異酸性
 と称してゐる。大杉博士は京都府下宇治の荒廢した茶園土壤の表土を灌水状態に保つた場合に就て報告して
 る。

水を加へて放置した日数	P H	Y ₁	浸出されたFe ²⁺ (mg)	浸出されたAl ³⁺ (mg)
0 週	3.6	13.8	0	48.0
1 "	3.9	14.9	44.4	24.1
2 "	4.1	17.1	90.3	2.2
4 "	4.8	20.8	117.3	1.9

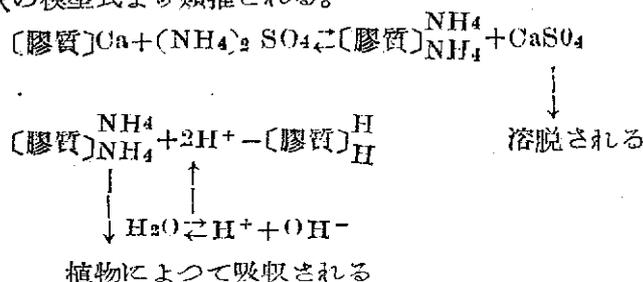
茲に表示されていないが酸化還元電位は日数の経過と共に低下してゆく。上表で明らかな様に日数の経過と共に還元状態が甚だしくなりFe²⁺が溶出されて来ると其の緩衝作用によつてPHは高くなりPHが4.1になるとAl³⁺は殆ど溶出して来なくなる。Y₁は始はAl³⁺の量により後にはFe²⁺の量によつて決定される茲ではFeの溶出量が日数の経過と共に急増するからそれによつてY₁も増加して居る。

特異酸性土壤の滴定酸度はPHの高い状態に於て測定されるものであり加水酸度が醋酸—醋酸ソーダの緩衝作用の下に測られる滴定酸度であるのに対してFe²⁺の緩衝作用の下に測られる滴定酸度であつて強酸の塩を用いて測定した一種の加水酸度と考へる事が出来るであらう、特異酸性は畑地土壤としては特異な現象であるが開田後間もない水田や特に瘠薄な水田の土壤を除けば正規の水田土壤には当然与る現象である。

上記した如く土壤の酸性は吸着塩基がHイオンで置換される事によつて現れるものであるから土壤が水で洗滌される事によつて酸性土壤が生成される。従つて土壤が水で洗滌される事が甚しい程土壤の酸性化は激しく進行し雨量の多い所程酸性土壤は生成され易い。又水の滲透性の大きい土壤程酸性化され易い。此場合

台滲透水のHイオン濃度が大なる程塩基の溶脱が強力に行れる訳である。水の解離恒数 $K_w = \frac{[H^+][OH^-]}{[H_2O]}$

は温度の上昇と共に大きくなり更に高温の所程有機物の分解が速かて土壤水は多量の炭酸ガスを溶有し其解離によつて生じた多量のHイオンを有するから土壤の酸性化は強烈に行はれる。従つて或程度まで温暖多雨の所に酸性土壤は広く分布する。然し一方土壤に附与される有機物は低温で水湿が過剰な場合には不完全な分解をなし多くの有機酸を生ずるから冷温多湿の所には有機質の酸性土壤が広く分布する。酸性土壤生成の特殊な場合としては土壤溶液が火山の硫気孔や製錬所の煙から来る亜硫酸ガスを溶有している場合、或は土壤中に多量の硫化物が含まれていてそれが酸化されて硫酸を生じた場合(硫化鉄は硫酸鉄となりその加水分解によつてHイオンを生ずる)等があげられる。更に酸性肥料の連用が土壤を酸性化させる事は古くから知られている。それは次の模型式より類推される。

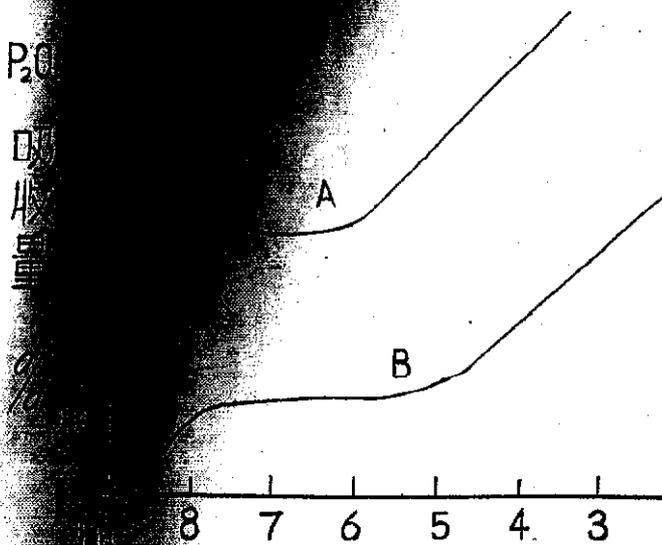


更に消極的な原因として耕地に対する一種の塩基の給源であり又土壤の反応に対する緩衝剤である堆肥の補給の不足が考へられる。上述した如く酸性土壤は塩基欠乏土壤であつて塩基缺乏の程度即ち塩基不飽和度が大きくなる程酸性が強くなるものである。然し一つの土壤に就ては塩基不飽和度の大小と酸性の強弱との間には平行関係が認められるが異なる土壤間には平行関係は決して成立しない。それは反応の絶対値例へば滴定酸度は土壤の吸着Hイオンの量に比例するものであつて置換容量の大なる土壤は多量のHイオンを吸着し得るから究極に於て強度の酸性土壤になり得る訳であるが元來置換容量の小さい土壤では例へば塩基の総てを失つてもそこに侵入するHイオンの総量が少いのであるから如何に塩基缺乏の度が大きになつても強度の酸性土壤には成り得ないからである。従つて二つの土壤の滴定酸度が同じであつても両者の塩基缺乏の程度が等しいとは限らない。置換容量の非常に小さい土壤では其の酸性が極めて弱く殆んど中性に近い数値で表されていても其の置換塩基は極度に溶脱されて居るものである。従つて滴定酸度のみを知つたのでは其の土壤がどの程度に塩基の溶脱が進行した土壤であるかと云う事を推知する事は不可能である。土壤の表す反応の本質を知る為には常に其の反応だけでなく其の土壤の置換容量及び置換性塩基の量までは明らかに知る事が絶対に必要である。唯土壤の反応だけを調べて酸性が強いから石灰を施用しなくてはならないとか反応が中性に近いから石灰施用の必

要が...なくてはならない。

土...比の大小との間には平行関係が認められている。腐植の置換容量...められているが、それと腐植の性状との間に如何なる関係がある...問題が残されているのではないかと考へている。粘土の場合には...極めて小さく従つて塩基が極度に溶脱されても非常に僅かな酸性しか...性になつただけで礫土が活性化してくる点で置換容量の大なる土壤が強...

土壤...に就ては有効石灰の缺乏、Hイオン及び Alイオンの害作用が挙げられる...の害作用は前に挙げた様に珪礫比の小さい土壤が僅かに酸性に傾いた場合は...を呈した場合に匹敵するであらう。更に土壤酸性の害は土壤の磷酸吸収力が...する事にあるとされている。それに関しては塩入博士の詳密な研究があるが、...略化すると珪礫比の小さい土壤は元来磷酸吸収力が強い上に僅かに酸性化した...従つて此種の土壤は常に反応を中性に極めて近く保たれて居ないと作物は磷酸...得ない事になるのである。筆者の行つた簡単な実験結果(風乾土)を模型化して



Aは珪礫比1に近い火山灰心土(山梨県八ヶ嶽山麓) Bは珪礫比2に近い強埴土(山梨県芽ヶ嶽山麓) Aは Ph7 を僅かに越すと 磷酸吸収力が顕著に増大するが Bは Ph5 附近からそれが漸増する。従つて Aは其反応を常に Ph7 に近く保たなければ作物の正常な生育が望めない土壤である。ポット試験の結果此土壤は石灰を加へて其反応を Ph6 以上に保たない限り大麦は絶対に出穂するに到らない。以上列記したところから酸性土壤の改良には単に Ph や滴定酸度の大小のみを示標したのでは不十分で土壤其物の本質を明かにしなくては完全な方策が建てられないことが解るのであ

らう。如く土壤の反応と作物の生育との関係は直接的なものではなく土壤の本質を通じて初めて関連が認められるものである事も解るのであろう。土壤酸性化の難易は其母材と密接な関係が認められる。酸性岩に由来する土壤には酸性土壤が多く塩基性岩に由来する土壤には酸性土壤が少いことは統計的にも明かにされている。酸性岩は化学的には珪酸とアルカリ塩基に富みアルカリ土類が少く鉱物的には石英に富んだ岩石である。アルカリ塩基はアルカリ土類より風化によつて溶脱され易いものであるから酸性岩に由来する土壤は塩基に缺乏し易く、又石英に富んでいることは土性が砂質に傾き従つて水の滲透性が大きい等の理由から酸性岩に由来する土壤には酸性土壤が多い事になる。而して長石類も珪酸に富んでいるから珪礫比の大きい従つて置換容量の大きい粘土が生成されるものと想像される。従つて強酸性土壤も酸性岩に由来した土壤に多い。(此点に関しては未だ統計的に調査した事はない。唯一二の実例を知つていただけである)之に反して塩基性岩は元来アルカリ土類に富んで居りこれに由来する土壤は埴質に傾くが故に塩基は溶脱され難い。従つて酸性土壤になり難い。長石も塩基性で珪酸に乏しいから珪礫比の小さい従つて置換容量の小さい粘土が生成され易い。従つて強酸性土壤にはなり得ないと考へられる。此極端な例は安山岩質火山灰土及軽石土で後者は音地或は味噌土と云はれる不良土である。

(以上早急の間に書き上げたのであつて中に不十分な所や許され難い理論の矛盾があるが、之に就ては後日更訂する予定である。筆者)

附(2) 都道府県別推定酸性土壌面積

其の1 水田の部

都道府県別	水田総面積	微酸性 (Y ₁ 1~3)		弱酸性 (Y ₁ 3~6)		強酸性 (Y ₁ 6~15)	
		面積	割合	面積	割合	面積	割合
北海道	155,018	53,835	34.7	46,838	30.2	32,621	21.0
青森	69,216	19,754	28.6	19,935	28.9	18,015	26.0
岩手	61,756	18,980	30.8	16,623	26.9	12,558	20.4
宮城	100,824	27,243	27.1	32,719	32.5	30,608	30.4
秋田	98,193	23,605	24.0	23,737	24.1	29,489	30.0
山形	97,484	44,344	45.5	28,043	28.8	11,674	12.0
福島	98,356	52,335	53.2	15,270	15.5	5,625	5.7
茨城	92,791	18,023	19.4	2,700	2.9	958	1.1
栃木	74,483	16,919	22.7	1,116	1.5	32	0.1
群馬	33,008	2,324	7.0	396	1.2	27	0.1
埼玉	64,746	27,198	42.0	2,675	4.1	650	1.0
千代田	107,821	17,225	16.0	2,308	2.1	—	—
東京	6,901	260	3.7	—	—	80	1.2
神奈川	16,401	13,640	83.2	1,452	8.9	400	2.4
新潟	176,832	62,423	35.0	55,787	31.3	38,450	21.5
富山	75,914	19,048	25.1	6,665	8.8	5,614	7.4
石川	49,146	15,174	30.9	6,925	14.1	3,161	6.4
福井	44,752	15,223	34.0	4,230	9.5	1,583	3.5
山梨	17,476	1,593	9.1	198	1.1	54	0.3
長野	73,721	17,983	24.4	6,087	8.2	3,083	4.2
岐阜	61,651	10,736	17.4	2,984	4.9	1,318	2.1
静岡	53,086	17,546	33.1	4,519	8.5	905	1.7
愛知	84,202	26,850	31.8	8,768	10.4	2,864	3.4
三重	66,276	25,000	37.8	8,660	13.0	3,560	5.4
滋賀	64,653	22,731	35.2	7,206	11.1	3,547	5.5
京都	36,416	16,925	46.5	6,636	18.2	2,382	6.5
大阪	34,620	17,190	49.4	7,655	22.1	4,133	11.9
兵庫	97,724	35,023	36.0	11,320	11.4	2,942	3.0
奈良	28,623	8,158	28.5	3,835	13.4	1,587	5.5
和歌山	27,677	8,836	32.0	2,717	9.8	585	2.1
鳥取	31,637	20,249	64.0	5,584	17.6	2,139	6.8
島根	48,170	16,937	35.2	20,153	41.8	6,353	13.2
岡山	82,218	40,791	49.5	12,877	15.7	4,341	5.3
広島	67,606	23,491	34.7	6,921	10.3	1,651	2.4
山口	67,482	16,180	24.0	4,540	6.3	2,220	3.3
徳島	26,925	12,594	46.8	1,952	7.2	669	2.5
香川	36,923	10,596	28.8	2,302	6.2	659	1.8
愛媛	40,089	14,199	34.5	2,251	5.6	440	1.1
高松	33,148	10,805	32.7	5,214	15.8	2,696	8.1
福岡	103,452	20,076	19.4	2,845	2.8	949	0.9
佐賀	51,055	26,642	52.2	6,919	13.5	2,733	5.4
長門	29,493	9,639	32.7	4,741	11.1	2,855	9.7
熊本	76,833	29,301	38.2	8,210	10.7	2,972	3.8
大分	56,580	16,306	28.5	6,558	11.6	1,750	3.1
宮崎	42,881	22,654	52.8	12,089	28.3	4,201	9.8
鹿児島	52,041	17,683	34.6	4,678	9.1	1,876	3.7

極強酸性 (Y ₁ 15以上)			合 計		弱酸性以上 (Y ₁ 3以上)		強酸性以上 (Y ₁ 6以上)				
面	積	割合	面	積	割合	面	積	割合	面	積	割合
	6,596	4.3	137,890	90.2	86,055	55.5	39,217	25.3			
	1,955	2.8	59,659	86.3	39,905	57.7	19,970	28.8			
	908	1.4	49,069	79.5	30,089	43.7	13,466	21.8			
	4,565	4.5	95,135	94.5	67,892	67.4	35,173	34.9			
	6,532	6.6	83,363	84.7	59,758	60.7	36,021	36.6			
	620	0.6	84,681	86.9	40,337	41.4	12,294	12.6			
	564	0.5	73,794	74.9	21,459	21.7	6,189	6.2			
	35	0.0	21,716	23.4	3,693	4.0	993	1.1			
	—	—	18,067	24.3	1,148	1.6	32	0.1			
	—	—	2,747	8.3	423	1.3	27	0.1			
	100	0.2	30,623	47.3	3,425	5.3	750	1.2			
	—	—	19,533	18.1	2,308	2.1	—	—			
	20	0.3	360	5.2	100	1.5	100	1.5			
	128	0.8	15,620	95.2	1,980	12.1	528	3.2			
	7,995	4.5	164,655	92.3	102,232	57.3	46,445	26.0			
	1,641	2.2	32,968	43.5	13,920	18.4	7,255	9.6			
	413	0.8	25,673	52.2	10,499	21.3	3,574	7.2			
	188	0.4	21,224	47.4	6,001	13.4	1,771	4.0			
	49	0.3	1,894	10.8	301	1.7	103	0.6			
	247	0.3	27,400	37.1	9,417	12.7	3,330	4.5			
	241	0.4	15,279	24.8	4,543	7.4	1,559	2.5			
	180	0.3	23,150	43.6	5,604	10.5	1,085	2.0			
	303	0.4	38,758	46.0	11,935	14.2	3,167	3.8			
	120	0.2	37,340	56.4	12,340	18.6	3,680	5.6			
	285	0.4	33,769	52.2	11,038	17.0	3,832	5.9			
	175	0.5	26,118	71.7	9,193	25.2	2,557	7.0			
	403	1.2	29,381	84.6	12,191	35.2	4,536	13.1			
	306	0.3	49,591	50.7	14,568	14.7	3,248	3.3			
	110	0.4	13,690	47.8	5,532	19.3	1,697	5.9			
	22	0.1	12,160	44.0	3,324	12.0	607	2.2			
	103	0.3	28,075	88.7	7,826	24.7	2,242	7.1			
	1,094	2.3	44,537	92.5	27,600	57.3	7,447	15.5			
	29	0.0	58,038	70.5	17,247	21.0	4,370	5.3			
	213	0.3	32,276	47.7	8,785	13.0	1,864	2.7			
	140	0.2	23,080	34.3	6,900	10.3	2,360	3.5			
	—	—	15,215	56.5	2,621	9.7	669	2.5			
	41	0.1	13,598	36.9	3,002	8.1	700	1.9			
	—	—	16,890	41.2	2,691	6.7	440	1.1			
	—	—	18,715	56.6	7,910	23.9	2,696	8.1			
	122	0.1	23,992	23.2	3,916	3.8	1,071	1.0			
	352	0.7	36,646	71.8	10,004	19.6	3,085	6.1			
	510	1.7	17,745	60.2	8,106	27.5	3,365	11.4			
	354	0.5	40,837	53.2	11,536	15.0	3,326	4.3			
	—	—	24,614	43.2	8,308	14.7	1,750	3.1			
	21	0.1	38,965	91.0	16,311	38.2	4,222	9.9			
	97	0.2	24,334	47.5	6,651	13.0	1,973	3.9			

其の2 畑の部

都道府県別	畑総面積	微酸性 (Y1 1~3)		弱酸性 (Y1 3~6)		強酸性 (Y1 6~15)	
		面積	割合	面積	割合	面積	割合
北海道	612,929	231,486	37.7	78,818	12.9	53,975	8.8
青森	60,015	17,932	29.9	6,765	11.3	3,146	5.2
岩手	67,355	12,986	19.2	5,466	8.1	5,507	8.1
宮城	39,135	17,585	45.0	8,784	22.5	5,161	13.2
秋田	23,410	4,779	20.4	3,667	15.7	5,624	24.0
山形	34,747	13,052	37.7	5,203	15.0	4,694	13.5
福島	80,579	35,559	44.1	7,235	9.0	2,884	3.6
茨城	120,426	22,631	18.8	4,818	4.0	1,762	1.5
栃木	62,322	15,058	24.2	2,037	3.3	270	0.4
群馬	71,612	5,264	7.3	399	0.6	169	0.2
埼玉	83,207	25,839	31.1	3,285	3.9	875	1.1
千葉	83,274	10,331	12.4	628	0.7	—	—
東京	24,443	1,320	5.4	440	1.8	220	0.9
奈良	34,830	30,520	87.6	3,261	9.3	632	1.8
新潟	47,189	16,402	34.9	11,077	23.4	7,959	16.9
富山	7,987	1,007	12.6	885	11.1	1,107	13.8
石川	11,391	2,937	26.2	1,967	17.2	1,924	16.9
福井	6,664	1,657	24.9	2,248	33.7	1,101	16.5
山梨	32,658	1,613	4.9	578	1.8	327	1.0
長野	88,075	12,272	14.0	4,254	4.8	1,984	2.2
岐阜	28,568	5,572	19.5	3,367	1.8	2,511	8.8
静岡	60,063	13,149	21.9	7,534	12.6	4,345	7.2
愛知	50,326	10,186	20.2	4,436	8.8	3,589	7.1
三重	25,765	5,480	21.3	2,180	8.5	1,760	6.9
滋賀	7,158	1,292	18.0	854	11.8	958	13.4
京都	12,260	5,064	41.3	2,483	20.3	1,171	9.6
大阪	7,988	2,373	29.7	1,131	14.2	2,185	27.3
兵庫	20,134	4,600	22.9	1,740	8.7	3,179	15.7
奈良	8,138	1,493	18.4	1,100	13.5	939	11.5
和歌山	18,394	2,256	12.2	872	4.7	1,238	6.7
鳥取	12,931	3,908	30.3	1,619	12.5	2,038	15.8
島根	16,518	4,490	27.1	1,515	9.2	1,754	10.7
岡山	29,598	6,344	21.4	2,657	9.0	1,499	5.1
広島	25,226	6,235	24.7	1,535	6.1	965	3.8
山口	14,417	771	5.3	435	3.0	495	3.5
徳島	21,039	7,983	38.0	2,095	9.9	176	0.8
香取	11,864	3,213	27.1	1,695	14.3	774	6.5
愛媛	37,499	5,560	14.8	1,514	4.0	1,408	3.7
高松	31,079	2,972	9.6	1,255	4.0	1,094	3.5
福岡	30,328	6,860	22.7	2,497	8.0	1,000	3.3
佐賀	13,510	4,086	30.2	1,379	10.2	1,232	9.1
長門	45,362	11,420	25.2	2,089	4.6	995	2.2
熊野	77,480	22,105	28.6	7,016	9.1	5,011	6.5
大分	34,288	6,664	19.4	4,055	11.8	1,810	5.3
宮崎	42,096	21,485	51.1	4,850	11.5	1,771	4.2
鹿児島	88,062	13,878	15.7	3,500	4.0	1,385	1.6

極強酸性 (Y1 15~)			計		弱酸性以上 (Y1 3以上)		強酸性以上 (Y1 6以上)		
面積	割合	面積	割合	面積	割合	面積	割合	面積	割合
15,113	2.5	379,392	61.9	147,906	24.2	69,088	11.3		
445	0.7	28,288	47.1	10,356	17.2	3,591	5.9		
1,354	2.1	25,313	37.5	12,327	18.3	6,861	10.2		
869	2.2	32,399	82.9	14,814	37.9	6,030	15.4		
2,670	11.4	16,740	71.5	11,961	51.1	8,294	35.4		
1,214	3.5	24,163	69.7	11,111	32.0	5,908	17.0		
1,031	1.3	46,709	58.0	11,150	13.9	3,915	4.9		
48	0.0	29,259	24.3	6,628	5.5	1,810	1.5		
—	—	17,365	27.9	2,307	3.7	270	0.4		
—	—	5,832	8.1	568	0.8	169	0.2		
195	0.2	30,194	36.3	4,355	5.2	1,070	1.3		
—	—	10,959	13.1	628	0.7	—	—		
20	0.1	2,000	8.2	680	2.8	240	1.0		
45	0.2	34,458	98.9	3,938	11.3	677	2.0		
3,447	7.3	38,885	82.5	22,483	47.6	11,406	24.2		
2,253	28.2	5,252	65.7	4,245	53.1	3,360	42.0		
651	5.7	7,529	66.0	4,542	39.8	2,575	22.6		
417	6.3	5,423	81.4	3,766	56.5	1,518	22.8		
72	0.2	2,590	7.9	977	3.0	399	1.2		
239	0.3	18,749	21.3	6,477	7.3	2,223	2.5		
457	1.6	11,907	41.7	6,335	22.2	2,968	10.4		
2,563	4.3	27,591	46.0	14,442	24.1	6,908	11.5		
579	1.2	18,790	37.3	8,604	17.1	4,168	8.3		
240	0.9	9,660	37.6	4,180	16.3	2,000	7.8		
—	—	3,104	43.2	1,812	25.2	958	13.4		
187	1.5	8,905	72.7	3,841	31.4	1,358	11.1		
958	12.0	6,647	83.2	4,274	53.5	3,143	39.3		
93	0.5	9,612	47.8	5,012	24.8	3,272	16.2		
54	0.7	3,586	44.1	2,093	25.7	993	12.2		
259	1.4	4,625	25.0	2,369	12.8	1,497	8.1		
249	1.9	7,814	60.5	3,906	30.2	2,287	17.7		
333	2.0	8,092	49.0	3,602	21.9	2,087	12.7		
1,415	4.8	11,915	40.3	5,571	18.8	2,914	9.9		
32	0.1	8,767	34.7	2,532	10.0	997	3.9		
163	1.1	1,864	12.9	1,093	7.6	658	4.6		
—	—	10,254	48.7	2,271	10.7	176	0.8		
101	0.1	5,783	48.8	2,570	21.7	875	7.4		
413	1.1	8,895	23.6	3,335	8.8	1,821	4.8		
120	0.4	5,441	17.5	2,469	7.9	1,214	3.9		
115	0.4	10,472	34.4	3,612	11.7	1,115	3.7		
580	4.3	7,277	53.8	3,191	23.6	1,812	13.4		
400	0.9	14,904	32.9	3,484	7.7	1,395	3.1		
946	1.2	35,078	45.4	12,973	16.8	5,957	7.7		
308	0.9	12,837	37.4	6,173	18.0	2,118	6.2		
52	0.1	28,158	66.9	6,673	15.8	1,823	4.3		
240	0.3	19,003	21.0	5,125	5.9	1,625	1.9		

其の3 合計之部

都道府県別	耕地総面積	微酸性 (Y1 1~3)		弱酸性 (Y1 3~6)		強酸性 (Y1 6~15)	
		面積	割合	面積	割合	面積	割合
北海道	767,947	285,321	37.2	125,656	16.3	86,596	11.3
青森	129,231	37,686	29.1	26,700	20.7	21,161	16.3
岩手	129,111	31,966	24.9	22,089	17.1	18,065	14.0
宮城	139,959	44,828	32.1	41,503	29.7	35,769	25.5
秋田	121,603	28,384	23.3	27,404	22.5	35,113	28.9
山形	132,231	57,396	43.5	33,246	25.2	16,360	12.4
福島	178,935	87,894	49.2	22,505	12.6	8,509	4.7
茨城	213,217	40,654	19.1	7,518	3.5	2,720	1.3
栃木	136,805	31,977	23.4	3,153	2.3	302	0.2
群馬	104,620	7,588	7.3	795	0.8	196	0.1
埼玉	147,953	53,037	36.0	5,960	4.0	1,525	1.0
千葉	191,095	27,556	14.4	2,936	1.5	—	—
東京	31,344	1,580	5.0	440	1.4	300	0.9
神奈川	51,231	44,160	86.2	4,713	9.2	1,032	2.0
新潟	223,021	78,825	35.4	66,864	30.0	46,409	20.8
石川	83,901	20,055	23.9	7,550	9.0	6,721	8.0
福井	60,537	18,161	30.0	8,892	14.7	5,085	8.4
山梨	51,416	16,880	32.8	6,478	12.6	2,684	5.2
長野	50,134	3,206	6.4	776	1.5	381	0.8
岐阜	161,796	30,255	18.7	10,341	6.4	5,067	3.1
静岡	90,219	16,308	17.9	6,351	7.1	3,829	4.2
愛知	113,149	30,695	27.1	12,053	10.7	5,250	4.6
三重	134,528	37,036	27.5	13,204	9.8	6,453	4.8
滋賀	92,041	30,480	33.1	10,840	11.7	5,320	5.8
京都	71,811	24,023	33.5	8,060	11.2	4,505	6.3
大阪	48,676	21,989	45.2	9,119	18.8	3,553	7.3
兵庫	42,608	19,593	45.9	8,786	20.6	6,318	14.8
奈良	117,858	39,623	33.7	13,060	11.1	6,121	5.2
和歌山	36,761	9,651	26.3	4,935	13.4	2,526	6.9
徳島	46,071	11,092	24.1	3,589	7.8	1,823	4.0
香川	44,568	24,157	54.3	7,203	16.2	4,177	9.4
岡山	64,688	21,427	33.1	21,668	33.6	8,107	12.5
広島	111,816	47,135	42.1	15,534	13.9	5,840	5.2
山口	92,832	29,726	32.0	8,456	9.2	2,616	2.8
徳島	81,899	16,951	20.7	4,975	6.1	2,715	3.3
高松	47,964	20,577	43.0	4,047	8.4	845	1.8
愛媛	48,787	13,809	28.4	3,997	8.2	1,433	2.9
高知	77,588	19,759	25.4	3,765	4.9	1,848	2.4
福岡	64,227	13,777	21.5	6,469	10.1	3,790	5.9
佐賀	133,780	26,936	20.1	5,342	4.0	1,949	1.5
長門	64,595	30,728	47.6	8,298	12.8	3,965	6.2
熊本	74,855	21,059	28.2	6,830	9.1	3,850	5.1
大分	154,313	51,406	33.3	15,226	9.9	7,983	5.2
宮崎	90,868	22,970	25.3	10,613	11.7	3,560	3.9
鹿児島	84,977	44,139	51.9	16,939	19.9	5,972	7.0
沖縄	140,103	31,561	22.5	8,178	5.9	3,261	2.3

